

# 鳥取県がん検診実績報告書

平成23年 3 月

鳥 取 県  
鳥取県健康対策協議会

## はじめに

昭和46年1月、健康に関する諸問題の調査研究と県民健康の保持増進に寄与することを目的に、鳥取県、鳥取大学医学部、鳥取県医師会の三者構成で「鳥取県健康対策協議会（略称：健対協）」が発足し、平成23年で40周年を迎えました。

さて、昭和58年1月に老人保健法が施行され住民健診がスタートし、健診の精度管理のために鳥取県成人病検診管理指導協議会が設置されました。昭和63年度からは健対協がその任務を一手に引き受けることとなり、各専門委員会と各部会とを合同で開催し、検診データの分析、検討などを行ってまいりました。健診の実施主体は各市町村ではありますが、健診のよりよい方向性を目指して、健対協は日々、議論を深めております。

平成に入ると医療制度改革が行われ、老人保健法は平成19年度で廃止し、平成20年度から高齢者の医療の確保に関する法律が施行されました。これにより、40歳以上の国民を対象とした糖尿病等の生活習慣病に着目した「特定健診・特定保健指導」が開始されると共に市町村が行うがん検診事業は健康増進法に位置づけられることとなりました。

平成19年4月にがん対策基本法が施行されると、平成24年度にがん検診受診率50%達成を目標に掲げた「がん検診推進計画」が策定されましたが、達成が非常に難しい状況です。特に、特定健診が始まってからは、市町村のがん検診とセットで受診しにくくなったこともあり、受診率が中々上昇しておりません。

そのような状況の中、職域の人たちの検診率もあまり増加していないことや実績把握も難しいことを受けて、県健康政策課においては平成20年度より人間ドックを実施している医療機関を対象に職場等において実施されるがん検診（人間ドック含む）の受診者数を調査し、受診率50%達成に向けて実態把握に努めているところです。

また、平成21年度から、国では女性特有のがん対策として、子宮がんと乳がん検診の無料クーポン券による検診事業が実施され、加えて鳥取県では、休日にごがん検診を受診できる環境整備を行いました。

乳がん検診では平成17年からマンモグラフィによる検診が始まり、がん発見率が格段に上昇しており、子宮がん検診では20歳以上に対象を拡大するとともに、細胞診の判定方法をベセスダ方式に変更したり、子宮頸がん予防ワクチン接種が始まるなど、時代とともに検診のスタイルや予防も変化してきております。

胃がん検診で、鳥取県では、平成12年9月より、全国に先駆けて独自に、一次検診に内視鏡検診を導入しました。胃透視との死亡率における有意差を証明することに多少の苦労はしておりますが、がん発見率は高く、住民には定着してきており、全国的に評価されております。

肺がん検診では、E判定を多くしてチェック率を上げ、がん発見率の向上に努めており、米子市では平成23年度から医療機関での肺がん検診が実施されることとなり、受診率とがん発見率の向上が期待されています。

大腸がん検診で、鳥取県では、平成15年から検体の提出方法について「一日2個法」を推奨してきましたが、国が、平成23年度に行う無料クーポン券による検診事業の指針として、「2日法」を示したことから、見直しを行う予定であります。

肝がん検診は、国の検診制度が始まる前の平成7年から、全県的にスタートしました。肝がんはウイルスによって引き起こされることが明らかになりましたので、県内では、肝炎ウイルス検査を国と県の事業を併用して実施しています。累積の受診率は50%を超えており、現在は、B型とC型の肝炎ウイルス陽性者のフォローアップ事業を中心に実施しております。平成23年度から国の要綱に基づいて、協議会に新たに「患者又は遺族」のメンバーも加わることとなり、議論が進められることになっています。

このように、健対協事業はがん検診対策を中心に、行政と医師会、鳥取大学が密接に連携、協力して事業を展開しており、形として目には見えませんが、県民の健康のための一助となっているものと確信しております。

平成22年6月の鳥取県議会において、議員の発議により、鳥取県がん対策推進条例が制定され、県や市町村、更には保健医療従事者や県民の責務がそれぞれ明記されました。県民には、がん予防の生活習慣やがん検診を受診すること、医療従事者には、重症化を減らしたり、安心の療養生活を送ることなど、総合的ながん対策を推進することが盛り込まれており、今後の成果に期待したいところであります。

平成23年3月

鳥取県健康対策協議会

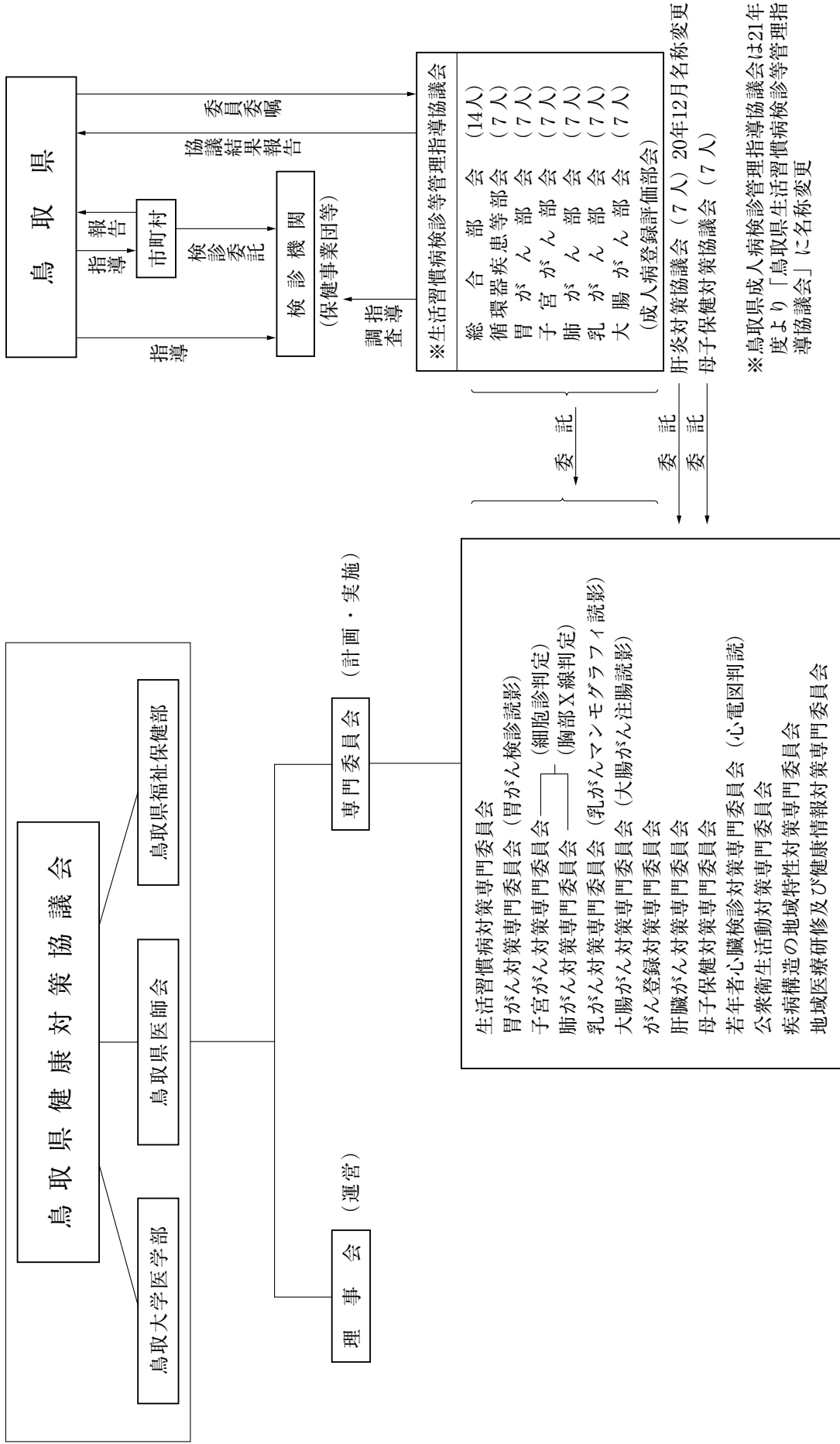
会 長 岡 本 公 男

# 目 次

I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図	1
II. 平成21年度各がん検診事業実績	
1. 胃がん検診	4
2. 子宮がん検診	16
3. 肺がん検診	24
4. 乳がん検診	37
5. 大腸がん検診	46
6. 肝臓がん検診	55
7. 全国がん検診実績との比較	67
III. 平成22年度各がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況	
1. 胃がん検診症例研究会報告	74
2. 子宮がん検診症例研究会報告	76
3. 肺がん検診症例研究会報告	77
4. 乳がん検診症例研究会報告	80
5. 大腸がん検診症例研究会報告	82
6. 肝臓がん検診症例研究会報告	84
7. 各地区がん検診症例検討会開催状況	87
IV. 各がん検診精密検査医療機関登録について	88

# I. 鳥取県健康対策協議会の構成及び組織図

(昭和46年1月26日発足)



## Ⅱ. 平成21年度各がん検診事業実績

# 指 標 の 解 説

## 1. 対象者数：職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数

※1 対象者数については、平成20年度から全市町村共通で以下の算式により推計対象者数を算出することとしている。

40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）・男女ごとに、以下の計算式で算出した人数を「推計対象者数」とする。

各係数は直近の国勢調査において報告された人数を用いる。

$$\boxed{\text{推計}} \quad \boxed{\text{対象者数}} = \boxed{\text{市区町村}} \quad \boxed{\text{人口}} - \left( \boxed{\text{就業者数}} - \boxed{\text{農林水産業}} \quad \boxed{\text{従業者数}} \right)$$

（「市町村がん検診事業の充実強化について」平成21年3月厚生労働省総務

胃、肺、大腸がん検診：40歳以上

乳がん検診：平成17年度より対象者は40歳以上。（同一人の隔年検診）

子宮がん検診：平成17年度より対象者は20歳以上。

肝炎ウイルス検査：以下に該当する者を対象者とする。

- (1) 節目検診：健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、40歳の者
- (2) 節目外検診：上記以外の健康増進法に基づく事業の健康診査の対象者のうち、①基本健康診査で肝機能（GPT値）により要指導と診断された者。②平成14年～平成18年度までの本事業からに基づく肝炎ウイルス検査の対象者であって、受診の機会を逸した者。

## 2. 受診者数：検診を受診した人数

3. 受診率：がん検診の対象者のうち、実際の受診者の割合

4. 要精検者数：一次検診の結果、精密検査が必要と診断された人数

5. 要精検率：がん検診受診者のうち、精密検査が必要とされた者の割合

6. 精検受診者数：精密検査が必要と診断された者のうち、精密検査を受診した人数

7. 精検受診率：精密検査が必要な者のうち、精密検査を受けた者の割合

8. がん、がん疑いの人数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された人数

子宮がん検診の場合、異形成と子宮内膜増殖症はがん疑いとして集計します。

9. がん発見率：がん検診受診者のうち、がんとされた者の割合

10. 陽性反応適中度：精密検査受診者のうち、がんとされた者の割合

11. 確定癌数：精密検査の結果、がん、がん疑いと診断された者について、鳥取県健康対策協議会において確定調査を行った結果、「癌」であった者の人数

12. 確定癌率：がん検診受診者のうち、確定調査の結果、癌であった者の割合

# 1. 胃 が ん 検 診

## 1. 胃がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職域等で受診の機会がない者として各市町村が把握している人数）は188,186人のうち、受診者数はX線検査17,352人、内視鏡検査は25,449人で合計42,801人、受診率は22.7%と前年度と同率であった。受診者数全体のうち、内視鏡検査の実施割合は59.5%で、年々増加している。

平成21年度全国平均受診率10.1%に比べると鳥取県は非常に良い成績であり、全国で2位と高い。

検査の結果、胃がんであった者は143人発見され（X線検査29人、内視鏡検査114人）、がん発見率は0.33%であった。平成20年度全国平均がん発見率0.16%に比べ高い。例年と同様な傾向である。

X線検査でのがん発見率は0.17%に対し、内視鏡検査でのがん発見率は0.45%で2.6倍も高い。

陽性反応適中度（がん/精検受診率）はX線検査2.7%である。また、内視鏡検査の陽性反応適中度はがんを組織診実施者数で割った率で求めたところ6.0%であった。

確定調査の結果、確定癌は141例、発見癌率は0.33%であった。

- (1) X線検査は19市町村で実施され、受診者数は17,352人で、受診率は9.2%で年々減少傾向である。一次検診の要精検者は1,300人で、要精検率は7.5%。このうち、精密検査を受診したのは1,061人、精検受診率は81.6%であった。集団検診の要精検率6.5%、医療機関検診は10.7%で、依然として中部が30.5%と非常に高い。

精検結果は、胃がんであった者は29人で、胃がん発見率は0.17%であった。

- (2) 内視鏡検査は、15市町村で実施され、受診者数は25,449人で、検査の結果、胃がんであった者は114人が発見され、発見率は0.45%であった。

内視鏡検査の組織診実施者数1,898人で、組織診実施率7.5%で、市町村で格差がある。

## 2. 胃がん検診発見胃がん確定調査結果

平成21年度に発見された胃がん及び胃がん疑いについて確定調査を行った結果、確定胃がんは141例（一次検査がX線検査：車検診20例、施設検診8例、一次検査内視鏡検査：113例）であった。発見癌率は0.329%であった。

調査結果は以下のとおりである。

- (1) 早期癌は113例、進行癌は28例であった。早期癌率は80.1%で、東部83.1%、中部80.0%、西部77.2%であった。
- (2) 切除例は133例で、そのうち内視鏡切除が47例で全体の約35%を占め、増えている。非切除例が8例で、手術拒否1例、手術不能7例であった。高齢者の症例が最近増えてきていることが影響していると思われる。
- (3) 性・年齢別では、男性82例、女性59例であった。80歳以上が全体の2割を占めている。
- (4) 早期癌では「Ⅱc」が67.3%で大半を占めている。進行癌では「2」で32.1%を占めている。また、分類不能の「5」が8例あり、全体の28.6%も占めた。
- (5) 切除例の深達度では「t1」が111例で、そのうちmが76例であった。
- (6) 切除例の大きさは2cm以内が50.7%であった。車検診では55.0%、施設検診では62.5%、内視鏡検査では49.1%で、小さいものが多く見つかっている。
- (7) 早期癌の占拠部位では小弯が多くなっている。内視鏡検査ではX線検査では見つかりにくい、前壁が多くなっている。



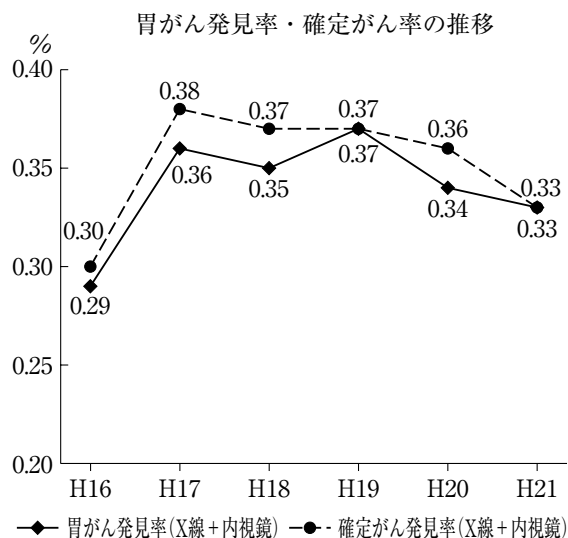
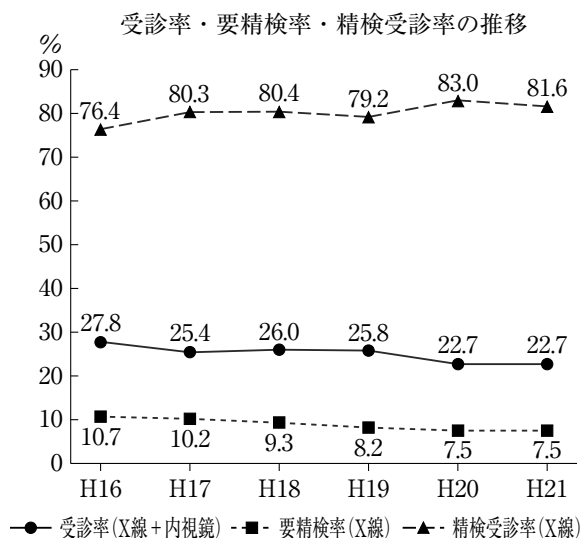
- (8) 肉眼での進行度stage I aはX線検査22例で78.6%、内視鏡検査85例で77.2%だった。
- (9) 前年度受診歴を有する進行癌は、東部2件、中部2件、西部5件であった。  
内視鏡検診が開始され約10年経過し、早期癌が多く発見され、内視鏡切除も増えている。

### (1) 胃がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		16 年 度			17 年 度			18 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			167,900			177,428			174,051
	受 診 者 数(人) B	28,963	17,666	46,629	25,784	19,339	45,123	23,247	21,945	45,192
	受 診 率(%) C = B/A	17.3	10.5	27.8	14.5	10.9	25.4	13.4	12.6	26.0
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	25,859			23,156			21,085		
	要 精 検 者 数(人) E	3,104			2,628			2,162		
	要 精 検 率(%) F = E/B	10.7			10.2			9.3		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,372			2,109			1,738		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	76.4			80.3			80.4		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	51(7)	85(20)	136(27)	53(7)	109(38)	162(45)	46(11)	112(32)	158(43)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.18	0.48	0.29	0.21	0.56	0.36	0.20	0.51	0.35
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.2			2.5			2.6		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	51	87	138	53	117	170	49	117	166
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.18	0.49	0.30	0.21	0.60	0.38	0.21	0.53	0.37

区 分		19 年 度			20 年 度			21 年 度		
		X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計	X線	内視鏡	計
一次検診	対 象 者 数(人) A			171,530			188,186			188,186
	受 診 者 数(人) B	20,507	23,765	44,272	18,099	24,700	42,799	17,352	25,449	42,801
	受 診 率(%) C = B/A	12.0	13.9	25.8	9.6	13.1	22.7	9.2	13.5	22.7
一次検診結 果	異 常 認 め ず(人) D	18,818			16,736			16,052		
	要 精 検 者 数(人) E	1,689			1,363			1,300		
	要 精 検 率(%) F = E/B	8.2			7.5			7.5		
精密検査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,337			1,131			1,061		
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	79.2			83.0			81.6		
精密検査結 果	胃 が ん の 者(人) I	35(6)	131(31)	166(37)	31(5)	113(44)	144(49)	29(5)	114(44)	143(49)
	胃 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.17	0.55	0.37	0.17	0.46	0.34	0.17	0.45	0.33
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	2.6			2.7			2.7		
確定調査結 果	確 定 が ん 数(人) L	36	126	162	31	122	153	28	113	141
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.18	0.53	0.37	0.17	0.49	0.36	0.16	0.44	0.33

- ※ 1 精密検査結果欄の( )内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上
- ※ 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- ※ 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出
- ※ 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成21年度胃がんX線検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診 受診者数 (人)		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数 d		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	213	460	10.1	10.9	10.6	17	33	196	427	8.0	7.2	7.4
45～49歳	2,560	4,460	210	528	8.2	11.8	10.5	13	29	197	499	6.2	5.5	5.7
50～54歳	3,635	6,518	316	788	8.7	12.1	10.9	27	49	289	739	8.5	6.2	6.9
55～59歳	5,170	9,630	567	1,226	11.0	12.7	12.1	47	76	520	1,150	8.3	6.2	6.9
60～64歳	8,313	12,735	1,041	1,863	12.5	14.6	13.8	88	111	953	1,752	8.5	6.0	6.9
65～69歳	10,826	15,529	1,288	1,917	11.9	12.3	12.2	133	119	1,155	1,798	10.3	6.2	7.9
70～74歳	12,955	18,248	1,292	1,873	10.0	10.3	10.1	116	116	1,176	1,757	9.0	6.2	7.3
75～79歳	11,778	18,215	953	1,366	8.1	7.5	7.7	99	91	854	1,275	10.4	6.7	8.2
80歳以上	12,158	29,134	688	763	5.7	2.6	3.5	77	59	611	704	11.2	7.7	9.4
計	69,510	118,676	6,568	10,784	9.4	9.1	9.2	617	683	5,951	10,101	9.4	6.3	7.5
合 計	188,186		17,352		9.2			1,300		16,052		7.5		

### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人)		精密検査 受診率 (%)			精密検査結果								胃がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異 常 認 め ず		その他の 疾 病		胃がん 疑 い		胃がん h		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	11	27	64.7	81.8	76.0	2	7	9	20	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	6	20	46.2	69.0	61.9	2	7	4	13	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	16	43	59.3	87.8	77.6	4	9	11	33	1	0	0	1	0.000	0.127	0.091	0.0	2.3	1.7
55～59歳	35	65	74.5	85.5	81.3	7	13	27	50	0	1	1	1	0.176	0.082	0.112	2.9	1.5	2.0
60～64歳	69	99	78.4	89.2	84.4	18	22	48	76	0	0	3	1	0.288	0.054	0.138	4.3	1.0	2.4
65～69歳	97	102	72.9	85.7	79.0	21	25	74	75	1	0	1	2	0.078	0.104	0.094	1.0	2.0	1.5
70～74歳	100	100	86.2	86.2	86.2	21	20	75	78	0	0	4	2	0.310	0.107	0.190	4.0	2.0	3.0
75～79歳	84	77	84.8	84.6	84.7	9	16	72	56	0	1	3	4	0.315	0.293	0.302	3.6	5.2	4.3
80歳以上	60	50	77.9	84.7	80.9	7	16	48	31	2	0	3	3	0.436	0.393	0.414	5.0	6.0	5.5
計	478	583	77.5	85.4	81.6	91	135	368	432	4	2	15	14	0.228	0.130	0.167	3.1	2.4	2.7
合 計	1,061		81.6			226		800		6		29		0.167			2.7		

### 3) 検診機関別

#### a. 一次検診結果

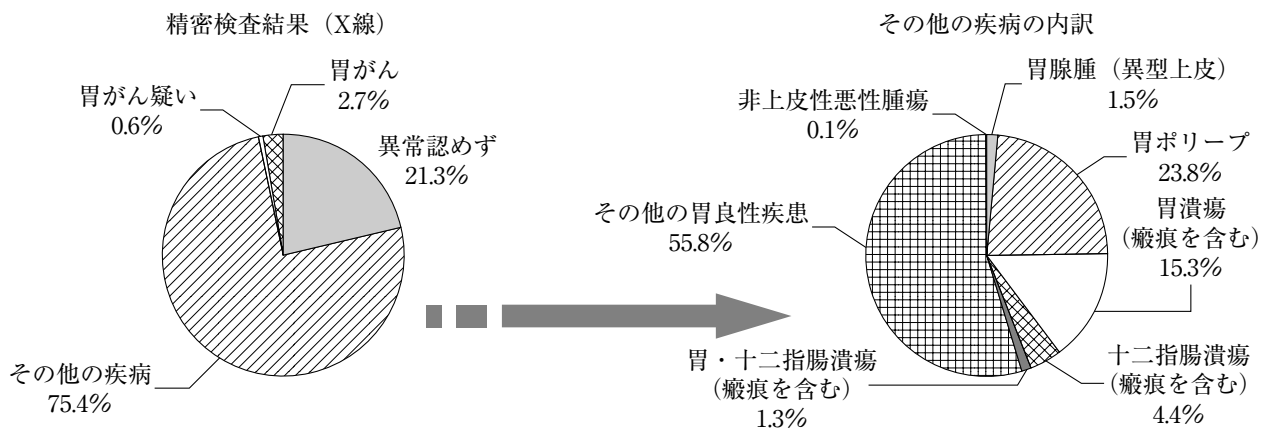
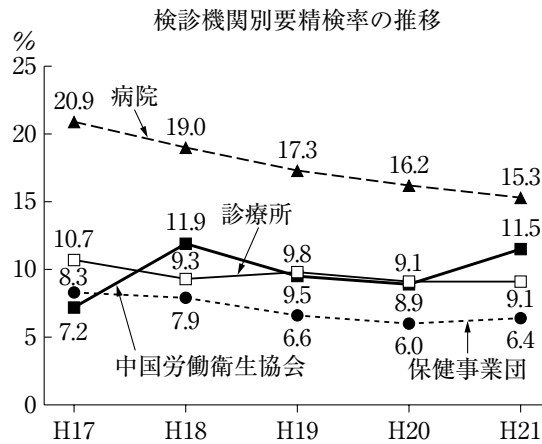
一次検診機関	一次検診 受診者数 (人)		一次検診結果				要精検率 (%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b'/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	4,954	8,067	399	436	4,555	7,631	8.1	5.4	6.4
中国労働衛生協会	143	169	21	15	122	154	14.7	8.9	11.5
病 院	345	704	67	93	278	611	19.4	13.2	15.3
診 療 所	1,126	1,844	130	139	996	1,705	11.5	7.5	9.1
計	6,568	10,784	617	683	5,951	10,101	9.4	6.3	7.5
合 計	17,352		1,300		16,052		7.5		

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人)		精密検査受診率(%)			精密検査結果								胃がん発見率(%)			陽性反応適中度(%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がんf'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	307	371	76.9	85.1	81.2	61	87	230	274	4	2	12	8	0.242	0.099	0.154	3.9	2.2	2.9
中国労働衛生協会	13	13	61.9	86.7	72.2	4	9	9	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
<b>集団検診小計</b>	<b>320</b>	<b>384</b>	<b>76.2</b>	<b>85.1</b>	<b>80.8</b>	<b>65</b>	<b>96</b>	<b>239</b>	<b>278</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>12</b>	<b>8</b>	<b>0.235</b>	<b>0.097</b>	<b>0.150</b>	<b>3.8</b>	<b>2.1</b>	<b>2.8</b>
病院	48	74	71.6	79.6	76.3	5	10	42	62	0	0	1	2	0.290	0.284	0.286	2.1	2.7	2.5
診療所	110	125	84.6	89.9	87.4	21	29	87	92	0	0	2	4	0.178	0.217	0.202	1.8	3.2	2.6
<b>医療機関検診小計</b>	<b>158</b>	<b>199</b>	<b>80.2</b>	<b>85.8</b>	<b>83.2</b>	<b>26</b>	<b>39</b>	<b>129</b>	<b>154</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>3</b>	<b>6</b>	<b>0.204</b>	<b>0.235</b>	<b>0.224</b>	<b>1.9</b>	<b>3.0</b>	<b>2.5</b>
計	478	583	77.5	85.4	81.6	91	135	368	432	4	2	15	14	0.228	0.130	0.167	3.1	2.4	2.7
合計	1,061		81.6			226		800		6		29		0.167			2.7		

検診機関別要精検率の推移(%)

一次検診機関	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
保健事業団	8.3	7.9	6.6	6.0	6.4
中国労働衛生協会	7.2	11.9	9.5	8.9	11.5
<b>集団検診小計</b>	<b>8.3</b>	<b>8.0</b>	<b>6.6</b>	<b>6.1</b>	<b>6.5</b>
病院	20.9	19.0	17.3	16.2	15.3
診療所	10.7	9.3	9.8	9.1	9.1
<b>医療機関検診小計</b>	<b>13.3</b>	<b>11.8</b>	<b>11.9</b>	<b>11.3</b>	<b>10.7</b>
合計	10.2	9.3	8.2	7.5	7.5



4) 平成21年度鳥取県胃がんX線検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数					精密検査結果別人員						
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	がん発見 率(%) Q = O / D
鳥取市	56,203	2,026	1,934	3,960	7.0	110	218	328	8.3	278	84.8	32	237	0	9	246	0.227	3.2	
米子市	41,718	734	1,556	2,290	5.5	39	140	179	7.8	153	85.5	40	110	1	2	113	0.087	1.3	
倉吉市	17,326	1,348	56	1,404	8.1	142	22	164	11.7	120	73.2	32	85	0	3	88	0.214	2.5	
境港市	10,887	64	204	268	2.5	10	22	32	11.9	28	87.5	5	22	0	1	23	0.373	3.6	
岩美町	4,781	717	10	727	15.2	33	3	36	5.0	30	83.3	9	20	0	1	21	0.138	3.3	
八頭町	6,612	1,639	33	1,672	25.3	85	5	90	5.4	67	74.4	12	54	0	1	55	0.060	1.5	
若桜町	1,864	371	0	371	19.9	24	0	24	6.5	15	62.5	4	11	0	0	11	0.000	0.0	
智頭町	3,343	299	144	443	13.3	16	13	29	6.5	26	89.7	2	22	0	2	24	0.451	7.7	
湯梨浜町	5,856	625	7	632	10.8	37	2	39	6.2	31	79.5	3	26	2	0	28	0.000	0.0	
三朝町	2,750	445	9	454	16.5	29	0	29	6.4	24	82.8	5	19	0	0	19	0.000	0.0	
北栄町	5,699	911	2	913	16.0	61	0	61	6.7	53	86.9	18	31	2	2	35	0.219	3.8	
琴浦町	7,298	1,199	8	1,207	16.5	96	1	97	8.0	83	85.6	23	56	1	3	60	0.249	3.6	
南部町	4,188	478	56	534	12.8	25	3	28	5.2	22	78.6	8	13	0	1	14	0.187	4.5	
伯耆町	4,502	808	0	808	17.9	52	0	52	6.4	45	86.5	0	42	0	3	45	0.371	6.7	
日吉津村	897	195	0	195	21.7	10	0	10	5.1	10	100.0	2	8	0	0	8	0.000	0.0	
大山町	7,684	608	0	608	7.9	41	0	41	6.7	32	78.0	15	16	0	1	17	0.164	3.1	
日南町	3,182	335	0	335	10.5	14	0	14	4.2	9	64.3	0	9	0	0	9	0.000	0.0	
日野町	1,843	248	0	248	13.5	15	0	15	6.0	11	73.3	3	8	0	0	8	0.000	0.0	
江府町	1,553	283	0	283	18.2	32	0	32	11.3	24	75.0	13	11	0	0	11	0.000	0.0	
合計	188,186	13,333	4,019	17,352	9.2	871	429	1,300	7.5	1,061	81.6	226	800	6	29	835	0.167	2.7	
東部	72,803	5,052	2,121	7,173	9.9	268	239	507	7.1	416	82.1	59	344	0	13	357	0.181	3.1	
中部	38,929	4,528	82	4,610	11.8	365	25	390	8.5	311	79.7	81	217	5	8	230	0.174	2.6	
西部	76,454	3,753	1,816	5,569	7.3	238	165	403	7.2	334	82.9	86	239	1	8	248	0.144	2.4	

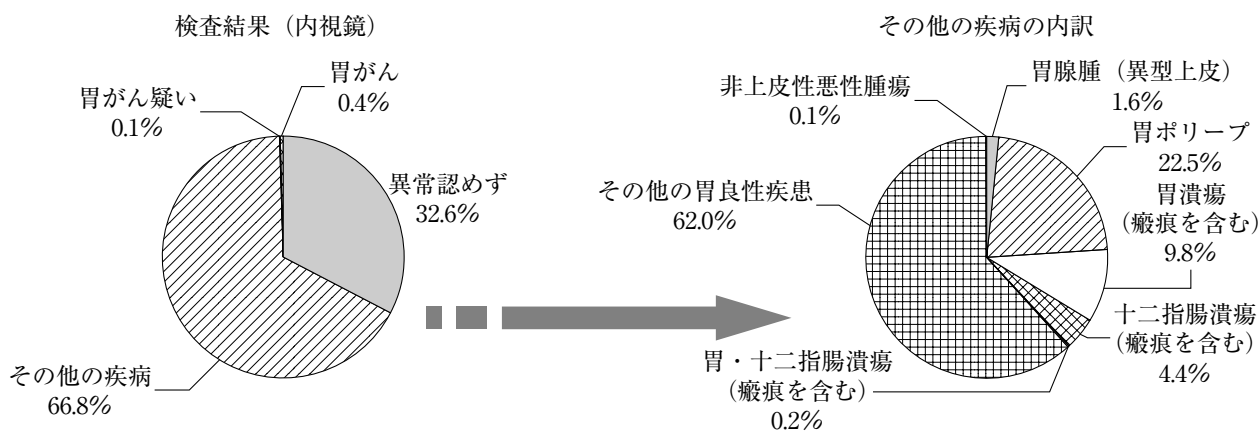
### (3) 平成21年度胃がん内視鏡検診結果

#### 1) 年齢階級別

年 齢	一次検診 受診者数(人) a		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c = b / a		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃 が ん b				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	165	428	73	173	92	255	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000
45～49歳	212	530	84	194	127	336	1	0	0	0	0.000	0.000	0.000
50～54歳	303	722	72	259	229	460	0	1	2	2	0.660	0.277	0.390
55～59歳	566	1,235	159	426	400	805	2	1	5	3	0.883	0.243	0.444
60～64歳	1,344	2,443	387	845	950	1,586	3	4	4	8	0.298	0.327	0.317
65～69歳	1,979	3,021	579	1,053	1,386	1,956	3	5	11	7	0.556	0.232	0.360
70～74歳	1,937	2,954	539	1,016	1,377	1,925	3	4	18	9	0.929	0.305	0.552
75～79歳	1,644	2,471	501	824	1,133	1,639	0	0	10	8	0.608	0.324	0.437
80歳以上	1,362	2,133	397	723	942	1,398	6	2	17	10	1.248	0.469	0.773
計	9,512	15,937	2,791	5,513	6,636	10,360	18	17	67	47	0.704	0.295	0.448
合 計	25,449		8,304		16,996		35		114		0.448		

#### 2) 検診機関別

一次検診機関	一次検診 受診者数(人) a'		検 査 結 果								胃がん発見率 (%) c' = b' / a'		
			異常認めず		その他の疾病		胃がん疑い		胃がん b'				
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
病 院	2,601	3,996	509	880	2,066	3,099	9	10	17	7	0.654	0.175	0.364
診療所	6,911	11,941	2,282	4,633	4,570	7,261	9	7	50	40	0.723	0.335	0.477
計	9,512	15,937	2,791	5,513	6,636	10,360	18	17	67	47	0.704	0.295	0.448
合計	25,449		8,304		16,996		35		114		0.448		



3) 平成21年度胃がん内視鏡検診受診状況

市町村名	検 査 結 果 別 人 員								
	受診者数 (人) A	組織診 実施者数 B	組織診 実施率 (%) C = B/A	異 常 認めず D	その他 の疾病 E	がん疑い F	がん G	有所見者 H = E + F + G	がん発見率 (%) I = G/A
鳥取市	10,034	957	9.5	1,762	8,205	21	46	8,272	0.458
米子市	9,432	429	4.5	3,942	5,444	3	43	5,490	0.456
倉吉市	784	101	12.9	374	398	3	9	410	1.148
境港市	2,149	151	7.0	982	1,162	2	3	1,167	0.140
岩美町	238	14	5.9	219	19	0	0	19	0.000
八頭町	200	17	8.5	29	170	1	0	171	0.000
若桜町	9	2	22.2	1	8	0	0	8	0.000
智頭町	254	14	5.5	43	211	0	0	211	0.000
湯梨浜町	488	87	17.8	207	270	4	7	281	1.434
三朝町	8	0	0.0	8	0	0	0	0	0.000
北栄町	221	20	9.0	33	188	0	0	188	0.000
琴浦町	385	16	4.2	240	142	1	2	145	0.519
南部町	735	63	8.6	224	509	0	2	511	0.272
伯耆町	180	10	5.6	42	138	0	0	138	0.000
日吉津村	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大山町	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日南町	99	2	2.0	94	5	0	0	5	0.000
日野町	55	7	12.7	3	52	0	0	52	0.000
江府町	178	8	4.5	101	75	0	2	77	1.124
合 計	25,449	1,898	7.5	8,304	16,996	35	114	17,145	0.448
東 部	10,735	1,004	9.4	2,054	8,613	22	46	8,681	0.429
中 部	1,886	224	11.9	862	998	8	18	1,024	0.954
西 部	12,828	670	5.2	5,388	7,385	5	50	7,440	0.390

(4) 平成21年度胃がん検診受診状況（X線十内視鏡）

市町村名	対象者数 (人) A	受診者数				X線精密検査結果および内視鏡検査結果別人員					
		X線 受診者 B	内視鏡 受診者 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	異常 認めず F	その他 の疾病 G	が ん 疑 い H	が ん I	有 所 見 者 J=G+H+I	がん発見率 (%) K=I/D
鳥取市	56,203	3,960	10,034	13,994	24.9	1,794	8,442	21	55	8,518	0.393
米子市	41,718	2,290	9,432	11,722	28.1	3,982	5,554	4	45	5,603	0.384
倉吉市	17,326	1,404	784	2,188	12.6	406	483	3	12	498	0.548
境港市	10,887	268	2,149	2,417	22.2	987	1,184	2	4	1,190	0.165
岩美町	4,781	727	238	965	20.2	228	39	0	1	40	0.104
八頭町	6,612	1,672	200	1,872	28.3	41	224	1	1	226	0.053
若桜町	1,864	371	9	380	20.4	5	19	0	0	19	0.000
智頭町	3,343	443	254	697	20.8	45	233	0	2	235	0.287
湯梨浜町	5,856	632	488	1,120	19.1	210	296	6	7	309	0.625
三朝町	2,750	454	8	462	16.8	13	19	0	0	19	0.000
北栄町	5,699	913	221	1,134	19.9	51	219	2	2	223	0.176
琴浦町	7,298	1,207	385	1,592	21.8	263	198	2	5	205	0.314
南部町	4,188	534	735	1,269	30.3	232	522	0	3	525	0.236
伯耆町	4,502	808	180	988	21.9	42	180	0	3	183	0.304
日吉津村	897	195	0	195	21.7	2	8	0	0	8	0.000
大山町	7,684	608	0	608	7.9	15	16	0	1	17	0.164
日南町	3,182	335	99	434	13.6	94	14	0	0	14	0.000
日野町	1,843	248	55	303	16.4	6	60	0	0	60	0.000
江府町	1,553	283	178	461	29.7	114	86	0	2	88	0.434
合計	188,186	17,352	25,449	42,801	22.7	8,530	17,796	41	143	17,980	0.334
東部	72,803	7,173	10,735	17,908	24.6	2,113	8,957	22	59	9,038	0.329
中部	38,929	4,610	1,886	6,496	16.7	943	1,215	13	26	1,254	0.400
西部	76,454	5,569	12,828	18,397	24.1	5,474	7,624	6	58	7,688	0.315



(5) 平成21年度胃がん検診発見患者確定調査結果について

表1 報告胃癌追跡調査

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	
確 定 胃 癌 数	7	5	47	6	1	18	7	2	48	141
癌 発 見 率 %	0.139	0.236	0.438	0.133	1.220	0.954	0.187	0.110	0.374	
	59 0.329			25 0.385			57 0.310			0.329
早 期 癌 数	6	5	38	5	1	14	5	1	38	113
早 期 癌 率 %	49 83.1			20 80.0			44 77.2			
進 行 癌 数	1	0	9	1	0	4	2	1	10	28
切 除 例	6	5	46	6	1	18	7	2	42	133
内 視 鏡 切 除 例	1	2	22	3	1	4	1	1	12	47
非 切 除 例	1	0	1	0	0	0	0	0	6	8

手術拒否：1 手術不能：7

表2 性・年齢別

	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
男	0	9	16	36	21	82
女	0	7	18	23	11	59

表3 早期癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
I	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
IIa	0	1	7	1	0	2	1	0	5	17	15.0%
IIc	3	4	27	2	1	9	3	1	26	76	67.3%
IIc+III	1	0	0	1	0	0	0	0	2	4	3.5%
IIa+IIc	1	0	2	1	0	1	1	0	3	9	8.0%
そ の 他	1	0	2	0	0	2	0	0	2	7	6.2%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	6	5	38	5	1	14	5	1	38	113	

表4 進行癌の肉眼分類

	東 部			中 部			西 部			計 (%)	
	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診	車検診	施設検診	内視鏡 検 診		
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
2	0	0	3	0	0	1	0	1	4	9	32.1%
3	1	0	3	0	0	0	1	0	0	5	17.9%
4	0	0	1	0	0	2	0	0	3	6	21.4%
5	0	0	2	1	0	1	1	0	3	8	28.6%
不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
計	1	0	9	1	0	4	2	1	10	28	

表5 切除例の深達度

	東 部			中 部			西 部			計
	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	車検診	施設検診	内視鏡検診	
t1	6	5	38	5	1	14	5	1	36	111
m	4	3	27	3	1	10	5	1	22	76
t2	0	0	3	1	0	4	1	0	5	14
t3	1	0	5	0	0	0	1	1	3	11
t4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	5	46	6	1	18	7	2	44	136
不明	0	0	1	0	0	0	0	0	4	5

表6 切除例の大きさ

mm	～ 10	11 ～ 20	小計 (%)	21 ～ 50	51 ～	計	不明
車 検 診	2	9	11 55.0%	5	4	20	0
施 設 検 診	3	2	5 62.5%	3	0	8	0
内 視 鏡 検 診	16	37	53 49.1%	42	13	108	5
計	21	48	69 50.7%	50	17	136	5

表7-1 早期癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	4	1	18
M	6	4	43
L	6	2	28
全 体	0	0	1
計	16	7	90
不明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	6	3	33
大 弯	4	2	12
前 壁	4	0	21
後 壁	2	2	21
全 周	0	0	2
計	16	7	89
不明	0	0	1

表7-2 進行癌の占拠部位

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
U	2	1	9
M	1	0	8
L	1	0	5
全 体	0	0	1
計	4	1	23
不明	0	0	0

	車 検 診	施 設 検 診	内 視 鏡 検 診
小 弯	2	0	7
大 弯	0	1	2
前 壁	1	0	5
後 壁	1	0	6
全 周	0	0	3
計	4	1	23
不明	0	0	0

表 8 発見胃癌の進行度

stage	東 部			中 部			西 部			計			計	
	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	車 検診	施設 検診	内視鏡 検診	X 線	内視鏡
I a	5	5	37	5	1	13	5	1	35	15	7	85	22(78.6%)	85(77.2%)
I b	1	0	3	1	0	4	0	0	1	2	0	8	2	8
II	0	0	2	0	0	0	0	0	5	0	0	7	0	7
III a	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2	0	1	2	1
III b	0	0	1	0	0	1	0	1	2	0	1	4	1	4
IV	1	0	3	0	0	0	0	0	2	1	0	5	1	5
計	7	5	47	6	1	18	7	2	45	20	8	110	28	110
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	3

表 9 前年度受診歴を有する進行胃癌症例

地区	検診	歳	性	型	深達度	組織型	大きさ (mm)	占拠部位	Stage	前年度検診結果		
										検診方式	一次検診結果	精密検査結果
東部	内	77	女	2	t2 (ss)	por1	30×20	L 小弯	III a	施設・ 内視鏡	胃腺腫 (異型上皮)	要検査
		75	女	5	t2 (ss)	por1	26×20	M 大弯	I b	施設・ 内視鏡	異常なし	
中部	車	62	男	5	t2 (mp)	tub2	20×15	L 小弯	I b	車・X線	異常なし	
	内	74	男	4	t2 (ss)	tub2	60×60	U 大弯	I b	施設・ 内視鏡	異常なし	
西部	施	65	男	2	t3 (se)	pap	40×40	U 前後壁 大弯	III b	施設・ X線	異常なし	
	内	75	女	5	t3 (se)	por2	50×35	U 小弯	II	施設・ 内視鏡	胃ポリープ (精検不要)	
		72	男	2	t2 (mp)	por1	35×25	L 後壁	II	施設・ 内視鏡	食道粘膜下腫瘍 (精検不要)	
		78	女	4	不明	por2	65×60	U 前壁	IV	施設・ 内視鏡	胃ポリープ (精検不要)	
	74	女	4	t3 (se)	por2	140×40	UML 全周	III b	施設・ 内視鏡	異常なし		

## 2. 子宮がん検診

### 1. 子宮がん検診実績

平成21年度の対象者数（20歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）139,232人のうち、受診者数26,943人で、受診率19.4%であった。

国の「女性特有のがん検診推進事業」で対象者に無料クーポン券が送付されたことにより、20～40歳までの受診者数が前年度より多く受診している。近年減少傾向であった受診率は、平成20年度に比べ2.0ポイントの増、受診者数も2,736人増加しており、一定の受診率向上効果があったと思われる。

一次検診の結果、要精検者数200人、要精検率0.74%、そのうち、精検受診者数179人、精検受診率89.5%であった。要精検者数が平成20年度より118人も増加した。要精検率は0.34%～0.40%を推移していたが、0.40ポイント増加した。

精検結果は、がん15人、がん発見率は0.06%、陽性反応適中度は8.4%であった。異形成は100人（軽度60人、高度40人）であった。平成20年度に比べ、がんは4人増加し、異形成は68人多く見つかっている。

20歳代で異形成が16例見つかっており、将来、進行癌となる危険性から防ぐことが出来る早期の段階で発見されたことは、検診の効果は大きかった。

### 2. 子宮体部がん検診

子宮がん検診受診者26,943人中、体部がん検診対象者数は715人、一次検診会場での受診者は608人であった。一次検診会場で受診できず医療機関で別途検査した者は71人、受診者の合計は679人、受診率は95.0%であった。

一次検診の結果、要精検となった者7人、要精検率1.15%、精密検査受診者数は4人、精検受診率57.1%であった。精検の結果、子宮体部がんが3人、また医療機関での別途受診者から子宮体部がんが2人発見され、合わせると、がん発見率は0.74%であった。また、子宮内膜増殖症が4人発見された。

### 3. 子宮がん検診発見子宮がん確定調査結果

#### 1) 子宮頸部癌

平成21年度は子宮頸部癌14名で、0期11例、Ia期が1例、Ib期以上が2例であった。Ib期以上2例の検診歴は、初回1例、前年度受診1例であった。

異形成は99例だった。

#### 2) 子宮体部癌

子宮体部癌は3例、子宮内膜増殖症は5例であった。

### 4. その他

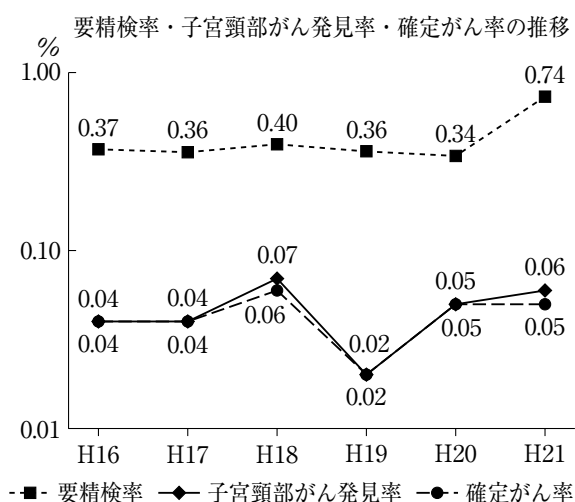
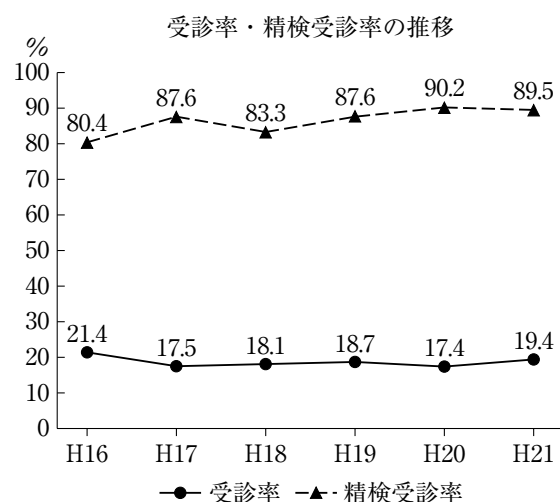
#### 1) 平成21年度妊婦健康診査における子宮頸部がん検診受診状況について

平成21年度妊婦健康診査受診者4,720人中、子宮頸部がん検診受診者数4,249人、受診率90.0%で、要精検者数62人、要精検率1.5%、市町村が把握できた精検結果は54人で、そのうちがんが3人、異形成が22人であった。

## (1) 子宮頸部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	122,868	139,203	133,250	130,796	139,232	139,232
	受 診 者 数(人) B	26,333	24,416	24,150	24,450	24,207	26,943
	受 診 率(%) C = B / A	21.4	17.5	18.1	18.7	17.4	19.4
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	26,236	24,327	24,054	24,361	24,125	26,743
	要 精 検 者 数(人) E	97	89	96	89	82	200
	要 精 検 率(%) F = E / B	0.37	0.36	0.40	0.36	0.34	0.74
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	78	78	80	78	74	179
	精 検 受 診 率(%) H = G / E	80.4	87.6	83.3	87.6	90.2	89.5
精 密 検 査 結 果	子 宮 が ん の 者(人) I	10(25)	10(42)	16(36)	5(35)	11(32)	15(100)
	子 宮 が ん 発 見 率(%) J = I / B	0.04	0.04	0.07	0.02	0.05	0.06
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I / G	12.8	12.8	20.0	6.4	14.9	8.4
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	11	9	15	4	11	14
	確 定 が ん 率(%) M = L / B	0.04	0.04	0.06	0.02	0.05	0.05

- \* 1 精密検査結果欄の( )内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上
- \* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- \* 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成21年度子宮頸部がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b / a	経年受診者数 (再掲)	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
					要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	4,760	281	5.9	29	11	270	3.91
25～29歳	4,701	789	16.8	154	16	773	2.03
30～34歳	6,039	1,842	30.5	780	29	1,813	1.57
35～39歳	5,056	2,258	44.7	1,246	40	2,218	1.77
40～44歳	4,207	2,586	61.5	1,468	37	2,549	1.43
45～49歳	4,460	2,216	49.7	1,633	18	2,198	0.81
50～54歳	6,518	2,389	36.7	1,829	14	2,375	0.59
55～59歳	9,630	2,871	29.8	2,267	9	2,862	0.31
60～64歳	12,735	3,750	29.4	3,040	8	3,742	0.21
65～69歳	15,529	3,326	21.4	2,913	7	3,319	0.21
70～74歳	18,248	2,643	14.5	2,378	5	2,638	0.19
75～79歳	18,129	1,429	7.9	1,290	5	1,424	0.35
80歳以上	29,220	563	1.9	526	1	562	0.18
計	139,232	26,943	19.4	19,553	200	26,743	0.74

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) f	精密検査率 (%) g = f/d	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) n = k/b	陽性反応適中度 (%) o = k/f	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 h = i + j	軽度異形成 i	高度異形成 j	子宮がん k = l + m	上皮内がん l			浸潤がん m
20~24歳	9	81.8	0	0	9	5	4(4)	0	0	0	0.000	0.0
25~29歳	14	87.5	7	0	7	4	3(3)	0	0	0	0.000	0.0
30~34歳	29	100.0	7	0	19	9	10(6)	3	3	0	0.163	10.3
35~39歳	38	95.0	13	2	22	14	8(4)	1	0	1	0.044	2.6
40~44歳	30	81.1	5	4	20	13	7(5)	1	1	0	0.039	3.3
45~49歳	16	88.9	4	1	7	5	2(1)	4	3	1	0.181	25.0
50~54歳	12	85.7	4	0	7	4	3(2)	1	1	0	0.042	8.3
55~59歳	7	77.8	3	1	3	2	1	0	0	0	0.000	0.0
60~64歳	7	87.5	3	0	2	0	2(2)	2	2	0	0.053	28.6
65~69歳	7	100.0	3	1	2	2	0	1	0	1	0.030	14.3
70~74歳	5	100.0	2	1	1	1	0	1	0	1	0.038	20.0
75~79歳	4	80.0	2	0	1	1	0	1	1	0	0.070	25.0
80歳以上	1	100.0	1	0	0	0	0	0	0	0	0.000	0.0
計	179	89.5	54	10	100	60	40(27)	15	11	4	0.056	8.4

※ ( ) 内は中等度異形成を内数で計上

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

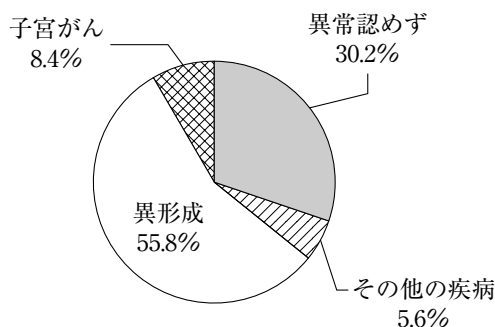
一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要精検率 (%) c' = b'/a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	10,265	57	10,208	0.56
病 院	6,579	28	6,551	0.43
診 療 所	10,099	115	9,984	1.14
計	26,943	200	26,743	0.74

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) d'	精密検査率 (%) e' = d'/b'	精 密 検 査 結 果							子宮頸部がん発見率 (%) l' = i'/a'	陽性反応適中度 (%) m' = i'/d'	
			異常認めず	その他の疾病	異形成 f' = g' + h'	軽度異形成 g'	高度異形成 h'	子宮がん i' = j' + k'	上皮内がん j'			浸潤がん k'
保健事業団	51	89.5	17	2	26	14	12(5)	6	5	1	0.058	11.8
病 院	21	75.0	6	2	12	7	5(6)	1	0	1	0.015	4.8
診 療 所	107	93.0	31	6	62	39	23(16)	8	6	2	0.079	7.5
計	179	89.5	54	10	100	60	40(27)	15	11	4	0.056	8.4

※ ( ) 内は中等度異形成

精密検査結果



4) 平成21年度子宮頸部がん検診受診状況

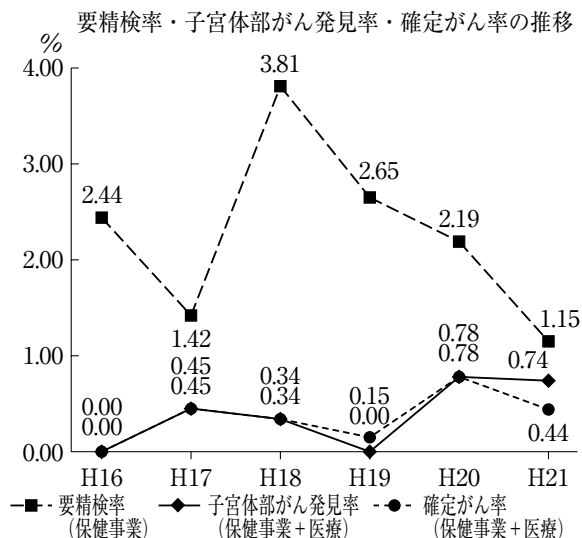
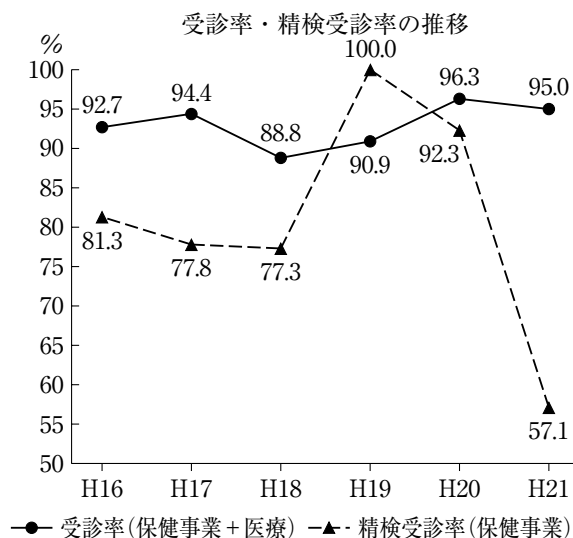
市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数					精密検査結果別人員						
	A	B	C	計	施設検診	車検診	受診率 (%)	F	G	H = F + G	I = H / D	J	K = J / H	L	M	N	O	P = M + N + O	がん発見 率 (%) Q = O / D
鳥取市	43,523	2,220	5,126	7,346	16.9	20	62	82	1.12	73	89.0	16	1	48	8	57	0.109	11.0	
米子市	33,143	0	6,627	6,627	20.0	0	46	46	0.69	44	95.7	13	5	24	2	31	0.030	4.5	
倉吉市	12,556	724	1,116	1,840	14.7	7	11	18	0.98	15	83.3	7	1	6	1	8	0.054	6.7	
境港市	8,086	0	1,066	1,066	13.2	0	9	9	0.84	8	88.9	4	0	2	2	4	0.188	25.0	
岩美町	3,227	664	78	742	23.0	1	2	3	0.40	2	66.7	1	0	1	1	1	0.000	0.0	
八頭町	4,552	1,175	136	1,311	28.8	8	1	9	0.69	8	88.9	5	0	2	1	3	0.076	12.5	
若桜町	1,237	338	22	360	29.1	3	0	3	0.83	3	100.0	1	0	2	2	2	0.000	0.0	
智頭町	2,219	232	191	423	19.1	1	0	1	0.24	1	100.0	0	0	1	1	1	0.000	0.0	
湯梨浜町	3,996	535	390	925	23.1	1	1	2	0.22	2	100.0	1	1	0	1	1	0.000	0.0	
三朝町	1,826	402	50	452	24.8	1	1	2	0.44	1	50.0	1	0	0	0	0	0.000	0.0	
北栄町	3,773	844	136	980	26.0	0	3	3	0.31	2	66.7	1	0	1	1	1	0.000	0.0	
琴浦町	4,933	1,293	26	1,319	26.7	7	0	7	0.53	7	100.0	2	0	4	1	5	0.076	14.3	
南部町	2,906	292	382	674	23.2	3	2	5	0.74	5	100.0	0	2	3	0	5	0.000	0.0	
伯耆町	3,068	587	272	859	28.0	2	0	2	0.23	2	100.0	0	0	2	0	2	0.000	0.0	
日吉津村	692	56	269	325	47.0	1	1	2	0.62	2	100.0	1	0	1	1	1	0.000	0.0	
大山町	5,179	362	448	810	15.6	0	4	4	0.49	3	75.0	1	0	2	0	2	0.000	0.0	
日南町	2,044	289	8	297	14.5	1	0	1	0.34	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
日野町	1,240	252	24	276	22.3	1	0	1	0.36	1	100.0	0	0	1	1	1	0.000	0.0	
江府町	1,032	0	311	311	30.1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000	0.0	
合計	139,232	10,265	16,678	26,943	19.4	57	143	200	0.74	179	89.5	54	10	100	15	125	0.056	8.4	
東部	54,758	4,629	5,553	10,182	18.6	33	65	98	0.96	87	88.8	23	1	54	9	64	0.088	10.3	
中部	27,084	3,798	1,718	5,516	20.4	16	16	32	0.58	27	84.4	12	2	11	2	15	0.036	7.4	
西部	57,390	1,838	9,407	11,245	19.6	8	62	70	0.62	65	92.9	19	7	35	4	46	0.036	6.2	

### (3) 子宮体部がん検診の受診者数及び受診率の推移

区分	16年度			17年度			18年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	743		743	710		710	672		672
	受診者数(人) B	657	32	689	636	34	670	577	20	597
	受診率(%) C = B / A	88.4		92.7	89.6		94.4	85.9		88.8
一次検診結果	異常認めず(人) D	641		641	627		627	555		555
	要精検者数(人) E	16		16	9		9	22		22
	要精検率(%) F = E / B	2.44		2.44	1.42		1.42	3.81		3.81
精密検査	精検受診者数(人) G	13		13	7		7	17		17
	精検受診率(%) H = G / E	81.3		81.3	77.8		77.8	77.3		77.3
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	0(1)	0(2)	0(3)	3(2)	0(2)	3(4)	1(1)	1(1)	2(2)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.00	0.00	0.00	0.47	0.00	0.45	0.17	5.00	0.34
	陽性反応適中度(%) K = I / G	0.0		0.0	42.9		42.9	5.9		5.9
確定調査結果	確定がん数(人) L			0			3			2
	確定がん率(%) M = L / B			0.00			0.45			0.34

区分	19年度			20年度			21年度			
	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	保健事業分	医療分	計	
一次検診	対象者数(人) A	732		732	667		667	715		715
	受診者数(人) B	641	24	665	593	49	642	608	71	679
	受診率(%) C = B / A	87.6		90.9	88.9		96.3	85.0		95.0
一次検診結果	異常認めず(人) D	624		624	580		580	601		601
	要精検者数(人) E	17		17	13		13	7		7
	要精検率(%) F = E / B	2.65		2.65	2.19		2.19	1.15		1.15
精密検査	精検受診者数(人) G	17		17	12		12	4		4
	精検受診率(%) H = G / E	100.0		100.0	92.3		92.3	57.1		57.1
精密検査結果	子宮がんの者(人) I	0(7)	0(3)	0(10)	5(1)	0(3)	5(4)	3(0)	2(4)	5(4)
	子宮がん発見率(%) J = I / B	0.00	0.00	0.00	0.84	0.00	0.78	0.49	2.8	0.74
	陽性反応適中度(%) K = I / G	0.0		0.0	41.7		41.7	75.0		75.0
確定調査結果	確定がん数(人) L			1			5			3
	確定がん率(%) M = L / B			0.15			0.78			0.44

- ※1 「保健事業分」=集団検診及び医療機関検診により検診を受けた者、「医療分」=集団検診において当日体部がん検診を受診せず、後日医療機関において受診した者  
 ※2 精密検査結果欄の( )内の数値は、がん疑いの者の数を外数で計上  
 ※3 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上  
 ※4 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出  
 ※5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上





#### (4) 平成21年度子宮体部がん検診結果

##### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 対象者数(人) a	一次検診 受診者数 b	受診率(%) c = b / a	一次検診結果		要精検率(%) e = d / b
				要精検者数 d	異常認めず	
20～24歳	7	7	100.0	0	7	0.00
25～29歳	20	16	80.0	0	16	0.00
30～34歳	44	41	93.2	0	41	0.00
35～39歳	80	74	92.5	1	73	1.35
40～44歳	110	95	86.4	1	94	1.05
45～49歳	118	109	92.4	1	108	0.92
50～54歳	158	132	83.5	0	132	0.00
55～59歳	64	56	87.5	2	54	3.57
60～64歳	49	36	73.5	0	36	0.00
65～69歳	33	23	69.7	2	21	8.70
70～74歳	21	14	66.7	0	14	0.00
75～79歳	6	3	50.0	0	3	0.00
80歳以上	5	2	40.0	0	2	0.00
計	715	608	85.0	7	601	1.15

##### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査 受診者数(人) f	精検受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				子宮体部 がん発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / f
			異常認めず	その他疾病	子宮内膜 増殖症	子宮体部 がん h		
20～24歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
25～29歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
30～34歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
35～39歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
40～44歳	1	100.0	0	1	0	0	0.00	0.0
45～49歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
50～54歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	1	50.0	0	0	0	1	1.79	100.0
60～64歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
65～69歳	2	100.0	0	0	0	2	8.70	100.0
70～74歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
計	4	57.1	0	1	0	3	0.49	75.0

##### 3) 一次検診会場で子宮体部がん検診を受診できなかった者の結果 (年齢階級別)

年 齢	体部がん検診 受診者数(人) k	精 密 検 査 結 果				子宮体部がん発見率 (%) m = l / k
		異常認めず	その他疾病	子宮内膜増殖症	子宮体部がん l	
20～24歳	0	0	0	0	0	0.000
25～29歳	3	2	0	1	0	0.000
30～34歳	2	2	0	0	0	0.000
35～39歳	5	5	0	0	0	0.000
40～44歳	11	8	1	1	1	9.091
45～49歳	7	6	1	0	0	0.000
50～54歳	14	11	2	1	0	0.000
55～59歳	4	4	0	0	0	0.000
60～64歳	11	10	1	0	0	0.000
65～69歳	5	4	1	0	0	0.000
70～74歳	6	3	3	0	0	0.000
75～79歳	1	1	0	0	0	0.000
80歳以上	2	0	0	1	1	50.000
計	71	56	9	4	2	2.817

4) 平成21年度子宮体部がん検診受診状況

市町村名	対象者数 (人)				受診者数			要精検者数				精密検査結果別人員					
	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精 受診者数	精検 率(%)	異 常 認めず	その 他の 疾病	子宮内 膜 増殖症	がん	有所見者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P	Q	R
鳥取市	353	276	276	78.2		1	1	0.36	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
米子市	171	171	171	100.0		2	2	1.17	2	100.0	0	0	0	2	2	1.17	100.0
倉吉市	94	77	77	81.9		1	1	1.30	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
境港市	15	15	15	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
岩美町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
若桜町	3	3	3	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
智頭町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	29	24	24	82.8		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
三朝町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
北栄町	4	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
琴浦町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
南部町	23	23	23	100.0		2	2	8.70	2	100.0	0	1	0	1	2	4.35	50.0
伯耆町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日吉津村	4	4	4	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
大山町	16	13	13	81.3		1	1	7.69	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
日南町	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	1	0	0	0.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
江府町	2	2	2	100.0		0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	715	608	608	85.0		7	7	1.15	4	57.1	0	1	0	3	4	0.49	75.0
東部	356	279	279	78.4		1	1	0.36	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
中部	127	101	101	79.5		1	1	0.99	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
西部	232	228	228	98.3		5	5	2.19	4	80.0	0	1	0	3	4	1.32	75.0

(5) 平成21年度子宮がん検診発見がん患者確定調査結果

表1 子宮がん検診確定調査結果（頸部）

最終診断	車検診		施設検診	
	平成20年度	平成21年度	平成20年度	平成21年度
異形成	9	25	23	74
頸癌0期	1	5	3	6
頸癌Ⅰa期	0	1	3	0
頸癌Ⅰb期以上	1	0	3	2
合計	11	31	32	82

表2 子宮がん検診確定調査結果（体部）

最終診断	平成20年度	平成21年度
内膜増殖症	4	5
体癌Ⅰa、Ⅰb期	2	2
体癌Ⅰc期以上	3	1
合計	9	8

表3 発見子宮がん症例（Ⅰb期以上）のがん検診受診歴

受診歴	車検診	施設検診	計
前年受診	0	1	1
2年間隔	0	0	0
3年以上の間隔	0	0	0
初回受診	0	1	1

表4 治療機関

	頸癌0期	頸癌Ⅰa期	頸癌Ⅰb期以上	計
鳥取大学医学部附属病院	2	0	0	2
鳥取県立中央病院	5	1	2	8
鳥取市立病院	1	0	0	1
鳥取県立厚生病院	2	0	0	2
博愛病院	1	0	0	1
計	11	1	2	14

### 3. 肺 が ん 検 診

#### 1. 肺がん検診実績

平成21年度対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）188,186人のうち、受診者数46,247人、受診率24.6%で前年度より0.1ポイント増加した。

このうち要精検者は2,122人、要精検率4.59%で、平成20年度より81人、0.15ポイント増加した。精密検査受診者は1,888人、精検受診率89.0%で、前年度より89人、0.9ポイント増加した。肺がん検診の受診率は昨年とほぼ同様であったが、平成17年度以降は30%を下回っている。要精検率と精検受診率は引き続き高く、その結果、肺がん31人、がん疑い87人の計118人が発見され、肺がん発見率は0.07%であった。追跡調査の結果、確定肺がんは49人（原発性41人、転移性8人）で、確定がん率は0.11%となり、前年度よりも0.01ポイント減少したが、がん疑いのまま確定がんに至らないケースも依然として多数あった。陽性反応適中度は前年度2.3%に比較して、平成21年度は1.6%と0.7ポイント減少した。これは要精検率が高くなった割にはがん発見率が増加していないことが原因である。要精検率は医療機関検診で高く、また地区毎に差があることも特徴である。受診率向上、陽性反応適中度を上げて効率良い検診をすること、肺癌疑いの症例を定期的にフォローすることが重要な課題である。

X線受診者総数46,247人のうち経年受診者は33,143人、経年受診率71.7%であった。喀痰検査の対象となる高危険群所属者は6,228人（13.5%）で、そのうち喀痰検査を受診した者は2,669人で、X線検査受診者の5.8%であった。そのうち要精検者は2人、要精検率0.07%で、がん疑いが2名発見された。

経年と非経年受診者、高危険群と非高危険群所属者のがん発見率の比較では、経年受診者のがん発見率は0.063%で、非経年受診者のがん発見率0.076%であった。また、高危険群所属者6,228人のうちがんが9人発見され、がん発見率0.145%、非高危険群所属者40,019人のうちがんが22人発見され、がん発見率0.055%で、高危険群所属者の方が2.6倍高かった。

平成20年度全国集計によると、受診率17.8%、要精検率2.92%、精検受診率88.9%、がん発見率0.06%、陽性反応適中度2.3%であった。

#### 2. 肺がん検診発見肺がん追跡調査結果

1) 昭和62年から平成21年までの発見肺がんは919人（発見率10万対69人）であった。発見方法は胸部X線821人、喀痰細胞診53人、両者43人、不明2人で、近年、喀痰細胞診から発見される肺がんの割合は激減している。平均年齢は72.0歳、男性555人、女性364で、近年の傾向として女性肺がんの増加が著しい。臨床病期はI期が513人（55.8%）で過半数を占め、558人（60.7%）に手術が行われた。予後調査では全症例（919例）の累積生存率は5生率45.5%、10生率28.6%であり、手術例では5生率64.2%、10生率42.9%であった。手術例I A期の5生率は72.9%、10生率は50.9%と良好な結果を示した。

2) 平成21年度調査結果

- (1) 受診者数は昨年と同様で、受診率は24.6%であった。要精検率は4.59%と増加し続けており、精検受診率も過去最高の89.0%となった。がん発見率は0.067%、陽性反応適中度1.6%と昨年を下回った。
- (2) 予後調査では原発性肺がん41例、転移性肺腫瘍8例、合計49例の肺がん確定診断を得た。し

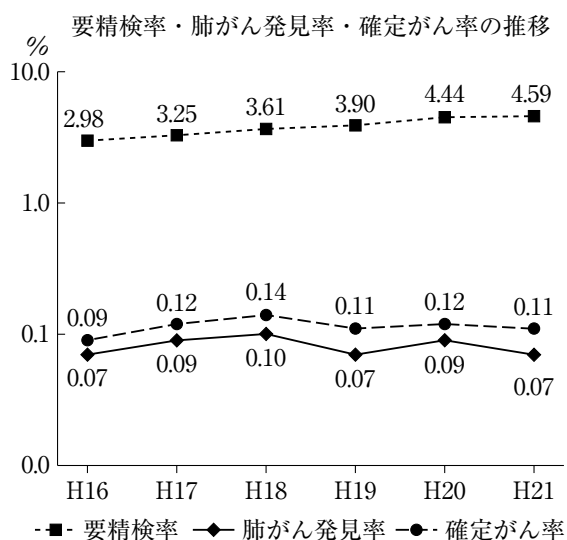
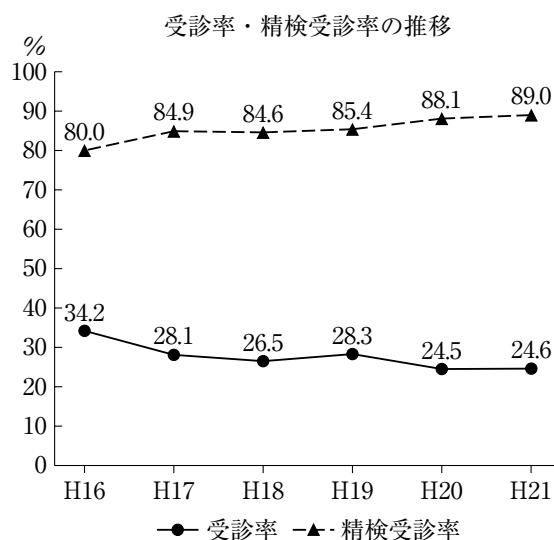
かしながら、E判定以外から3名の肺がんが確定しており、これらは検診発見肺がんとしては登録ができない。

- (3) 胸部X線でのみ発見された肺がんの割合は39/41例（95.2%）と高かったが、本年度は喀痰細胞診D判定による肺がん発見が2例あった。
- (4) 平均年齢は74.4歳と上昇、女性肺癌は18/41例（43.9%）と低下したが、腺癌は32/41例（78.0%）と引き続き高率であった。
- (5) 手術症例の割合は31/41例（75.6%）と増加し、その背景として、I期肺腺癌に多数施行されていた。
- (6) 腫瘍径は平均25.9mmで、2cm以下が12/41例（29.3%）とやや減少した。
- (7) 転移性肺腫瘍は8例で、原発巣は大腸癌2例、乳癌2例、前立腺癌2例、腎癌1例、胃癌1例であった。
- (8) 確定肺がん率（転移含む）は41.5%（49/118例）で、地区別に比較すると、東部53.3%、中部26.3%、西部58.1%であった。平成17～平成21年度の確定率では、東部、西部、中部の順に高い。

### (1) 肺がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	175,873	181,410	186,314	175,897	188,186	188,186
	受 診 者 数(人) B	60,113	51,020	49,296	49,806	46,015	46,247
	受 診 率(%) C = B/A	34.2	28.1	26.5	28.3	24.5	24.6
一次検診結果	異 常 認 め ず(人) D	58,327	49,361	47,516	47,866	43,974	44,125
	要 精 検 者 数(人) E	1,791	1,659	1,780	1,940	2,041	2,122
	要 精 検 率(%) F = E/B	2.98	3.25	3.61	3.9	4.44	4.59
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	1,433	1,409	1,505	1,656	1,799	1,888
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	80.0	84.9	84.6	85.4	88.1	89.0
精密検査結果	肺 がん の 者(人) I	45(48)	45(87)	47(75)	35(88)	41(94)	31(87)
	肺 がん 発 見 率(%) J = I/B	0.07	0.09	0.10	0.07	0.09	0.07
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	3.1	3.2	3.1	2.1	2.3	1.6
確定調査結果	確 定 が ん 数(人) L	52	62	67	55	55	49
	上記のうち原発性肺がん数(人) M	50	57	62	48	52	41
	確 定 が ん 率(%) N = L/B	0.09	0.12	0.14	0.11	0.12	0.11

- \* 1 精密検査結果中の ( ) 内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- \* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から【がん】の者のみを計上
- \* 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上
- \* 5 要精密検査者数 (E)、精検受診者数 (G)、肺がんの者 (I)、確定がん数 (L) については、E判定者を計上。(なお、19年度まではD判定から肺がん・肺がん疑いとなった者も追加して計上)



## (2) 平成21年度肺がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

#### a. X線検査結果

年 齢	対象者数(人)		胸部エックス線検査										エックス線フィルム読影結果							
			受診者数		受診率(%)			経年受診者数再掲		経年受診者数割合(%)		要精検者数		異常認めず		要精検率(%)			X線検査受診者中高危険群所属者	
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女
40～44歳	2,115	4,207	332	843	15.7	20.0	18.6	111	309	33.4	36.7	12	23	320	820	3.61	2.73	2.98	21	7
45～49歳	2,560	4,460	400	977	15.6	21.9	19.6	208	563	52.0	57.6	17	25	383	952	4.25	2.56	3.05	38	7
50～54歳	3,635	6,518	604	1,391	16.6	21.3	19.6	341	856	56.5	61.5	24	32	580	1,359	3.97	2.30	2.81	217	24
55～59歳	5,170	9,630	1,073	2,523	20.8	26.2	24.3	604	1,626	56.3	64.4	48	94	1,025	2,429	4.47	3.73	3.95	467	36
60～64歳	8,313	12,735	2,329	4,506	28.0	35.4	32.5	1,400	3,023	60.1	67.1	114	161	2,215	4,345	4.89	3.57	4.02	1,058	73
65～69歳	10,826	15,529	3,238	5,243	29.9	33.8	32.2	2,212	3,962	68.3	75.6	165	187	3,073	5,056	5.10	3.57	4.15	1,275	68
70～74歳	12,955	18,248	3,383	5,369	26.1	29.4	28.0	2,640	4,258	78.0	79.3	169	245	3,214	5,124	5.00	4.56	4.73	1,159	54
75～79歳	11,778	18,215	2,943	4,601	25.0	25.3	25.2	2,282	3,669	77.5	79.7	176	232	2,767	4,369	5.98	5.04	5.41	931	22
80歳以上	12,158	29,134	2,587	3,905	21.3	13.4	15.7	2,056	3,023	79.5	77.4	154	243	2,433	3,662	5.95	6.22	6.12	752	19
計	69,510	118,676	16,889	29,358	24.3	24.7	24.6	11,854	21,289	70.2	72.5	879	1,242	16,010	28,116	5.20	4.23	4.59	5,918	310
合計	188,186		46,247		24.6			33,143		71.7		2,121		44,126		4.59			6,228	

※1 経年受診者：昨年度も肺がん検診を受診した者

※2 高危険群所属者＝肺がんX線検査対象者のうち、問診の結果、原則として次のいずれかの条件に該当する者

①年齢50歳以上で喫煙指数（1日本数×年数）600以上の者

②6ヵ月以内に血痰のあった者

#### b. 喀痰細胞診結果

年 齢	喀痰細胞診受診者数(人)		喀痰細胞診結果				要精検率(%) j = i / h	
			要精検者数		精検不要			
	男	女	男	女	男	女	男	女
40～44歳	17	11	0	0	17	11	0.00	0.00
45～49歳	31	8	0	0	31	8	0.00	0.00
50～54歳	90	16	0	0	90	16	0.00	0.00
55～59歳	196	30	0	0	196	30	0.00	0.00
60～64歳	435	57	0	0	435	57	0.00	0.00
65～69歳	509	67	0	0	509	67	0.00	0.00
70～74歳	482	73	0	0	482	73	0.00	0.00
75～79歳	336	35	2	0	334	35	0.60	0.00
80歳以上	255	21	0	0	255	21	0.00	0.00
計	2,351	318	2	0	2,349	318	0.09	0.00
合計	2,669		2		2,667		0.07	

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	要精検者数 (人)		精密検査 受診者数		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	k		l		m = l / k			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん		o = n / b			p = n / l		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	12	23	11	20	91.7	87.0	88.6	7	15	4	5	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
45～49歳	17	25	12	19	70.6	76.0	73.8	8	15	4	4	0	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
50～54歳	24	32	22	29	91.7	90.6	91.1	9	20	10	9	3	0	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
55～59歳	48	94	39	84	81.3	89.4	86.6	20	36	18	47	1	1	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
60～64歳	114	161	94	147	82.5	91.3	87.6	39	66	52	68	1	11	2	2	0.086	0.044	0.059	2.1	1.4	1.7
65～69歳	165	187	142	178	86.1	95.2	90.9	64	73	71	94	3	9	4	2	0.124	0.038	0.071	2.8	1.1	1.9
70～74歳	169	245	145	221	85.8	90.2	88.4	51	84	85	122	5	13	4	2	0.118	0.037	0.069	2.8	0.9	1.6
75～79歳	177	232	164	217	92.7	93.5	93.2	54	77	94	127	11	9	5	4	0.170	0.087	0.119	3.0	1.8	2.4
80歳以上	154	243	132	212	85.7	87.2	86.6	39	77	78	124	11	9	4	2	0.155	0.051	0.092	3.0	0.9	1.7
計	880	1,242	761	1,127	86.5	90.7	89.0	291	463	416	600	35	52	19	12	0.112	0.041	0.067	2.5	1.1	1.6
合計	2,122		1,888		89.0			754		1,016		87		31		0.067			1.6		
X線のみ要精検	2,120		1,886		89.0			754		1,016		85		31		0.067			1.6		
喀痰のみ要精検	1		1		100.0			0		0		1		0		0.000			0.0		
X線+喀痰要精検	1		1		100.0			0		0		1		0		0.000			0.0		

3) 検診機関別

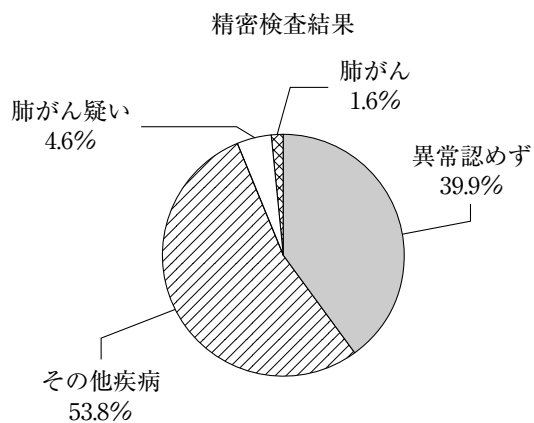
a. 一次検診結果

一次検診機関	受診者数(人)		一 次 検 診 結 果				要精検率(%)		
	a'		要精検者数 b'		異常認めず		c' = b' / a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	計
保 健 事 業 団	11,259	19,914	525	835	10,734	19,079	4.66	4.19	4.36
中国労働衛生協会	276	404	31	30	245	374	11.23	7.43	8.97
病 院	2,187	3,410	153	134	2,034	3,276	7.00	3.93	5.13
診 療 所	3,167	5,630	171	243	2,996	5,387	5.40	4.32	4.71
計	16,889	29,358	880	1,242	16,009	28,116	5.21	4.23	4.59
合 計	46,247		2,122		44,125		4.59		



b. 精密検査結果

一次検診 機 関	精密検査受 診者数(人)		精密検査受診率 (%)			精 密 検 査 結 果								肺がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	d'		e' = d'/b'			異常認めず		その他疾病		肺がん疑い		肺がん f'		g' = f'/a'			h' = f'/d'		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	448	738	85.3	88.4	87.2	170	306	237	388	25	38	16	6	0.142	0.030	0.071	3.6	0.8	1.9
中国労働衛生協会	27	29	87.1	96.7	91.8	8	15	17	11	2	3	0	0	0.000	0.000	0.000	0.0	0.0	0.0
病 院	135	127	88.2	94.8	91.3	61	51	70	70	2	4	2	2	0.091	0.059	0.071	1.5	1.6	1.5
診 療 所	151	233	88.3	95.9	92.8	52	91	92	131	6	7	1	4	0.032	0.071	0.057	0.7	1.7	1.3
計	761	1,127	86.5	90.7	89.0	291	463	416	600	35	52	19	12	0.112	0.041	0.067	2.5	1.1	1.6
合 計	1,888		89.0			754		1,016		87		31		0.067			1.6		



4) 平成21年度肺がん検診受診状況

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員										
	対象者数	車検診	施設検診	計	受診率 (%)	車検診	施設検診	計	要精検率 (%)	精検受診者数	精検受診率 (%)	異認めず	常その他の疾病	がん疑い	が	人	有所見者	がん発見率 (%)	陽性反応適中度 (%)
A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J		
鳥取市	56,203	3,173	12,504	15,677	27.9	58	473	531	3.39	495	93.2	188	286	11	10	307	0.064	2.0	
米子市	41,718	5,580	0	5,580	13.4	253	0	253	4.53	225	88.9	90	123	7	5	135	0.090	2.2	
倉吉市	17,326	1,898	722	2,620	15.1	122	113	235	8.97	208	88.5	81	108	17	2	127	0.076	1.0	
境港市	10,887	1,040	0	1,040	9.6	44	0	44	4.23	40	90.9	14	23	1	2	26	0.192	5.0	
岩美町	4,781	995	0	995	20.8	24	0	24	2.41	22	91.7	8	9	3	2	14	0.201	9.1	
八頭町	6,612	3,000	145	3,145	47.6	63	6	69	2.19	52	75.4	26	24	0	2	26	0.064	3.8	
若桜町	1,864	617	0	617	33.1	8	0	8	1.30	7	87.5	3	3	1	0	4	0.000	0.0	
智頭町	3,343	592	274	866	25.9	12	8	20	2.31	19	95.0	8	10	1	0	11	0.000	0.0	
湯梨浜町	5,856	1,834	390	2,224	38.0	90	69	159	7.15	149	93.7	56	77	15	1	93	0.045	0.7	
三朝町	2,750	1,249	41	1,290	46.9	58	0	58	4.50	51	87.9	23	23	4	1	28	0.078	2.0	
北栄町	5,699	2,053	224	2,277	40.0	146	19	165	7.25	141	85.5	49	86	4	2	92	0.088	1.4	
琴浦町	7,298	2,849	94	2,943	40.3	138	13	151	5.13	120	79.5	42	67	10	1	78	0.034	0.8	
南部町	4,188	1,276	0	1,276	30.5	87	0	87	6.82	78	89.7	33	44	1	0	45	0.000	0.0	
伯耆町	4,502	1,687	0	1,687	37.5	79	0	79	4.68	74	93.7	39	33	0	2	35	0.119	2.7	
日吉津村	897	283	0	283	31.5	13	0	13	4.59	9	69.2	2	7	0	0	7	0.000	0.0	
大山町	7,684	2,289	0	2,289	29.8	133	0	133	5.81	116	87.2	56	55	4	1	60	0.044	0.9	
日南町	3,182	435	0	435	13.7	16	0	16	3.68	14	87.5	7	6	1	0	7	0.000	0.0	
日野町	1,843	323	0	323	17.5	16	0	16	4.95	12	75.0	6	4	2	0	6	0.000	0.0	
江府町	1,553	680	0	680	43.8	61	0	61	8.97	56	91.8	23	28	5	0	33	0.000	0.0	
合計	188,186	31,853	14,394	46,247	24.6	1,421	701	2,122	4.59	1,888	89.0	754	1,016	87	31	1,134	0.067	1.6	
東部	72,803	8,377	12,923	21,300	29.3	165	487	652	3.06	595	91.3	233	332	16	14	362	0.066	2.4	
中部	38,929	9,883	1,471	11,354	29.2	554	214	768	6.76	669	87.1	251	361	50	7	418	0.062	1.0	
西部	76,454	13,593	0	13,593	17.8	702	0	702	5.16	624	88.9	270	323	21	10	354	0.074	1.6	

(3) 平成21年度肺がん検診発見がん患者の予後調査の確定について

肺がん確定診断（原発性919、転移性113） 1,032例

他部位癌（鼻腔1、咽頭2、喉頭3、悪性中皮腫1、その他5） 12例

総 計 1,044例

1) 肺がん確定診断

(単位：例)

	62年	63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年
原発性肺癌	6	22	18	32	36	37	41	22	38
転移性肺腫瘍	0	4	4	4	7	9	3	5	5
合 計	6	26	22	36	43	46	44	27	43

	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
原発性肺癌	38	53	40	41	42	30	48	65	50
転移性肺腫瘍	4	2	7	7	6	7	6	3	2
合 計	42	55	47	48	48	37	54	68	52

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	合計
原発性肺癌	57	62	48	52	41	919
転移性肺腫瘍	5	5	7	3	8	113
合 計	62	67	55	55	49	1,032

2) 原発性肺がん診断方法

				〔H21年度集計〕				
胸 X 間 接	Dのみ	245例	} 821例( 89.3%)	Dのみ	0例	} 39例( 95.2%)	(E：8例、E1：26例、E2：5例)	
	Eのみ	576例			Eのみ			39例
細 胞 診	Dのみ	19例	} 53例( 5.8%)	Dのみ	1例	} 1例( 2.4%)		
	Eのみ	34例			Eのみ			0例
胸X線間接と細胞診	D + D	10例	} 43例( 4.7%)	D + D	0例	} 1例( 2.4%)		
	D + E	8例			D + E			0例
	E + D	6例			E + D			1例
	E + E	19例			E + E			0例
	不明	2例	} 2例( 0.2%)	不明	0例	} 0例( 0.0%)		
計 919例				計 41例				

3) 精密検診受診・原発性肺癌発見の状況

年	受診者 (人)	要精検者 (人)	精検受診者 (人)	肺癌発見者 (人)	発見者 (対人口10万)
S 62	16,420	745(4.54%)	652(87.5%)	6	37
S 63	38,445	65(0.17%)	60(92.3%)	22	57
H 1	52,473	117(0.22%)	107(91.5%)	18	34
H 2	68,374	153(0.22%)	132(86.3%)	32	49
H 3	70,189	95(0.14%)	89(93.7%)	36	51
H 4	69,909	133(0.19%)	111(83.5%)	37	53
H 5	69,027	133(0.19%)	98(72.9%)	41	59
H 6	66,316	103(0.16%)	89(86.4%)	22	33
H 7	65,226	162(0.25%)	135(83.3%)	38	58
H 8	64,169	114(0.18%)	91(79.8%)	38	59
H 9	67,092	152(0.23%)	123(80.9%)	53	79
H10	64,540	137(0.21%)	111(81.0%)	40	62
H11	64,845	169(0.26%)	142(84.0%)	41	64
H12	62,837	311(0.49%)	242(77.8%)	42	67
H13	62,631	216(0.34%)	152(70.4%)	30	48
H14	63,616	343(0.54%)	271(79.0%)	48	75
H15	63,649	640(1.01%)	489(76.4%)	65	102
H16	60,113	1,791(2.98%)	1,433(80.0%)	50	83
H17	51,020	1,659(3.25%)	1,409(84.9%)	57	112
H18	49,296	1,780(3.61%)	1,505(84.6%)	62	126
H19	49,806	1,940(3.90%)	1,656(85.4%)	48	96
H20	46,015	2,041(4.44%)	1,799(88.1%)	52	113
H21	46,247	2,122(4.59%)	1,888(89.0%)	41	89
計	1,332,255	15,121(1.13%)	12,784(84.5%)	919	69

4) 原発性肺癌 (919例)

(1) 年齢・性別

[H21年度集計]

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	63例	6.9
60～69歳	274	29.8
70～79歳	423	46.0
80～	159	17.3
計	919	100.0

平均年齢=72.0  
男：女=555例：364例

区分	原発性肺癌	比率 (%)
～59歳	0例	0.0
60～69歳	11	26.8
70～79歳	21	51.2
80～	9	22.0
計	41	100.0

平均年齢=74.4  
男：女=23例：18例

(2) 原発性肺癌の臨床病期と組織型

a. 病期分類

[H21年度集計]

臨床病期	(%)
Occult	2例
I A	361(39.3)
I B	150
II A	30
II B	59
III A	125
III B	62
IV	104
不明	26
計	919

臨床病期	(%)
Occult	0
I A	19(46.3)
I B	7
II A	3
II B	1
III A	5
III B	3
IV	3
不明	0
計	41

} 26  
(63.4%)

b. 組織型

〔H21年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	239例
腺癌	527(57.3)
大細胞癌	14
小細胞癌	53
腺扁平上皮癌	9
腺様嚢胞癌	1
不明	77
計	920

組織型	(%)
扁平上皮癌	6例
腺癌	32(78.0)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	2
計	41

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

(3) 原発性肺癌の手術症例 (558例、

手術率：60.7%)

a. 臨床病期、術後病期

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	2例	Occult	2例
I A	309(55.4)	I A	273(48.9)
I B	117	I B	123
II A	16	II A	21
II B	34	II B	40
III A	61	III A	62
III B	13	III B	23
IV	6	IV	14
計	558	計	558

〔H21年度集計〕

原発性肺癌の手術症例

(31例、手術率：75.6%)

臨床病期 (%)		術後病期 (%)	
Occult	0例	Occult	0例
I A	16(51.6)	I A	15(48.4)
I B	6	I B	6
II A	3	II A	2
II B	1	II B	2
III A	4	III A	4
III B	1	III B	2
IV	0	IV	0
計	31	計	31

b. 組織型分類

〔20年度集計〕

組織型	(%)
扁平上皮癌	132例
腺癌	388(69.5)
大細胞癌	12
小細胞癌	6
腺扁平上皮癌	10
腺様嚢胞癌	1
不明	9
計	558

組織型	(%)
扁平上皮癌	3例
腺癌	27(87.1)
大細胞癌	1
小細胞癌	0
腺扁平上皮癌	0
腺様嚢胞癌	0
不明	0
計	31

※1例 扁平上皮癌と腺癌の同時多発癌を含む

(4) 腫瘍径

腫瘍径 (mm)	H10年度 (%)	H11年度 (%)	H12年度 (%)	H13年度 (%)	H14年度 (%)	H15年度 (%)	H16年度 (%)	H17年度 (%)	H18年度 (%)	H19年度 (%)	H20年度 (%)	H21年度 (%)
0～10	1	2	1	0	2	1	2	4	2	4	3	2
11～20	9(22.5)	10	15(35.7)	11(36.7)	17(35.4)	11	17(34.7)	11	26(41.9)	14(31.8)	21(40.4)	10
21～30	6	15(36.6)	7	6	13	13	10	16(28.6)	15	18	6	13(31.7)
31～40	6	9	8	9	8	17(26.2)	12	11	10	5	14	8
41～50	7	1	3	1	3	8	4	4	2	3	5	6
51～	7	2	6	3	3	13	5	6	4	1	1	2
不明	4	2	2	0	2	2	0	5	3	3	2	0
計	40	41	42	30	48	65	50	57	62	48	52	41
平均	37.1mm	27.9mm	32.2mm	33.5mm	28.8mm	38.7mm	29.6mm	30.6mm	26.0mm	24.6mm	26.1mm	25.9mm
最高	90mm	70mm	80mm	100mm	85mm	145mm	70mm	85mm	59mm	57mm	71mm	68mm

5) 転移性肺腫瘍 (113例)

大腸癌：28例 甲状腺癌：10例 腎臓癌：11例 乳癌：11例 前立腺癌：9例  
 肝臓癌：7例 胃癌：4例 尿管癌：4例 胆のう癌：3例 胆管癌：3例  
 子宮癌：3例 卵巣癌：2例 肺癌：2例 食道癌：2例 膵臓癌：2例  
 顎下腺：1例 子宮肉腫：1例 胸腺癌：1例 肛門癌：1例 膀胱癌：1例  
 咽頭癌：1例 後腹膜腫瘍：1例 不明：5例

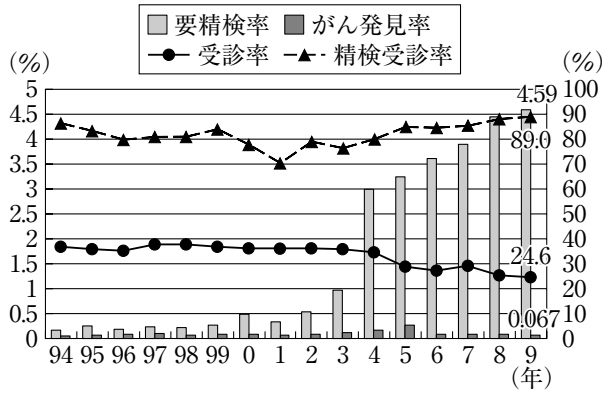
平成21年度集計 (8例)

大腸癌：2例 乳癌：2例 前立腺癌：2例 腎癌：1例 胃癌：1例

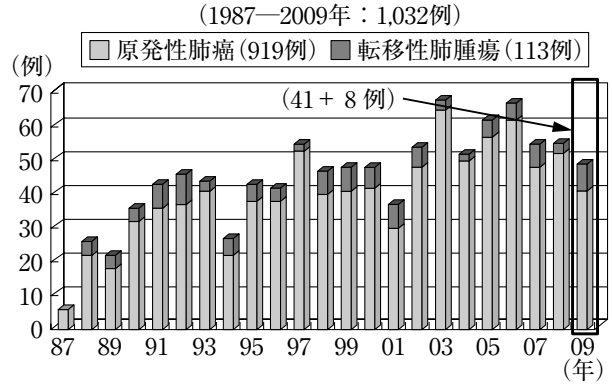
6) 平成21年度原発性肺がん確定者の施設検診と車検診の比較

	施設検診	車検診
受診者数	14,394	31,853
要精検数	701(4.9%) 東部：487(3.8%) 中部：214(14.5%) 西部：—	1,421(4.5%) 東部：165(2.0%) 中部：554(5.6%) 西部：702(5.2%)
確定者数	11名(0.076%)	30名(0.094%)
発見方法	E判定 7名 E1判定 4名	E判定 1例 E1判定 22名 E2判定(喀痰D 1例含む) 6名 喀痰D判定 1名
年齢	71.8歳	75.4歳
性差	男4名、女7名	男19名、女11名
臨床病期	ⅠA 6名、ⅠB 2名 ⅡA 1名、ⅡB 1名 ⅢA 0名、ⅢB 0名 Ⅳ 1名	ⅠA 12名、ⅠB 5名 ⅡA 1名、ⅡB 1名 ⅢA 5名、ⅢB 4名 Ⅳ 2名
組織型	扁平上皮癌 1名、腺癌 9名 大細胞癌 1名、小細胞癌 0名 不明 0名	扁平上皮癌 5名、腺癌 23名 大細胞癌 0名、小細胞癌 0名 不明 2名
手術	あり 9名、なし 2名	あり 22名、なし 8名
腫瘍径	25.4mm	29.2mm

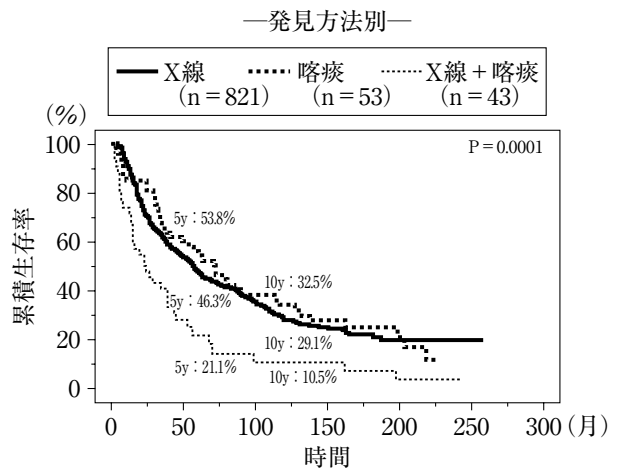
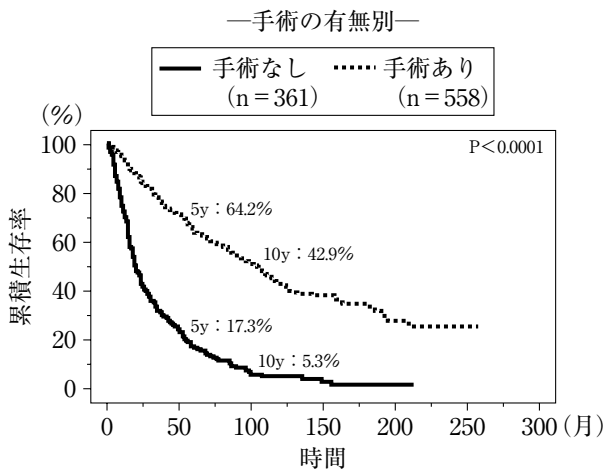
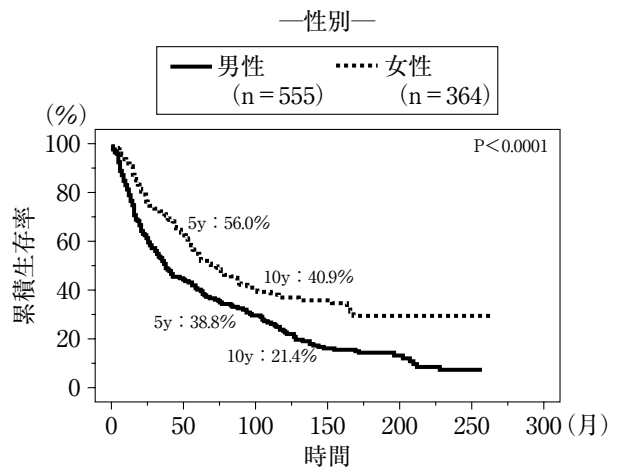
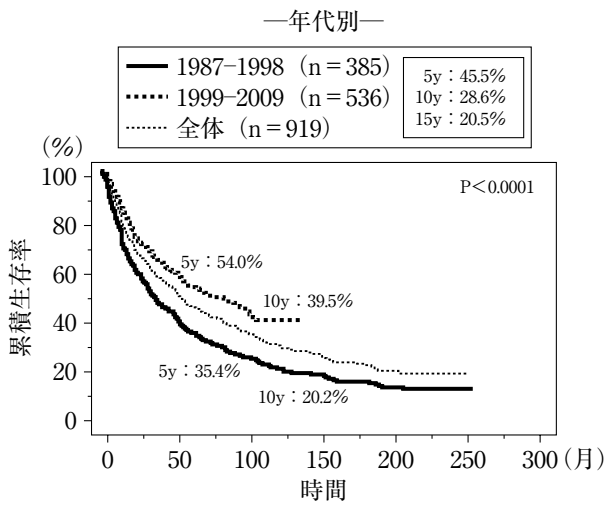
7) 肺癌検診の受診率・精検率・がん発見率の推移

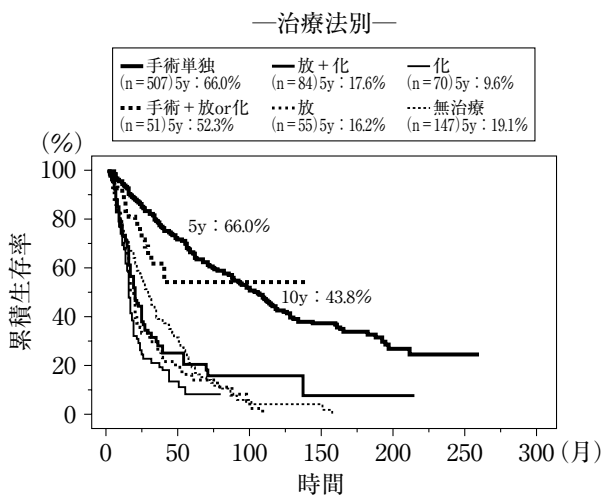
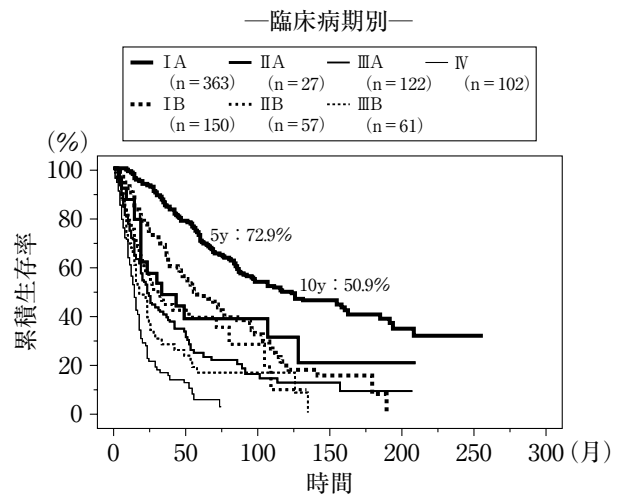
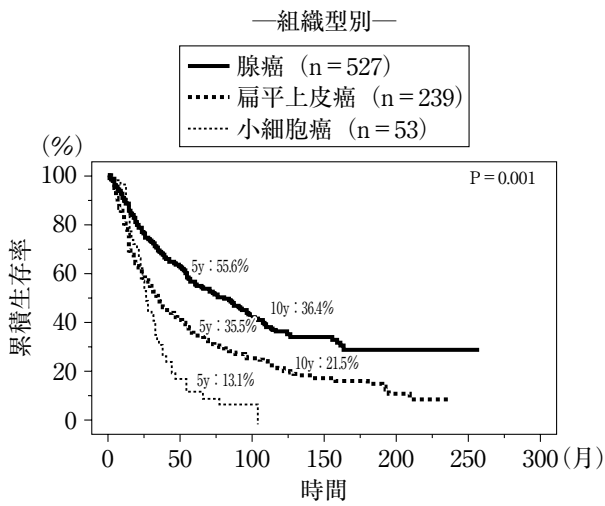


8) 検診で発見された肺癌の推移

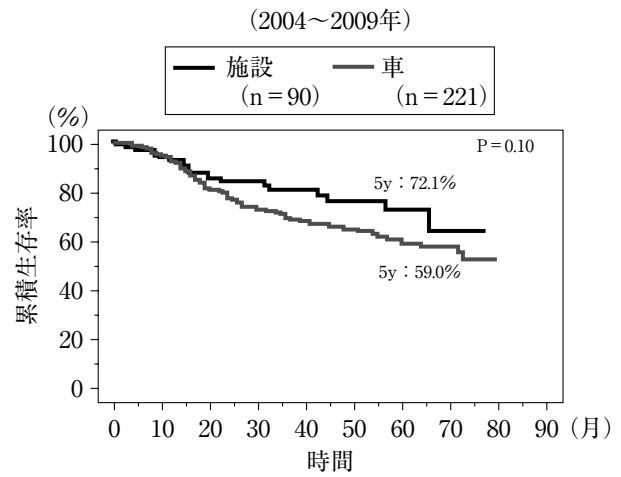


9) 検診発見肺癌の予後

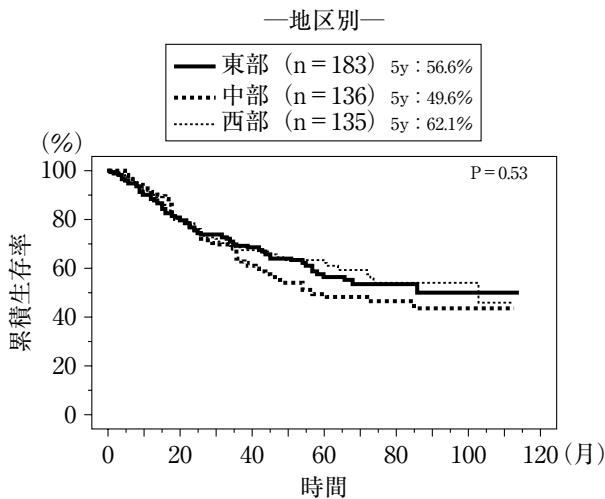




10) 施設検診と車検診の予後の比較



11) 検診発見肺癌の予後 (2001~2009年)





## 4. 乳 が ん 検 診

### 1. 乳がん検診実績

平成17年度より40歳以上を対象者とし、同一人が隔年でマンモグラフィ併用検診を行うことに検診内容が変更となった。平成21年度の対象者数は118,676人で、受診者数は19,278人、16.2%であった。なお、2年合わせた平成21年度の最終受診率は結果的に27.7%となった。

要精検者数は1,544人、要精検率は8.01%で前年度より0.25ポイント増加した。精検受診者数は1,427人、精検受診率は92.4%と前年度を0.2ポイント減少した。この結果、乳がんが57人発見され、がん疑いは1人発見された。発見率は0.30%、陽性反応適中度は3.99%であった。前年度に比して、それぞれ9人増加したが、発見率は0.03ポイント、陽性反応適中度は0.58ポイント減少した。

要精検率は全国平均の8%とほぼ同様となり、マンモグラフィ読影の精度管理は維持されているものと思われる。地区別でみると東部8.48%、中部7.56%、西部7.80%とあまり圏域での差はみられない。地区別のがん発見率は、東部0.30%、中部0.26%、西部0.30%。陽性反応適中度はそれぞれ4.0%、3.7%、4.1%と圏域での差がみられなくなった。

年齢階級別では40歳代から60歳代までの受診率が例年20~30%を推移していたが、21年度は30~40%と高くなっていた。これは乳がん検診無料クーポン券事業の結果であろうと思われる。今年度導入された乳がん無料クーポン券事業の実績をみると配布数は20,619件、利用者数4,936件、利用率23.9%で、全国平均より低かった。今後、利用率の向上に工夫が必要と思われるが、この事業で受診率の向上が見られたことから新規受診者の掘り起こしに役立つよう運用していかなくてはならない。

### 2. 乳がん検診発見乳がん確定調査結果

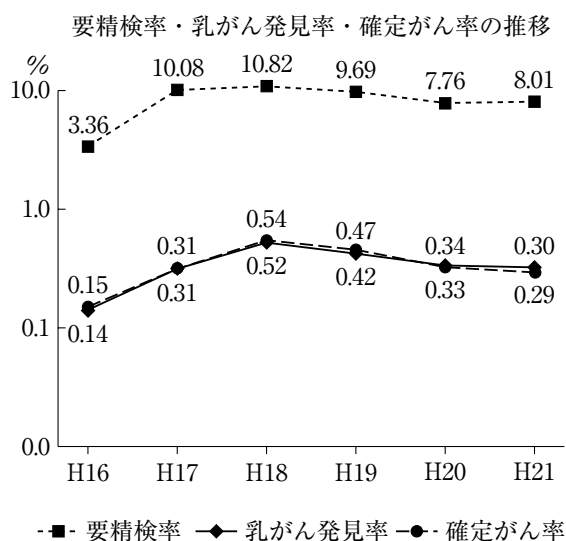
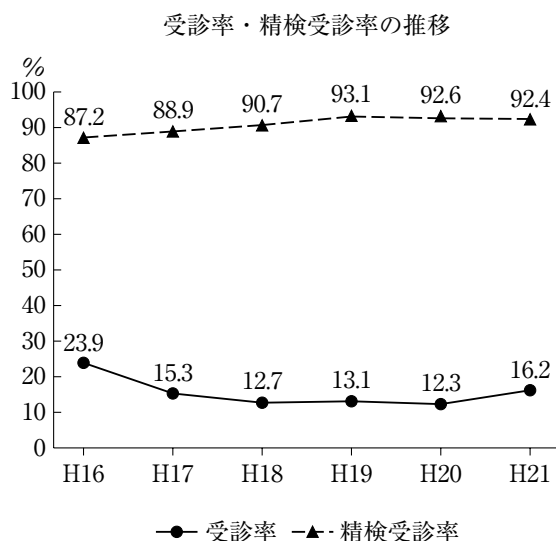
平成21年度に発見された乳がんまたは乳がん疑い59例について確定調査を行った結果、56例（両側1例）が確定乳がんで、調査中3例であった。

- (1) 平成21年度検診発見乳癌は56例で、非浸潤癌は9例であった。境港市での増加が著しい。これは、平成21年度よりマンモグラフィ併用検診が導入されたためと思われる。
- (2) マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が24例（44.4%）と平成20年度61.5%より減少した。経年受診者が増加したためと考えられる。
- (3) 一次検診要精検例でマンモグラフィ異常なしが3例あった。
- (4) リンパ節転移率はマンモグラフィ発見例において6.7%（平成20年度45.5%）で触知例では23.8%であった。
- (5) 触知乳癌のほうが化学療法を有意に多く受けていた。術前化学療法2例、トラスツズマブ使用5例であった。
- (6) 平成19年、20年度に検診を受けていた症例のうち16例が平成21年度に乳がんとして診断されており、各地区読影委員会において、症例検討を行う。

## (1) 乳がん検診の受診者数及び受診率の推移

区 分		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	125,270	112,384	109,634	108,292	118,676	118,676
	受 診 者 数(人) B	29,888	17,237	13,956	14,134	14,624	19,278
	受 診 率(%) C = B/A (国算定方法)	23.9	15.3	12.7	13.1	12.3	16.2
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	28,885	15,499	12,446	12,765	13,489	17,734
	要 精 検 者 数(人) E	1,003	1,738	1,510	1,369	1,135	1,544
	要 精 検 率(%) F = E/B	3.36	10.08	10.82	9.69	7.76	8.01
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	875	1,545	1,370	1,275	1,051	1,427
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	87.2	88.9	90.7	93.1	92.6	92.4
精 密 検 査 結 果	乳 が ん の 者(人) I	43(3)	53(7)	73(7)	59(8)	48(4)	57(1)
	乳 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.14	0.31	0.52	0.42	0.33	0.30
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.91	3.43	5.33	4.63	4.57	3.99
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	46	53	75	67	(52)49	56
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.15	0.31	0.54	0.47	0.34	0.29

- \* 1 精密検査結果欄の( )内の数値はがん疑いの者の数を外数で計上
- \* 2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上
- \* 3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者数を分母として算出
- \* 4 平成19年度報告より、視触診のみの受診者数を除く受診結果を計上
- \* 5 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上  
平成20年度報告より、視・マンモ併用検診で発見された数、( )内の数値は視触診のみ検診で発見された数を含んだ数



## (2) 平成21年度乳がん検診結果（視触診及びマンモグラフィ併用）

### 1) 一次検診結果（年齢階級別）

年 齢	対象者数 (人) a	一次検診 受診者数 b	受診率 (%) c = b/a	一次検診結果		要精検率 (%) e = d/b	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
				要精検者数 d	異常認めず		要精検者数 f	要精検率 (%) g = f/b	要精検者数 h	要精検率 (%) i = h/b	要精検者数 j	要精検率 (%) k = j/b
40～44歳	4,207	2,282	54.2	233	2,049	10.21	52	2.28	158	6.92	23	1.01
45～49歳	4,460	2,003	44.9	241	1,762	12.03	64	3.20	149	7.44	28	1.40
50～54歳	6,518	2,505	38.4	249	2,256	9.94	36	1.44	181	7.23	32	1.28
55～59歳	9,630	2,707	28.1	182	2,525	6.72	37	1.37	132	4.88	13	0.48
60～64歳	12,735	3,944	31.0	275	3,669	6.97	51	1.29	191	4.84	33	0.84
65～69歳	15,529	2,309	14.9	139	2,170	6.02	18	0.78	104	4.50	17	0.74
70～74歳	18,248	2,101	11.5	139	1,962	6.62	37	1.76	95	4.52	7	0.33
75～79歳	18,170	964	5.3	60	904	6.22	18	1.87	38	3.94	4	0.41
80歳以上	29,179	463	1.6	26	437	5.62	3	0.65	17	3.67	6	1.30
計	118,676	19,278	16.2	1,544	17,734	8.01	316	1.64	1,065	5.52	163	0.85

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人) l	精検受診率 (%) m = l / d	精密検査結果				乳がん 発見率(%) o = n / b	陽性反応 適中度(%) p = n / l
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん n		
40～44歳	214	91.8	109	102	0	3	0.13	1.40
45～49歳	219	90.9	108	108	0	3	0.15	1.37
50～54歳	230	92.4	107	116	0	7	0.28	3.04
55～59歳	173	95.1	96	71	0	6	0.22	3.47
60～64歳	257	93.5	159	84	0	14	0.35	5.45
65～69歳	130	93.5	83	40	0	7	0.30	5.38
70～74歳	128	92.1	77	42	1	8	0.38	6.25
75～79歳	53	88.3	34	16	0	3	0.31	5.66
80歳以上	23	88.5	13	4	0	6	1.30	26.09
計	1,427	92.4	786	583	1	57	0.30	3.99

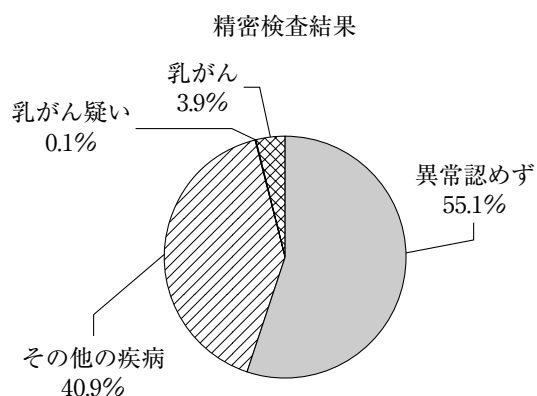
3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'	一次検診結果		要精検率 (%) c' = b' / a'	視触診のみ要精検		マンモグラフィのみ要精検		視触診・マンモとも要精検	
		要精検者数 b'	異常認めず		要精検者数 d'	要精検率 (%) e' = d' / a'	要精検者数 f'	要精検率 (%) g' = f' / a'	要精検者数 h'	要精検率 (%) i' = h' / a'
保健事業団	8,074	626	7,448	7.75	137	1.70	439	5.44	50	0.62
病 院	9,024	748	8,276	8.29	166	1.84	476	5.27	106	1.17
診 療 所	2,127	162	1,965	7.62	9	0.42	147	6.91	6	0.28
そ の 他	53	8	45	15.09	4	7.55	3	5.66	1	1.89
計	19,278	1,544	17,734	8.01	316	1.64	1,065	5.52	163	0.85

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数 (人) j'	精検受診率 (%) k' = j' / b'	精密検査結果				乳がん 発見率(%) m' = l' / a'	陽性反応 適中度(%) n' = l' / j'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん l'		
保健事業団	576	92.0	359	193	1	23	0.28	3.99
病 院	687	91.8	342	315	0	30	0.33	4.37
診 療 所	156	96.3	79	73	0	4	0.19	2.56
そ の 他	8	100.0	6	2	0	0	0.00	0.00
計	1,427	92.4	786	583	1	57	0.30	3.99



4) 平成21年度乳がん検診受診状況(視触診及びマンモグラフィ併用)

市町村名	受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員									
	対象者数 A	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精検受診 率(%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	がん疑い N	が ん O	有 見 者 P=M+N+O	がん発見 率(%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
鳥取市	35,817	1,825	3,242	5,067	14.1	196	273	469	9.26	425	90.6	258	149	0	18	167	0.36	4.2
米子市	26,968	720	3,530	4,250	15.8	34	293	327	7.69	311	95.1	119	179	0	13	192	0.31	4.2
倉吉市	10,921	638	708	1,346	12.3	40	47	87	6.46	81	93.1	47	32	0	2	34	0.15	2.5
境港市	6,828	404	1,043	1,447	21.2	22	136	158	10.92	153	96.8	90	55	0	8	63	0.55	5.2
岩美町	2,895	47	690	737	25.5	3	32	35	4.75	32	91.4	24	6	0	2	8	0.27	6.3
八頭町	4,101	802	111	913	22.3	76	3	79	8.65	67	84.8	46	19	0	2	21	0.22	3.0
若桜町	1,161	217	13	230	19.8	22	1	23	10.00	22	95.7	16	6	0	0	6	0.00	0.0
智頭町	2,086	3	264	267	12.8	0	6	6	2.25	6	100.0	4	2	0	0	2	0.00	0.0
湯梨浜町	3,551	478	218	696	19.6	33	17	50	7.18	46	92.0	27	16	0	3	19	0.43	6.5
三朝町	1,687	246	0	246	14.6	28	0	28	11.38	26	92.9	14	12	0	0	12	0.00	0.0
北栄町	3,400	551	101	652	19.2	36	5	41	6.29	37	90.2	22	13	0	2	15	0.31	5.4
琴浦町	4,436	704	220	924	20.8	66	20	86	9.31	77	89.5	50	24	0	3	27	0.32	3.9
南部町	2,608	291	276	567	21.7	20	18	38	6.70	38	100.0	22	14	0	2	16	0.35	5.3
伯耆町	2,844	403	164	567	19.9	17	22	39	6.88	34	87.2	12	22	0	0	22	0.00	0.0
日吉津村	582	84	57	141	24.2	5	6	11	7.80	11	100.0	4	7	0	0	7	0.00	0.0
大山町	4,702	291	276	567	12.1	19	23	42	7.41	36	85.7	15	20	1	0	21	0.00	0.0
日南町	1,957	229	9	238	12.2	7	0	7	2.94	7	100.0	6	0	0	1	1	0.42	14.3
日野町	1,165	194	16	210	18.0	10	0	10	4.76	10	100.0	5	4	0	1	5	0.48	10.0
江府町	967	0	213	213	22.0	0	8	8	3.76	8	100.0	5	3	0	0	3	0.00	0.0
合計	118,676	8,127	11,151	19,278	16.2	634	910	1,544	8.01	1,427	92.4	786	583	1	57	641	0.30	4.0
東部	46,060	2,894	4,320	7,214	15.7	297	315	612	8.48	552	90.2	348	182	0	22	204	0.30	4.0
中部	23,995	2,617	1,247	3,864	16.1	203	89	292	7.56	267	91.4	160	97	0	10	107	0.26	3.7
西部	48,621	2,616	5,584	8,200	16.9	134	506	640	7.80	608	95.0	278	304	1	25	330	0.30	4.1

【参考】

●平成21年度乳がん検診（視触診のみ）

1) 一次検診結果

年 齢	一 次 検 診 受 診 者 数 b	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) e = d / b
		要 精 検 者 数 d	異 常 認 め ず	
40 ～ 44 歳	16	6	10	37.50
45 ～ 49 歳	13	8	5	61.54
50 ～ 54 歳	6	4	2	66.67
55 ～ 59 歳	4	1	3	25.00
60 ～ 64 歳	11	9	2	81.82
65 ～ 69 歳	6	5	1	83.33
70 ～ 74 歳	6	3	3	50.00
75 ～ 79 歳	5	3	2	60.00
80 歳 以 上	5	2	3	40.00
計	72	41	31	56.94

2) 精密検査結果（年齢階級別）

年 齢	精密検査 受診者数 (人) f	精密検査 受診率 (%) g = f / d	精 密 検 査 結 果				乳がん 発見率 (%) i = h / b	陽性反応 適中度 (%) j = h / f
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん h		
40～44歳	5	83.3	3	1	0	1	6.25	20.0
45～49歳	6	75.0	5	1	0	0	0.00	0.0
50～54歳	4	100.0	4	0	0	0	0.00	0.0
55～59歳	1	100.0	1	0	0	0	0.00	0.0
60～64歳	9	100.0	8	1	0	0	0.00	0.0
65～69歳	5	100.0	5	0	0	0	0.00	0.0
70～74歳	2	66.7	2	0	0	0	0.00	0.0
75～79歳	3	100.0	3	0	0	0	0.00	0.0
80歳以上	2	100.0	2	0	0	0	0.00	0.0
計	37	90.2	33	3	0	1	1.39	2.7

3) 検診機関別

a. 一次検診結果

一次検診機関	一 次 検 診 受 診 者 数 (人) a'	一 次 検 診 結 果		要 精 検 率 (%) c' = b' / a'
		要 精 検 者 数 b'	異 常 認 め ず	
保健事業団	1	0	1	0.00
病 院	38	35	3	92.11
診 療 所	33	6	27	18.18
そ の 他	—	—	—	—
計	72	41	31	56.94

b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査 受診者数 (人) d'	精密検査 受診率 (%) e' = d'/b'	精密検査結果				乳がん 発見率 (%) g' = f'/a'	陽性反応 適中度 (%) h' = f'/d'
			異常認めず	その他の疾病	乳がん疑い	乳がん f'		
保健事業団	0	0.0	0	0	0	0	0.00	0.0
病 院	34	97.1	31	2	0	1	2.63	2.9
診 療 所	3	50.0	2	1	0	0	0.00	0.0
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—
計	37	90.2	33	3	0	1	1.39	2.7

4) 平成21年度乳がん検診受診状況(視触診のみ)

市町村名	受診者数			要精検者数					精密検査結果別人員							
	車検診 B	施設検診 C	計 D=B+C	車検診 F	施設検診 G	計 H=F+G	要精検率 (%) I=H/D	精 受診者数 J	精 検 率 (%) K=J/H	異 常 認めず L	その他 の疾病 M	がん 疑い N	が ん O	有 見 者 P=M+N+O	がん 発見 率 (%) Q=O/D	陽性反応 適中度(%) R=O/J
米子市	0	1	1	0	1	1	100.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
倉吉市	0	64	64	0	40	40	62.50	37	92.5	33	3	0	1	4	1.56	2.7
境港市	0	6	6	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
八頭町	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
合計	1	71	72	0	41	41	56.94	37	90.2	33	3	0	1	4	1.39	2.7
東部	1	0	1	0	0	0	0.00	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0
中部	0	64	64	0	40	40	62.50	37	92.5	33	3	0	1	4	1.56	2.7
西部	0	7	7	0	1	1	14.29	0	0.0	0	0	0	0	0	0.00	0.0

(4) 平成21年度乳がん検診発見がん患者確定調査結果

1) 登録届け出数 59

確定乳癌 56 (両側 1例)

調査中 3

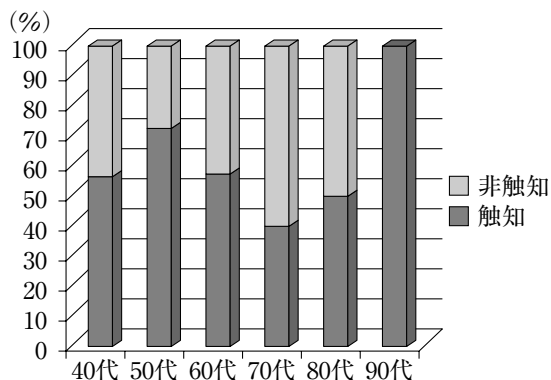
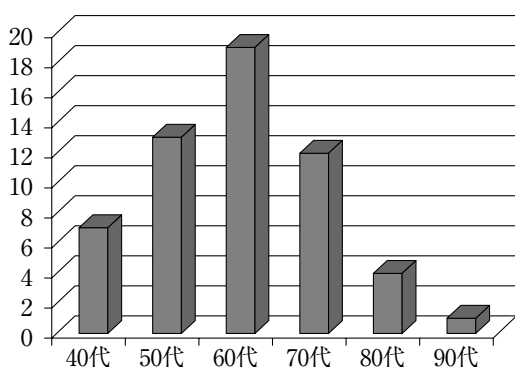
鳥取市18、米子市13、倉吉市 3、境港市 8

岩美町 2、八頭町 2、湯梨浜町 3、琴浦町 3、北栄町 2

大山町 1、南部町 2、日南町 1、日野町 1

2) 年齢構成 平均年齢 62.9歳

平成21年度

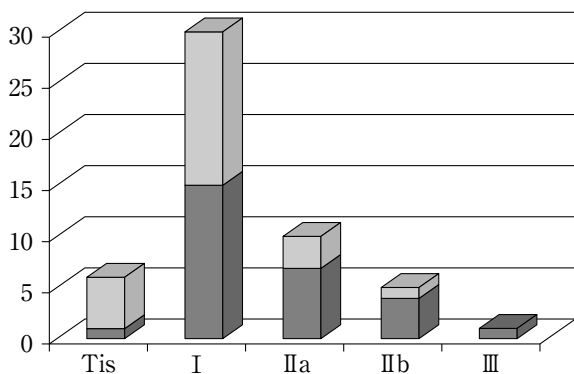


一次検診医の診断

要精検 30 (MMGで所見無し 3例)

異常なし (= MMG発見) 24

3) 病期分類



p = 0.146

4) 組織型

非浸潤癌 9

浸潤癌46、不明 1

リンパ節転移の有無 7/38

MMG発見 1

一次要精査 5 (1個2例、5個、9個、13個各1例) p = 0.6380



5) 検診歴

初回検診 21例  
 繰り返し検診 H19年 11例、平成20年 5例

6) 手術術式 手術数 54

	乳房温存術	乳房切除術	
MMG発見	21	2	p = 0.0501
一次要精査	20	9	
	41	11	

腋窩郭清	あり	SLNB	なし
MMG発見	7	17	3
一次要精査	15	14	0

7) 薬物治療

	化学療法	内分泌療法	なし
MMG発見	1 / 23	20 / 23	3
一次要精査	7 / 29	27 / 29	0
	P = 0.0432		

まとめ

1. 平成21年度検診発見乳癌は56例で、非浸潤癌は9例であった。境港市での増加が著しい。
2. H20年、19年にマンモグラフィ検診を受けていた症例が16例あった。
3. マンモグラフィによる非触知乳癌の発見が24例（44.4%）と昨年（61.5%）より減少した。
4. 一次検診要精検例でマンモグラフィ異常なしが3例あった。
5. リンパ節転移率はマンモグラフィ発見例において6.7%（昨年45.5%）で触知例では23.8%であった。
6. 触知乳癌のほうが化学療法有意に多く受けていた。術前化学療法2例、トラスツズマブ使用5例であった。

## 5. 大腸がん検診

### 1. 大腸がん検診実績

対象者数（40歳以上のうち職場等で受診機会のない者として厚生労働省が示す算式により算定した推計数）は188,186人で、このうち受診者数は48,949人、受診率は26.0%であった。

鳥取県では受診率向上を目指して平成18年度から全市町村で1日2個法を導入してきたが、受診率は年々低下する傾向にあり、最も高かった平成15年度の31.4%に比べると5.4%も低下した。このうち要精検者数は4,169人で、要精検率8.5%、精検受診者は3,178人、精検受診率76.2%であった。精密検査の結果、大腸がんは134人、大腸がん疑いは8人であった。がん発見率は0.27%、陽性反応適中度は4.2%であった。

要精検率は横ばいに推移している。精検受診率は増加傾向にあり、過去最高であった。その中で、がん発見率、陽性反応の適中度は平成18年度をピークにして、わずかながら減少傾向にある。

要精検率は東部7.7%、中部6.8%、西部10.1%、がん発見率は東部0.276%、中部0.330%、西部0.247%、陽性反応適中度は東部4.6%、中部6.9%、西部3.2%であった。検診機関別の要精検率は、鳥取県保健事業団6.1%、中国労働衛生協会5.5%、病院12.0%、診療所9.5%であった。

平成20年度全国集計によると、受診率16.1%、要精検率7.19%、精検受診率82.1%、がん発見率0.21%、陽性反応適中度3.6%であった。

### 2. 大腸がん検診発見大腸がん確定調査結果

検診で発見された大腸がん及びがん疑い142例について確定調査を行った結果、確定癌137例（地域検診41例、施設検診96例）であった。そのうち早期がんは71例、早期癌率は51.8%であった。

調査の結果は、以下のとおりであった。

- (1) 性及び年齢では男女とも65歳以上からがんが多く発見された。
- (2) 部位では「R」と「S」が59.1%、肉眼分類では「2」38.0%で、平成20年度20%に比べ高かった。早期癌の肉眼分類では「Ip」「Isp」が54.9%であった。
- (3) 大きさは、10mm以下が26例（19.0%）であった。
- (4) Dukes分類は「A」が62.8%、組織型分類は「Well」が52.6%、「Mod」が41.6%であった
- (5) 治療方法は外科手術が54例（39.4%）、内視鏡下手術27例（19.7%）、内視鏡治療は53例（38.7%）であった。内視鏡下手術が近年増加傾向にあるようである。
- (6) 逐年検診発見進行大腸がんは21例（東部6例、中部4例、西部11例）であった。

21例中、前年度の結果が要精検だったのが3件あり、1件は異常なし、1件は再検査、1件は精検未受診であった。

各地区で症例検討を行って頂き、問題点等について検討して頂く。

### (1) 大腸がん検診の受診者数及び受診率の推移

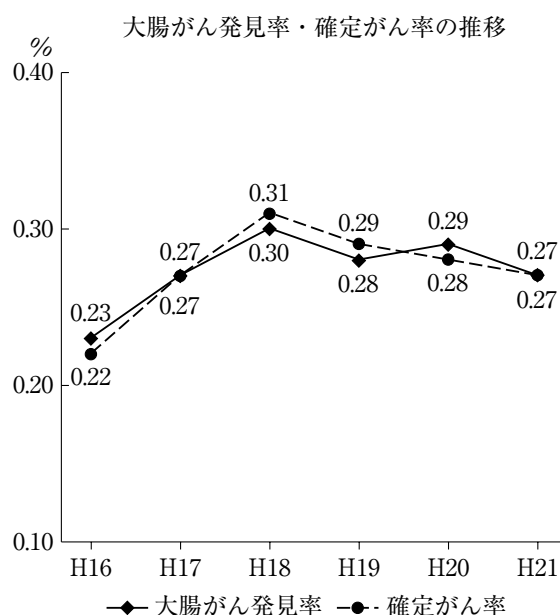
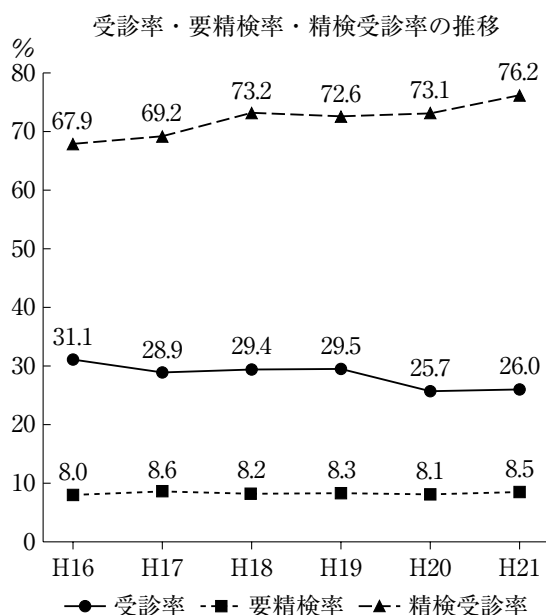
区 分		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
一 次 検 診	対 象 者 数(人) A	174,300	180,366	176,794	175,367	188,186	188,186
	受 診 者 数(人) B	54,170	52,045	52,026	51,773	48,409	48,949
	受 診 率(%) C = B/A	31.1	28.9	29.4	29.5	25.7	26.0
一 次 検 診 結 果	異 常 認 め ず(人) D	49,818	47,569	47,782	47,468	44,497	44,780
	要 精 検 者 数(人) E	4,352	4,476	4,244	4,305	3,912	4,169
	要 精 検 率(%) F = E/B	8.0	8.6	8.2	8.3	8.1	8.5
精 密 検 査	精 検 受 診 者 数(人) G	2,955	3,097	3,108	3,126	2,858	3,178
	精 検 受 診 率(%) H = G/E	67.9	69.2	73.2	72.6	73.1	76.2
精 密 検 査 結 果	大 腸 が ん の 者(人) I	123(8)	138(6)	156(9)	145(5)	138(5)	134(8)
	大 腸 が ん 発 見 率(%) J = I/B	0.23	0.27	0.30	0.28	0.29	0.27
	陽 性 反 応 適 中 度(%) K = I/G	4.2	4.5	5.0	4.6	4.8	4.2
確 定 調 査 結 果	確 定 が ん 数(人) L	119	139	159	149	136	134
	確 定 が ん 率(%) M = L/B	0.22	0.27	0.31	0.29	0.28	0.27

※1 精密検査結果欄の( )内の数値は「がん疑いの者」の数を外数で計上

※2 がん発見率及び陽性反応適中度は、平成18年度報告から「がん」の者のみを計上

※3 陽性反応適中度は、平成19年度報告から精検受診者を分母として算出

※4 確定がん数は、検診により発見された「がん」又は「がん疑い」の者を調査により計上



## (2) 平成21年度大腸がん検診結果

### 1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	対象者数 (人)		一次検診受診者数		受診率 (%)			一次検診結果				要精検率 (%)		
	a		b		c = b/a			要精検者数		異常認めず		e = d/b		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	計
40～44歳	2,115	4,207	406	992	19.2	23.6	22.1	27	57	379	935	6.7	5.7	6.0
45～49歳	2,560	4,460	507	1,209	19.8	27.1	24.4	36	81	471	1,128	7.1	6.7	6.8
50～54歳	3,635	6,518	746	1,719	20.5	26.4	24.3	59	99	687	1,620	7.9	5.8	6.4
55～59歳	5,170	9,630	1,231	2,735	23.8	28.4	26.8	105	166	1,126	2,569	8.5	6.1	6.8
60～64歳	8,313	12,735	2,530	4,745	30.4	37.3	34.6	241	330	2,289	4,415	9.5	7.0	7.8
65～69歳	10,826	15,529	3,581	5,584	33.1	36.0	34.8	358	398	3,223	5,186	10.0	7.1	8.2
70～74歳	12,955	18,248	3,661	5,622	28.3	30.8	29.8	365	409	3,296	5,213	10.0	7.3	8.3
75～79歳	11,778	18,215	3,080	4,635	26.2	25.4	25.7	361	419	2,719	4,216	11.7	9.0	10.1
80歳以上	12,158	29,134	2,497	3,469	20.5	11.9	14.4	316	342	2,181	3,127	12.7	9.9	11.0
計	69,510	118,676	18,239	30,710	26.2	25.9	26.0	1,868	2,301	16,371	28,409	10.2	7.5	8.5
合計	188,186		48,949		26.0			4,169		44,780		8.5		

### 2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年 齢	精密検査受診者数 (人)		精密検査受診率 (%)			精密検査結果								大腸がん発見率 (%)			陽性反応適中度 (%)		
	f		g = f/d			異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん		i = h/b			j = h/f		
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
40～44歳	16	39	59.3	68.4	65.5	8	24	7	15	0	0	1	0	0.246	0.000	0.072	6.3	0.0	1.8
45～49歳	22	61	61.1	75.3	70.9	5	36	16	25	0	0	1	0	0.197	0.000	0.058	4.5	0.0	1.2
50～54歳	38	83	64.4	83.8	76.6	16	47	21	35	0	0	1	1	0.134	0.058	0.081	2.6	1.2	1.7
55～59歳	64	138	61.0	83.1	74.5	13	74	43	59	1	0	7	5	0.569	0.183	0.303	10.9	3.6	5.9
60～64歳	161	265	66.8	80.3	74.6	38	129	119	131	0	0	4	5	0.158	0.105	0.124	2.5	1.9	2.1
65～69歳	276	335	77.1	84.2	80.8	62	147	195	173	0	0	19	15	0.531	0.269	0.371	6.9	4.5	5.6
70～74歳	285	336	78.1	82.2	80.2	78	151	195	170	1	1	11	14	0.300	0.249	0.269	3.9	4.2	4.0
75～79歳	280	338	77.6	80.7	79.2	96	149	165	178	2	2	17	9	0.552	0.194	0.337	6.1	2.7	4.2
80歳以上	214	227	67.7	66.4	67.0	69	85	131	131	1	0	13	11	0.521	0.317	0.402	6.1	4.8	5.4
計	1,356	1,822	72.6	79.2	76.2	385	842	892	917	5	3	74	60	0.406	0.195	0.274	5.5	3.3	4.2
合計	3,178		76.2			1,227		1,809		8		134		0.274			4.2		

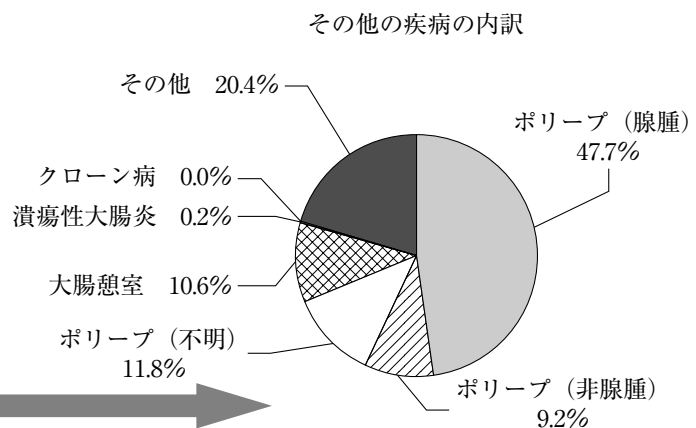
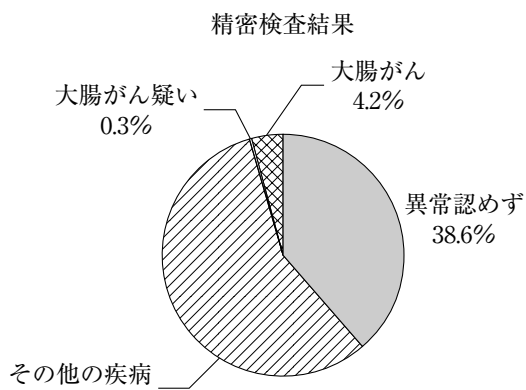
### 3) 検診機関別

#### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数 (人) a'		一次検診結果				要精検率 (%) c' = b' / a'		
	男	女	要精検者数 b'		異常認めず		男	女	計
			男	女	男	女			
保健事業団	7,202	11,563	536	612	6,666	10,951	7.4	5.3	6.1
中国労働衛生協会	287	382	22	15	265	367	7.7	3.9	5.5
<b>地域検診小計</b>	<b>7,489</b>	<b>11,945</b>	<b>558</b>	<b>627</b>	<b>6,931</b>	<b>11,318</b>	<b>7.5</b>	<b>5.2</b>	<b>6.1</b>
病院	2,864	4,562	405	484	2,459	4,078	14.1	10.6	12.0
診療所	7,886	14,203	905	1,190	6,981	13,013	11.5	8.4	9.5
<b>施設検診小計</b>	<b>10,750</b>	<b>18,765</b>	<b>1,310</b>	<b>1,674</b>	<b>9,440</b>	<b>17,091</b>	<b>12.2</b>	<b>8.9</b>	<b>10.1</b>
計	18,239	30,710	1,868	2,301	16,371	28,409	10.2	7.5	8.5
合計	48,949		4,169		44,780		8.5		

#### b. 精密検査結果

一次検診機関	精密検査受診者数(人) d'		精密検査受診率 (%) e' = d' / b'			精密検査結果								大腸がん発見率 (%) g' = f' / a'			陽性反応適中度 (%) h' = f' / d'		
	男	女	男	女	計	異常認めず		その他の疾病		大腸がん疑い		大腸がん f'		男	女	計	男	女	計
						男	女	男	女	男	女	男	女						
保健事業団	365	485	68.1	79.2	74.0	109	235	233	232	0	1	23	17	0.319	0.147	0.213	6.3	3.5	4.7
中国労働衛生協会	15	12	68.2	80.0	73.0	5	5	8	7	1	0	1	0	0.348	0.000	0.149	6.7	0.0	3.7
<b>地域検診小計</b>	<b>380</b>	<b>497</b>	<b>68.1</b>	<b>79.3</b>	<b>74.0</b>	<b>114</b>	<b>240</b>	<b>241</b>	<b>239</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>24</b>	<b>17</b>	<b>0.320</b>	<b>0.142</b>	<b>0.211</b>	<b>6.3</b>	<b>3.4</b>	<b>4.7</b>
病院	287	396	70.9	81.8	76.8	82	180	193	207	2	1	10	8	0.349	0.175	0.242	3.5	2.0	2.6
診療所	689	929	76.1	78.1	77.2	189	422	458	471	2	1	40	35	0.507	0.246	0.340	5.8	3.8	4.6
<b>施設検診小計</b>	<b>976</b>	<b>1,325</b>	<b>74.5</b>	<b>79.2</b>	<b>77.1</b>	<b>271</b>	<b>602</b>	<b>651</b>	<b>678</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>50</b>	<b>43</b>	<b>0.465</b>	<b>0.229</b>	<b>0.315</b>	<b>5.1</b>	<b>3.2</b>	<b>4.0</b>
計	1,356	1,822	72.6	79.2	76.2	385	842	892	917	5	3	74	60	0.406	0.195	0.274	5.5	3.3	4.2
合計	3,178		76.2			1,227		1,809		8		134		0.274			4.2		



4) 平成21年度大腸がん検診受診状況

市町村名	対象者数(人)				受診者数				要精検者数				精密検査結果別人員															
	地域検診		施設機関		計		受診率(%)		地域検診		施設機関		計		要精検率(%)		精検受診率(%)		異認めず		他の疾病		がん疑い		がん発見率(%)		陽性反応適中度(%)	
	A	B	C	D=B+C	E=D/A	F	G	H=F+G	I=H/D	J	K=J/H	L	M	N	O	P=M+N+O	Q=O/D	R=O/J										
鳥取市	56,203	2,568	12,021	14,589	26.0	163	1,009	1,172	8.0	914	78.0	355	512	4	43	559	0.295	4.7										
米子市	41,718	0	11,880	11,880	28.5	0	1,210	1,210	10.2	908	75.0	350	519	0	39	558	0.328	4.3										
倉吉市	17,326	1,836	734	2,570	14.8	130	71	201	7.8	141	70.1	62	66	0	13	79	0.506	9.2										
境港市	10,887	0	2,281	2,281	21.0	0	436	436	19.1	383	87.8	130	249	0	4	253	0.175	1.0										
岩美町	4,781	1,114	225	1,339	28.0	83	17	100	7.5	71	71.0	24	44	0	3	47	0.224	4.2										
八頭町	6,612	2,720	143	2,863	43.3	172	17	189	6.6	138	73.0	58	74	0	6	80	0.210	4.3										
若桜町	1,864	447	171	618	33.2	20	18	38	6.1	27	71.1	15	11	0	1	12	0.162	3.7										
智頭町	3,343	288	608	896	26.8	15	47	62	6.9	55	88.7	12	38	2	3	43	0.335	5.5										
湯梨浜町	5,856	937	404	1,341	22.9	57	40	97	7.2	75	77.3	27	45	0	3	48	0.224	4.0										
三朝町	2,750	693	17	710	25.8	36	7	43	6.1	27	62.8	12	15	0	0	15	0.000	0.0										
北栄町	5,699	2,141	224	2,365	41.5	150	16	166	7.0	111	66.9	50	53	0	8	61	0.338	7.2										
琴浦町	7,298	1,718	93	1,811	24.8	83	10	93	5.1	68	73.1	28	35	0	5	40	0.276	7.4										
南部町	4,188	619	599	1,218	29.1	37	59	96	7.9	73	76.0	30	42	0	1	43	0.082	1.4										
伯耆町	4,502	1,357	0	1,357	30.1	75	0	75	5.5	53	70.7	21	31	0	1	32	0.074	1.9										
日吉津村	897	290	0	290	32.3	14	0	14	4.8	10	71.4	4	6	0	0	6	0.000	0.0										
大山町	7,684	1,236	0	1,236	16.1	74	0	74	6.0	58	78.4	17	39	0	2	41	0.162	3.4										
日南町	3,182	502	100	602	18.9	25	27	52	8.6	32	61.5	17	13	1	1	15	0.166	3.1										
日野町	1,843	385	15	400	21.7	21	0	21	5.3	10	47.6	6	4	0	0	4	0.000	0.0										
江府町	1,553	583	0	583	37.5	30	0	30	5.1	24	80.0	9	13	1	1	15	0.172	4.2										
合計	188,186	19,434	29,515	48,949	26.0	1,185	2,984	4,169	8.5	3,178	76.2	1,227	1,809	8	134	1,951	0.274	4.2										
東部	72,803	7,137	13,168	20,305	27.9	453	1,108	1,561	7.7	1,205	77.2	464	679	6	56	741	0.276	4.6										
中部	38,929	7,325	1,472	8,797	22.6	456	144	600	6.8	422	70.3	179	214	0	29	243	0.330	6.9										
西部	76,454	4,972	14,875	19,847	26.0	276	1,732	2,008	10.1	1,551	77.2	584	916	2	49	967	0.247	3.2										

(3) 平成21年度大腸がん検診発見大腸がん患者確定調査結果

表1 報告癌と確定癌

	地域検診				施設検診				計			総計
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	
報告癌	15	20	8	43	47	9	43	99	62	26	50	142
確定癌	14	20	7	41	45	8	43	96	59	28	50	137
腺腫	0	0	1	1	2	1	0	3	2	1	1	4
その他	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1

表2 性及び年齢

年齢		40～	45～	50～	55～	60～	65～	70～	75～	80～	計
地域	男	0	0	1	3	4	5	2	4	4	23
	女	0	0	0	3	2	2	5	4	2	18
	計	0	0	1	6	6	7	7	8	6	41
施設	男	1	0	0	5	0	14	9	12	9	50
	女	0	0	1	2	4	13	11	6	9	46
	計	1	0	1	7	4	27	20	18	18	96
計	男	1	0	1	8	4	19	11	16	13	73
	女	0	0	1	5	6	15	16	10	11	64
総計		1	0	2	13	10	34	27	26	24	137

表3 部位

	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
P	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R	6	6	2	14	12	0	11	23	37(27.0)
S	5	2	1	8	15	6	15	36	44(32.1)
D	0	1	0	1	2	0	2	4	5(3.6)
T	0	4	2	6	3	0	6	9	15(10.9)
A	3	6	2	11	11	2	6	19	30(21.9)
C	0	1	0	1	2	0	3	5	6(4.4)
V	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	14	20	7	41	45	8	43	96	137

表4 大きさ

大きさ (mm)	地域検診				施設検診				総計 (%)
	東部	中部	西部	小計	東部	中部	西部	小計	
0～10	2	5	4	11	6	4	5	15	26(19.0)
11～20	8	8	2	18	22	2	15	39	57(41.6)
21～50	4	4	1	9	9	2	17	28	37(27.0)
51～	0	2	0	2	6	0	5	11	13( 9.5)
不明	0	1	0	1	2	0	1	3	4( 2.9)
計	14	20	7	41	45	8	43	96	137

表5 肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
0	25	46	71(51.8)
1	1	11	12( 8.8)
2	14	38	52(38.0)
3	1	1	2( 1.5)
4	0	0	0
5	0	0	0
不明	0	0	0
計	41	96	137

表6 0型の肉眼分類

肉眼型	地域検診	施設検診	計 (%)
I p	4	9	13(18.3)
I sp	9	17	26(36.6)
I s	5	6	11(15.5)
II a	2	6	8(11.3)
II a+ II c	2	5	7( 9.9)
II b	0	0	0
II c	2	1	3( 4.2)
III	0	1	1( 1.4)
その他	1	1	2( 2.8)
不明	0	0	0
計	25	46	71

表7 深達度

深達度	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
m	7	7	2	15	5	11	47(34.3)
sm	2	5	2	9	0	5	23(16.8)
不明	0	0	0	0	0	1	1( 0.7)
小計	9	12	4	24	5	17	71(51.8)
mp	1	2	2	9	1	11	26(19.0)
ss	3	5	1	7	2	11	29(21.2)
se	1	0	0	4	0	3	8( 5.8)
si	0	0	0	0	0	1	1( 0.7)
不明	0	1	0	1	0	0	2( 1.5)
計	14	20	7	45	8	43	137



表8 Dukes分類

Dukes分類	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
A	10	14	6	30	6	20	86(62.8)
B	3	4	0	4	2	4	17(12.4)
C	1	1	1	10	0	15	28(20.4)
D	0	1	0	0	0	3	4( 2.9)
不明	0	0	0	1	0	1	2( 1.5)
計	14	20	7	45	8	43	137

表9 組織型分類

組織型	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
Wel	9	11	4	25	4	19	72(52.6)
Mod	5	9	2	15	4	22	57(41.6)
Por	0	0	0	0	0	2	2( 1.5)
Muc	0	0	0	1	0	0	1( 0.7)
その他	0	0	0	3	0	0	3( 2.2)
不明	0	0	1	1	0	0	2( 1.5)
計	14	20	7	45	8	43	137

表10 治療法

治療方法	地域検診			施設検診			計 (%)
	東部	中部	西部	東部	中部	西部	
外科手術	6	7	1	14	2	24	54(39.4)
内視鏡下手術	1	4	2	11	1	8	27(19.7)
内視鏡治療	7	8	4	19	5	10	53(38.7)
その他不明	0	1	0	1	0	1	3( 2.2)
計	14	20	7	45	8	43	137

表11 平成21年度逐年検診発見進行癌

検診方式	地区	No	年齢	性	部位	大きさ	深達度	肉眼型	組織型	便潜血	stage	前年度検査結果				
												検診方式	便潜血	精密結果		
地域 検診	東部	1	77	男性	S状結腸	21mm	mp	2	Mod	++	I	地域検診	-	・	-	
		2	78	女性	上行結腸	30mm	ss (a1)	2	Mod	++	III a	施設検診	-	・	-	
		3	76	男性	上行結腸	15mm	ss (a1)	2	Mod	++	I	地域検診	-	・	-	
	中部	4	83	男性	上行結腸	55mm	ss (a1)	2	Well	++	II	地域検診	-	・	-	
		5	60	女性	上行結腸	31mm	ss (a1)	2	Mod	++	III a	地域検診	-	・	-	
		6	72	女性	上行結腸	20mm	mp	2	Well	++	I	地域検診	-	・	-	
		7	65	女性	上行結腸	29mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	地域検診	-	・	-	
施設 検診	東部	8	68	女性	盲腸	35mm	se (a2)	2	Mod	++	II	施設検診	-	・	-	
		9	67	男性	上行結腸	32mm	ss (a1)	2	Well	++	III a	施設検診	-	・	-	
		10	77	女性	直腸	15mm	mp	1	Mod	+ -	I	施設検診	-	・	-	
	西部	11	71	女性	S状結腸	15mm	se (a2)	2	Mod	++	IV	施設検診	-	・	-	
		12	71	女性	盲腸	50mm	ss (a1)	2	Mod	++	III a	施設検診	-	・	-	
		13	67	女性	上行結腸	130mm	se (a2)	2	Por1	++	IV	施設検診	+	・	+	異常なし
		14	74	女性	横行結腸	30mm	mp	2	Por1	++	III a	施設検診	+	・	+	S状と下行結腸にポリープ再検査
		15	78	男性	上行結腸	50mm	ss (a1)	2	Well	++	II	施設検診	-	・	-	
		16	67	女性	上行結腸	15mm		2	Mod	++	III a	施設検診	-	・	-	
		17	66	男性	直腸	36mm	ss (a1)	2	Mod	++	III b	施設検診	+	・	+	精検未受診
		18	66	女性	S状結腸	28mm		2	Mod	++	III a	施設検診	問診要注意			
		19	63	女性	横行結腸	20mm	mp	1	Well	+ -	I	施設検診	-	・	-	
		20	62	女性	横行結腸	60mm	ss (a1)	2	Mod	++	II	施設検診	-	・	-	
		21	89	男性	上行結腸	60mm	mp	2	Mod	++	IV	施設検診	-	・	-	

## 6. 肝 臓 が ん 検 診

### 1. 鳥取県における肝臓がん検診事業の沿革

年 度	検 診 事 業	実 施 方 法
H 7～9	肝臓がん検診（単県）	・基本健診と同時実施 ・3年間のうち1年間のみ全市町村が実施
H10～13	肝臓がん検診（単県）	・原則、基本健診と同時実施。単独も可 ・希望市町村のみ。複数年にわたる継続実施も可 ・定期検査開始
H14	肝炎ウイルス検査（国庫）	・基本健診と同時実施（H18までの緊急対策） ・節目検診（40—70歳の5歳刻み）+節目外（要指導者等）
	肝臓がん検診（単県）	・H10—13と同様
H15～16	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
	肝臓がん検診（単県）	・肝炎ウイルス対象外の者を対象とする補完的検診に ・検査内容を肝炎ウイルス検査に統一 ・検診事業はH16で廃止（定期検査は継続）
H17～18	肝炎ウイルス検査（国庫）	・H14—と同様
H19～	肝炎ウイルス検査（国庫）	・節目検診（40歳のみ+未受診者）+節目外（要指導者等）

### 2. 肝臓がん検診実績

#### 1) 平成21年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査

平成21年度は14市町村で実施し、対象者数166,667人のうち、受診者数は3,093人で受診率は1.9%であった。平成20年度に比べ、2町が事業を未実施であり、対象者が約5,000人減少し、受診者数が632人減、受診率が0.3ポイント減少した。平成20年度に引き続き減少傾向である。

要精検者数はHBs抗原のみ陽性者60人、HCV抗体のみ陽性者17人、HBs抗原・HCV抗体ともに陽性者1人の計78人で、受診者数の2.52%であった。受診者数におけるHBs抗原陽性率は2.0%、HCV抗体陽性率は0.6%で前年度とほぼ同様の結果であった。また、要精検者78人のうち精検受診者は39人、精検受診率は50.0%（前年度75.3%）で、前年度に比べ25.3%減であった。精検受診者39人のうち、肝臓がん・肝臓がん疑いはそれぞれ0人・1人であった。

#### 2) 肝臓がん検診により発見されたウイルス陽性者に対しての定期検査の状況について（県事業の肝臓がん対策事業）

平成10年度から実施している、検診で発見された肝炎ウイルス陽性者に対する定期検査は12市町村で実施された。結果は以下のとおりである。

区 分	健康指導対象者 (人)	定期検査受診者数 (人)	定 期 検 査 結 果			
			慢性肝炎	肝 硬 変	肝臓がん	がん疑い
B型肝炎ウイルス陽性者	1,367	664	95 (14.3)	10 (1.5)	9 (1.4)	4 (0.6)
C型肝炎ウイルス陽性者	915	475	242 (50.9)	20 (4.2)	11 (2.3)	6 (1.3)

※肝臓がんと報告された中には、過去の定期検査で「がん」と報告されたものも含まれている。

3) 平成7年度から平成21年度の15年間を集計すると、平成7～9年度の検診時において市町村から報告があった対象者数192,315人に対し、受診者総数は114,193人、推計受診率は59.4%であり、そのうちHBs抗原陽性者は2,792人(2.44)、HCV抗体陽性者は3,543人(3.10%)であった。

### 3. 肝臓がん検診発見肝臓がん追跡調査結果

平成7年度から平成21年度の肝臓がん検診発見がん患者の追跡調査では、確定がんは23人であった。また平成10年度から平成21年度の定期検査中に発見された確定がんは84人であった。

肝臓がん検診発見がん患者23人のうち、19人は死亡、生存中は4人であった。また、定期検査中に発見されたがん患者84人のうち、43人は死亡(他病死を含む)、生存中は39人、追跡不能2人であった。

(1) 平成21年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査結果

1) 一次検診結果 (年齢階級別)

年 齢	一次検診 受診者数 (人) a		一 次 検 診 結 果								HBs抗原陽性率 (%) $e = (b + d) / a$			HCV抗体陽性率 (%) $f = (c + d) / a$		
			異常認めず		HBs抗原 のみ陽性 b		HCV抗体 のみ陽性 c		HBs・HCV ともに陽性 d		男	女	計	男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女								
40～44歳	143	280	140	279	2	1	1	0	0	0	1.4	0.4	0.7	0.7	0.0	0.2
45～49歳	72	134	72	130	0	2	0	2	0	0	0.0	1.5	1.0	0.0	1.5	1.0
50～54歳	103	163	101	160	2	3	0	0	0	0	1.9	1.8	1.9	0.0	0.0	0.0
55～59歳	166	233	158	227	6	5	2	1	0	0	3.6	2.1	2.8	1.2	0.4	0.8
60～64歳	326	337	316	326	8	9	2	2	0	0	2.5	2.7	2.6	0.6	0.6	0.6
65～69歳	235	304	228	297	6	5	1	1	0	1	2.6	2.0	2.2	0.4	0.7	0.6
70～74歳	157	222	152	216	5	4	0	2	0	0	3.2	1.8	2.4	0.0	0.9	0.5
75～79歳	37	62	37	60	0	1	0	1	0	0	0.0	1.6	1.0	0.0	1.6	1.0
80歳以上	48	71	46	70	0	1	2	0	0	0	0.0	1.4	0.8	4.2	0.0	1.7
計	1,287	1,806	1,250	1,765	29	31	8	9	0	1	2.3	1.8	2.0	0.6	0.6	0.6
合 計	3,093		3,015		60		17		1		2.0			0.6		

2) 精密検査結果 (年齢階級別)

年齢	区分	精密検査受診者数(人)		精密検査対象者診断結果												肝臓がん発見率 h = g/a			
		男	女	健康				肝硬変				アルコール性肝障害				肝臓がん		男	女
				脂肪肝		慢性肝炎		肝臓がん疑い		肝臓がん		その他の疾病		男	女				
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
無症候性キャリア		脂肪肝		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん		男	女				
40~44歳	B型陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
45~49歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50~54歳	B型陽性	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	2	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
55~59歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
60~64歳	B型陽性	3	7	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	3	7	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
65~69歳	B型陽性	4	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	5	5	3	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
70~74歳	B型陽性	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	2	5	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
75~79歳	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
80歳以上	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	B型陽性	14	18	10	12	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	C型陽性	2	4	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	16	23	11	14	1	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	B型陽性	32	22	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	C型陽性	6	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	ともに陽性	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	全体	39	25	3	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。

### 3) 検診機関別

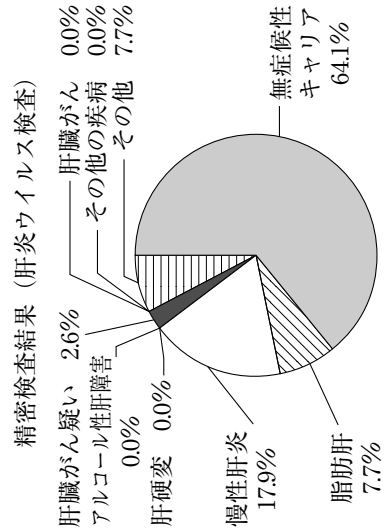
#### a. 一次検診結果

一次検診機関	一次検診受診者数(人) a'		一次検診結果								HBs抗原陽性率(%)			HCV抗体陽性率(%)		
			異常認めず		HBs抗原のみ陽性 b'		HCV抗体のみ陽性 c'		HBs・HCVともに陽性 d'		e' = (b' + d')/a'			f' = (c' + d')/a'		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計
保健事業団	585	793	572	776	11	11	2	5	0	1	1.9	1.5	1.7	0.3	0.8	0.6
中国労働衛生協会	8	8	8	8	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病院	160	241	154	234	5	5	1	2	0	0	3.1	2.1	2.5	0.6	0.8	0.7
診療所	534	764	516	747	13	15	5	2	0	0	2.4	2.0	2.2	0.9	0.3	0.5
計	1,287	1,806	1,250	1,765	29	31	8	9	0	1	2.3	1.8	2.0	0.6	0.6	0.6
合計	3,093		3,015		60		17		1		2.0			0.6		

b. 精密検査結果

一次 検診機関	区分	精密検査 受診者数		精密検査結果										肝臓がん 発見率 (%) h' = g' / a'				
		男	女	健康指標対象者診断名					肝臓がん					その他		男	女	
				無症候性キャリア		慢性肝炎		肝硬変		アルコール性肝障害		肝臓がん疑い		肝臓がん				その他の疾病
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
保健 事業団	B型陽性	3	7	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	C型陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国労働 衛生協会	全体	3	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	B型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診療所	ともに陽性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	11	9	8	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	B型陽性	14	18	10	12	1	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	C型陽性	2	4	1	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ともに陽性	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	全体	16	23	11	14	1	2	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	B型陽性	32	32	22	22	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	C型陽性	6	6	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体	ともに陽性	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	全体	39	39	25	25	7	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3

※1 「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不必要であると認められた者を指す。





4) 平成21年度健康増進事業における肝炎ウイルス検査実施状況  
 実施市町村数=14 未実施市町村数=5

市町村名	対象者数		受診者数			陽性者数				精密検査結果				人員				
	A	集団検診 B	医療機関 C	計 D=B+C	受診率 (%) E=D/A	HBs抗原 のみ陽性 F	HCV抗体 のみ陽性 G	HBs抗原 HCV抗体 ともに陽性 H	HBs抗原 陽性率 (%) I=(F+H)/D	HCV抗 体陽性率 (%) J=(G+H)/D	精 受診者数 K	精 受診率 (%) L=K/(F+G+H)	無症候性 キヤリア M	その他 の疾病 N	がん疑い O	が ん P	有 所 見 者 Q=N+O+P	が ん 発 見 率 (%) R=P/D
鳥取市	40,465	223	1,231	1,454	3.6	38	6	0	2.6	0.4	28	63.6	18	9	1	0	10	0.000
米子市	67,059	0	73	73	0.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
倉吉市	19,636	365	0	365	1.9	4	3	0	1.1	0.8	4	57.1	2	2	0	0	2	0.000
境港市	7,646	0	272	272	3.6	2	3	0	0.7	1.1	2	40.0	1	1	0	0	1	0.000
岩美町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八頭町	571	182	0	182	31.9	3	2	0	1.6	1.1	1	20.0	1	0	0	0	0	0.000
若桜町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
智頭町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
湯梨浜町	7,699	176	71	247	3.2	3	0	1	1.6	0.4	4	100.0	3	1	0	0	1	0.000
三朝町	535	131	0	131	24.5	2	1	0	1.5	0.8	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
北栄町	225	32	0	32	14.2	1	0	0	3.1	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
琴浦町	9,319	107	37	144	1.5	5	2	0	3.5	1.4	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
南部町	4,188	0	7	7	0.2	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
伯耆町	4,502	105	0	105	2.3	2	0	0	1.9	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日吉津村	44	4	0	4	9.1	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
大山町	3,141	63	8	71	2.3	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
日南町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
日野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
江府町	1,637	6	0	6	0.4	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.000
合 計	166,667	1,394	1,699	3,093	1.9	60	17	1	2.0	0.6	39	50.0	25	13	1	0	14	0.000
東 部	41,036	405	1,231	1,636	4.0	41	8	0	2.5	0.5	29	59.2	19	9	1	0	10	0.000
中 部	37,414	811	108	919	2.5	15	6	1	1.7	0.8	8	36.4	5	3	0	0	3	0.000
西 部	88,217	178	360	538	0.6	4	3	0	0.7	0.6	2	28.6	1	1	0	0	1	0.000

(2) 平成7～21年度肝臓がん検診により発見された肝炎ウイルス陽性者の定期検査結果

1) 平成21年度B型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成21年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成22年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	男	女	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アロコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他				
40～44歳	6	14	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
45～49歳	23	42	7	13	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0		
50～54歳	36	65	10	27	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
55～59歳	54	105	16	42	1	5	1	0	0	0	0	1	0	0		
60～64歳	78	146	23	67	2	5	1	0	2	1	0	0	0	0		
65～69歳	100	155	62	85	1	8	10	2	1	1	1	1	2	0		
70～74歳	74	139	41	79	5	8	5	1	0	2	2	1	1	1		
75～79歳	61	108	42	62	1	6	9	2	1	0	1	0	2	2		
80歳以上	54	107	29	54	0	7	9	0	3	0	1	0	1	1		
計	486	881	231	433	7	44	51	6	4	3	6	3	6	6		
合計 (比率%)	1,367		664 (100)		23 (3.5)	95 (14.3)	10 (1.5)	3 (0.5)	4 (0.6)	9 (1.4)	12 (1.8)	4 (0.6)	12 (1.8)	4 (0.6)		

2) 平成21年度C型肝炎ウイルス陽性者定期検査結果

年齢	健康指導対象者 (平成21年4月1日現在の実人員)		受診者数 (平成22年10月31日現在の実人員)		定期検査結果											
	健康指導対象者		受診者数		健康指導対象者診断名						検査結果					
	男	女	男	女	脂肪肝	慢性肝炎	肝硬変	アロコール性肝障害	肝臓がん疑い	肝臓がん	その他の疾病	その他				
40～44歳	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
45～49歳	2	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
50～54歳	6	13	0	8	0	4	0	0	0	0	0	0	1	0		
55～59歳	15	18	1	8	1	2	0	0	0	0	0	0	0	2		
60～64歳	21	51	11	23	0	5	11	0	0	0	1	0	0	0		
65～69歳	33	80	16	49	1	8	25	1	0	1	1	0	0	2		
70～74歳	48	124	21	81	0	10	47	2	4	1	1	0	0	1		
75～79歳	60	138	35	82	0	17	40	2	2	0	3	1	0	4		
80歳以上	96	203	42	95	0	25	47	2	7	0	0	3	0	1		
計	283	632	127	348	1	66	176	7	13	1	5	6	6	8		
合計 (比率%)	915		475 (100)		10 (2.1)	242 (50.9)	20 (4.2)	1 (0.2)	6 (1.3)	11 (2.3)	6 (1.3)	8 (1.7)	6 (1.3)	8 (1.7)		

※「その他」は、転出、死亡、入院中の者及び医師が他の疾病の罹患等により、当事業でのフォローは不要であると認められた者を指す。

(3) 平成7～21年度肝臓がん検診結果

年齢	一次検診 受診者数(人)		HBs抗原陽性					HCV抗体陽性				
	a		陽性者数 b		陽性率(%) c = b/a			陽性者数 d		陽性率(%) e = d/a		
	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	計
40～44歳	2,598	5,805	96	155	3.70	2.67	2.99	36	46	1.39	0.79	0.98
45～49歳	2,500	5,717	118	195	4.72	3.41	3.81	34	98	1.36	1.71	1.61
50～54歳	2,733	7,058	126	241	4.61	3.41	3.75	34	153	1.24	2.17	1.91
55～59歳	3,400	8,896	104	262	3.06	2.95	2.98	72	248	2.12	2.79	2.60
60～64歳	6,768	12,773	198	262	2.93	2.05	2.35	191	459	2.82	3.59	3.33
65～69歳	8,239	13,345	211	261	2.56	1.96	2.19	288	513	3.50	3.84	3.71
70～74歳	7,524	11,675	135	201	1.79	1.72	1.75	301	449	4.00	3.85	3.91
75～79歳	3,341	5,533	59	78	1.77	1.41	1.54	146	223	4.37	4.03	4.16
80歳以上	2,346	3,942	27	63	1.15	1.60	1.43	109	143	4.65	3.63	4.01
計	39,449	74,744	1,074	1,718	2.72	2.30	2.44	1,211	2,332	3.07	3.12	3.10
合計	114,193		2,792		2.44			3,543		3.10		

(4) 肝臓がん検診及び定期検査による発見がん患者追跡調査結果について

1) 平成21年度基本健康診査肝炎ウイルス検査より発見されたがんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	71	男	癌なし								C	3.1

2) 平成21年度定期検査による発見がんまたはがん疑い

No	年齢	性	診断	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	AFP
1	72	女	肝癌	TAE	09.12.18	>4個		40×40	腫瘍	有	C	7.8
2	79	女	肝癌	治療予定		単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	197
3	69	男	肝癌	TAE	09.10.6	>4個		20×20	腫瘍		C	3.7
4	76	女	肝癌	T/R	09.10.6	単発	S3	25×25	腫瘍	有	C	3.9
5	76	女	肝癌	T/R	09.7.22	2個	S3/5	25×25	腫瘍	有	C	11.8
6	79	男	肝癌	T/R	10.3.25	単発	S7	23×23		有	C	9
7	85	女	肝癌	切除	10.3	単発	S3	25×25	腫瘍	無	C	3.9
8	66	男	肝癌	TAE		>4個	S1		浸潤	有	B	58
9	73	女	肝癌	切除	10.1.8	単発	S5	40×40	腫瘍	無	B	2.8
10	68	女	転移性	切除	09.8.21	>4個	S3.4.8	15×15	腫瘍	無	B	4.9
11	75	男	肝癌	精査中						有	C	10.9
12	78	男	肝癌	精査中							C	189
13	75	男	肝癌	精査中							B	5.3
14	71	女	癌なし								C	28
15	80	男	癌なし								C	16.3
16	63	女	癌なし								B	18.1
17	84	女	癌なし								B	2.2
18	69	男	癌なし								B	2.5
19	64	女	癌なし								B	12.1
20	82	男	肝癌	報告済(03.6.3切除)							B	
21	74	男	肝癌	報告済(04.9.13切除)							C	
22	79	男	肝癌	18年度報告済							C	
23	61	男	肝癌	18年度報告済							B	
24	67	女	肝癌	18年度報告済							B	
25	62	女	肝癌	19年度報告済							C	
26	84	女	肝癌	19年度報告済							C	
27	90	女	肝癌	19年度報告済							C	
28	66	女	肝癌	19年度報告済							B	
29	86	女	肝癌	20年度報告済							C	
30	71	男	肝癌	20年度報告済							B	

3) 平成7年度～平成20年度肝炎ウイルス陽性者定期検査による発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	71	男	切除	95. 8.	単発			腫瘍	有	C	
2	63	男	切除	97. 2.26	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	4年6か月後死亡
3	71	男	TAE	97. 7.16	2個	S68	30×30	腫瘍	無	C	再発、5年9か月後死亡
4	63	女	PEIT	97.12. 3	単発	S2	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
5	59	男	TAE	98. 5.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	B	再発、3年2か月後死亡
6	76	女	TAE	98. 6.30	単発	S8	30×30	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
7	70	男	切除	98. 9. 1	単発	S8	40×30	腫瘍	有	C	再発、2年9か月後死亡
8	68	男	MCT	99. 1.25	4個	S2377	27×27	腫瘍	有	C	再発、3年5か月後死亡
9	83	男	TAE	99. 2.11	>4個	S35678	40×30	腫瘍	有	C	11か月後死亡
10	79	男	TAE	99. 6. 9	単発	S8		浸潤	有	C	8か月後死亡
11	64	男	切除	00. 2. 8	2個	S5/6, 4	75×70	腫瘍	無	C	再発、3年6か月後死亡
12	79	女	TAE	00. 3. 1	単発	S6	10×10	腫瘍	有	B	8年8か月後死亡
13	66	男	切除	00. 9.27	2個	S65	15×15	腫瘍	有	B	再発、4年2か月後死亡
14	82	男	TAE	00. 4. 5	単発	S4	55×40	腫瘍	有	C	1年2か月後他病死
15	74	女	切除	00. 2.28	単発	S2	32×32	腫瘍	有	C	再発、4年4か月後死亡
16	64	女	TAI	99.10.14	>4個	S23457	10×10	腫瘍	有	C	再発、5年8か月後死亡
17	75	男	TAE	00. 4.19	単発	S7	30×30	腫瘍	無	C	4年5か月後死亡
18	75	男	TAE	97.11.	>4個	S4568	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後他病死
19	86	男	PEIT	00. 8.18	単発	S4	15×15	腫瘍	無	C	7年9か月後他病死
20	70	女		00. 7. 2						C	同月死亡
21	65	男	切除	98. 2. 5	単発	S1	90×90	腫瘍	有	B	3年10か月後死亡
22	67	男	切除	01.11.19	単発	S8	13×13	腫瘍	有	B	3年8か月後再発
23	76	女	T/P	01. 8. 1	単発	S7	15×15	腫瘍	有	C	再発、4年3か月後死亡
24	66	女	TAE	01. 7.26	単発	S7	10×10	腫瘍	無	C	無再発生存中
25	75	女	T/P	02. 3. 4	単発	S5/6	37×31	腫瘍	無	C	5年1か月後他病死
26	73	男	TAE	01. 4.10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	7か月後死亡
27	76	女	T/P	02.10.10	単発	S5	20×20	腫瘍	有	C	2年1か月後他病死
28	79	女	TAE	01. 6.27	>4個	S2457	40×40	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
29	79	女	切除	03. 2.26	単発	S3	30×30	浸潤	有	C	再発、3年6か月後死亡
30	82	女	RFA	03. 5.26	単発	S5	35×35	腫瘍	無	B	再発、2年5か月後死亡
31	78	女	T/R	02. 9.24	単発	S8	40×40	腫瘍	無	C	無再発生存中
32	75	男	切除	03. 6. 3	単発	S6	20×20	腫瘍	有	B	無再発生存中
33	76	男	切除	04. 2. 9	2個	S28	50×50	腫瘍	無	C	再発、4年2か月後死亡
34	76	男	MCT	03. 8.14	単発	S8	25×20	腫瘍	有	C	2年4か月後再発
35	83	男	PEIT	03. 5.30	単発	S5/6	22×21	腫瘍	有	C	2年10か月後再発
36	80	男	RFA	04. 8. 3	>4個	S13468	30×25	腫瘍	有	C	3年10か月後死亡
37	91	女	NT		>4個	S3478	100×100	腫瘍	不明	C	通院中断
38	74	女	TAE		>4個			腫瘍	無	C	2年10か月後死亡
39	75	女	TAE	03.10.	単発	S8	23×23	腫瘍	有	C	4年2か月後死亡
40	79	男	RFA	04. 3.15	単発	S8	30×20	腫瘍	有	C	6年4か月後死亡
41	56	男	RFA	04. 4. 7	単発	S7/8	23×26	腫瘍	有	B	無再発生存中
42	78	女	TAE	04. 5.19	単発	S5	25×25	腫瘍	不明	C	6年後再発/切除
43	75	男	TAI	05. 1. 6	3個	S568	15×15	腫瘍	有	C	再発、1年3か月後
44	68	男	切除	04. 9.13.	単発	S6	30×20	腫瘍	有	C	3年10か月後再発
45	72	女	T/R	04.10.	2個	S86	20×20	腫瘍	有	B/C	再発、1年5か月後死亡
46	62	男	TAE	03. 4.	不明	不明	不明	腫瘍	無	C	再発、3年後死亡
47	86	女	TAE	不明	不明	不明	20×20	不明	有	C	予後調査中
48	73	男	切除	00. 3.	不明	不明	10×10	不明	有	B	再発、6年後死亡
49	76	男	切除	05. 5.12	単発	S7/8	90×80	腫瘍	有	B	4年3か月後再発
50	64	男	TAE	09. 1.	単発	S5	10×10	腫瘍	有	C	生存中
51	73	女	未治療		>4個	S278	7×7	腫瘍	有	C	生存中
52	75	男	切除	06. 3.29	単発	S7/8	43×25	浸潤	有	C	10か月後再発
53	74	男	RFA	04. 9. 6	単発	S7	18×18	腫瘍	有	C	5年5か月後死亡
54	75	男	T/R	05. 8.	2個	S67	25×25	腫瘍	有	C	4年1か月後死亡
55	87	女	未治療		単発	S2	20×20	腫瘍	有	C	4年後他病死
56	89	女	T/P	05.12.	単発	S2	15×15	腫瘍	有	C	2年後再発
57	82	女	T/R	05.10.	単発	S6	50×50	腫瘍	無	C	1年9か月後他病死
58	77	女	切除	04.11. 7	2個	S68	20×20	腫瘍	有	C	2年11か月後再発
59	59	女	RFA	06. 1.	単発	S5	13×12	腫瘍	無	B/C	無再発生存中
60	67	女	RFA	04. 4.	単発	S5	15×15	腫瘍	無	B	6年3か月後再発
61	68	男	肝癌否定		(単発)	S6	13×13)	腫瘍	無	B	生存中
62	69	男	TAE	07.11.14	2個	S57	15×15	腫瘍	有	C	1年9か月後再発
63	79	男	TAE	06.11.	多発	両葉	20×20	腫瘍	有	C	1年10か月後死亡
64	87	女	T/R	06.11.15	単発	S4	16×23	腫瘍	有	C	無再発生存中
65	79	男	T/R	06.11.20	単発	S8	30×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
66	82	女	TAE	06. 3.14	単発	S8	35×35	腫瘍	有	C	3年7か月後再発
67	69	男	切除	06. 9.26	2個	S67	22×20	腫瘍	無	C	無再発生存中
68	72	女	TAE	06. 5.18	単発	S6	15×15	腫瘍	有	C	再発、生存中
69	81	女	切除	97. 3.24	単発	S8		腫瘍	有	C	再発、13年後死亡
70	80	男	T/R	06. 8.31	>4個	S84	31×27	腫瘍	有	C	無再発生存中
71	73	女	TAE	06. 2.21	>4個	S853	37×31	腫瘍	有	C	1年6か月後死亡
72	64	男	未治療		単発	S5	35×35		無	C	不明
73	82	女	TAE	06. 9. 6	単発	S1	20×20	腫瘍	有	C	3か月後再発

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
74	80	男	RFA	02. 9.	単発	S8		腫瘍	有	C	2年5か月後再発
75	63	女	T/R		単発	S8	16×16			B	予後調査中
76	73	男	M/R	03. 8. 5	>4個	S348	15×15		無	B	3年後再発
77	73	男	切除	05. 3. 14	単発	S45	42×28	腫瘍	有	B	1年1か月後再発
78	74	男	切除	06. 12. 21	単発	S458	35×30	腫瘍	無	C	無再発生存中
79	60	女	RFA	07. 7.	単発	S7	17×12	腫瘍	有	C	3年4か月後再発
80	87	女	未治療		単発	S6	66×56	腫瘍	無	C	2年7か月後他病死
81	80	女	TAE	03. 3.	単発	S2/3	20×20			C	3年10か月後再発
82	77	女	TAE	08. 10. 7	単発	S6	50×50	腫瘍	有	C	3か月後再発
83	70	男			単発	S5	12×12			B	予後調査中
84	77	女	未治療		単発		25×25			C	予後調査中
85	84	女	T/P	09. 9. 7	単発	S7	30×30	腫瘍	有	C	無再発生存中

#### 4) 平成7年度～平成20年度肝臓がん検診発見癌追跡調査報告

No.	年齢	性	初回治療	治療日	病巣数	部位	大きさ	型	肝硬変	ウイルス	備考
1	74	女	切除	95. 10. 24	単発	S4	55×55	腫瘍	有	C	再発、7年7か月後死亡
2	70	女	TAE	96. 2. 20	単発	S8	40×38	腫瘍	無	C	死亡
3	63	女	切除	96. 3. 13	単発	S7	30×23	腫瘍	有	C	10年1か月後再発
4	83	男	TAE	96. 7. 15	単発	S4	12×12	腫瘍	無	C	再発、3年9か月後死亡
5	74	女	TAE	96. 8. 29	>4個	S5678	35×35	腫瘍	無	C	再発、1年8か月後死亡
6	64	女	TAE	96. 10. 25	>4個	S67	67×57	腫瘍	無	B	9か月後死亡
7	72	男	TAE	96. 11. 1	2個	S6	20×20	腫瘍	有	—	再発、1年1か月後死亡
8	70	男	PEIT	96. 11. 22	単発	S5	25×25	腫瘍	有	C	再発、5年2か月後死亡
9	69	男	PEIT	97. 1. 7	単発	S7	10×9	腫瘍	無	C	再発、6年1か月後死亡
10	73	女	TAE	97. 11. 17	>4個	S234	80×60	腫瘍	無	C	3か月後死亡
11	61	男	TAE	97. 11. 17	3個	S568	15×10	腫瘍	有	C	再発、2年3か月後死亡
12	75	男	TAE	97. 12. 4	単発	S7/8	40×32	腫瘍	無	C	7か月後死亡
13	57	男	TAE	98. 3. 3	単発	S1	70×50	腫瘍	有	B	1年後死亡
14	80	女	切除	98. 7. 31	単発	S5/6	25×25	腫瘍	無	C	9か月後死亡
15	49	男	RES	99. 12. 15	>4個	S4568	80×80	浸潤	無	B	4か月後死亡
16	69	男	切除	00. 12. 23	単発	S8	50×50	腫瘍	無	—	再発、1年5か月後死亡
17	66	男	TAE	01. 9. 19	単発	S6	100×100	腫瘍	無	C	1年10か月後死亡
18	72	男	PEIT	04. 8. 2	2個	S1, 5	25×25	腫瘍	有	C	3年11か月後死亡
19	83	男	T/R/P	05. 10. 17	2個	S1, 4	30×30	腫瘍	有	C	3年11か月死亡
20	67	女	切除	06. 08. 09	単発	S8	25×25			B	無再発生存中
21	79	男	T/R	06. 11.	単発	S8	20×20	腫瘍	有	C	3年後再発
22	72	男	切除	08. 3.	単発	右葉	100×100			C	予後調査中
23	60	男	TAE	08. 4.	>4個	両葉	40×40	腫瘍	有	C	2年6か月後死亡

## 7. 全国がん検診実績との比較

平成20年度

(単位：人 %)

区 分		平成20年度実績 (鳥取県)	平成20年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,235,041	(県) 受診者・がん発見 = 「X線」「内視鏡」の合計値
	受診者数(人)	42,799	3,916,203	要精検・精検受診 = 「X線」のみの数値
	受診率(%)	22.7	10.2	精検受診者 = 精検結果未把握の者を除く (以下同じ)
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,363	385,058	(国) 報告書記載の数値 (「X線」の数値)
	要精検率(%)	7.50	9.83	精検受診者 = 「要精検者 - 未受診者」により算定
	精検受診者数(人)	1,131	347,230	→精検結果未把握の者を含む (以下同じ)
	精検受診率(%)	83.0	90.2	
	がんの者(人)	144	6,431	
	がん発見率(%)	0.34	0.16	(受診率順位) 報告書(概要)記載の数値による順位 (以下同じ)
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	139,232	32,176,112	(県) 「頸部」の数値 (「体部」は除く)
	受診者数(人)	24,207	3,499,278	(国) 「頸部のみ」の数値
	受診率(%)	(27.7) 17.4	(19.4)	隔年検診となったため受診率( )は次により算定されている。
	受診率順位	(10) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	82	41,959	
	要精検率(%)	0.34	1.20	※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	74	36,772	全国 $\frac{(3,538,132) + (3,499,278) - (786,172)}{(32,176,112)} = 19.4$
	精検受診率(%)	90.2	87.6	
	がんの者(人)	11	2,436	鳥取 $\frac{(24,450) + (24,207) - (9,954)}{(139,232)} = 27.7$
	がん発見率(%)	0.05	0.07	
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	37,468,696	(県・国) 「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く)
	受診者数(人)	46,015	6,685,467	※国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診率(%)	24.5	17.8	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数(人)	2,041	195,524	
	要精検率(%)	4.44	2.92	
	精検受診者数(人)	1,799	173,903	
	精検受診率(%)	88.1	88.9	
	がんの者(人)	41	3,983	
	がん発見率(%)	0.09	0.06	

区 分		平成20年度実績 (鳥取県)	平成20年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	118,676	23,514,832	(県・国)「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上  隔年検診となったため受診率( )は次により算定されている。 $\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$ ※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用) 全国 $\frac{(1,892,834) + (1,792,176) - (229,171)}{(23,514,832)} = 14.7$ 鳥取 $\frac{(14,134) + (14,624) - (183)}{(118,676)} = 24.0$
	受診者数(人)	14,624	1,792,176	
	受診率(%)	(24.0) 12.3	(14.7)	
	受診率順位	(9)位	—	
	要精検者数(人)	1,135	150,554	
	要精検率(%)	7.76	8.40	
	精検受診者数(人)	1,051	141,541	
	精検受診率(%)	92.6	94.0	
	がんの者(人)	48	5,502	
	がん発見率(%)	0.33	0.31	
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	3,945,562	
	受診者数(人)	48,409	6,418,334	
	受診率(%)	25.7	16.1	
	受診率順位	6位	—	
	要精検者数(人)	3,912	461,396	
	要精検率(%)	8.1	7.19	
	精検受診者数(人)	2,858	378,851	
	精検受診率(%)	73.1	82.1	
	がんの者(人)	138	13,597	
	がん発見率(%)	0.29	0.21	

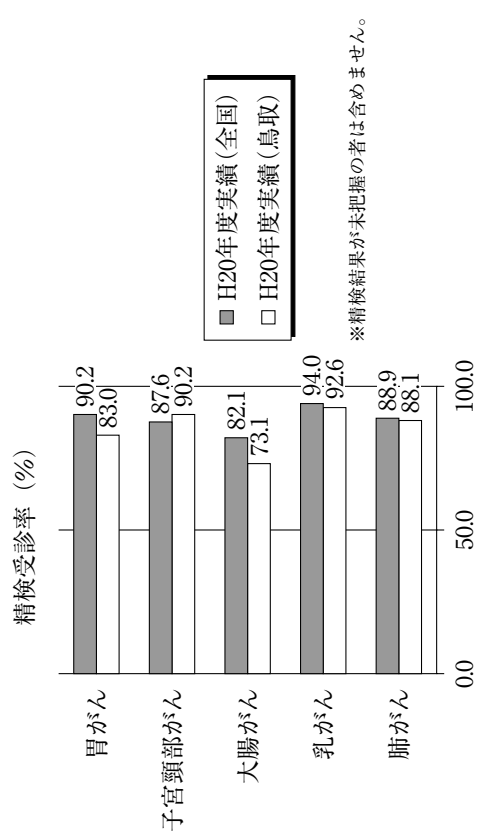
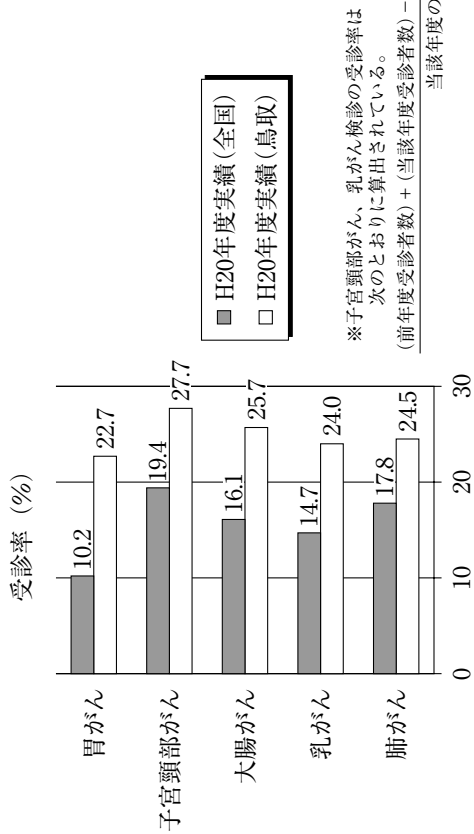
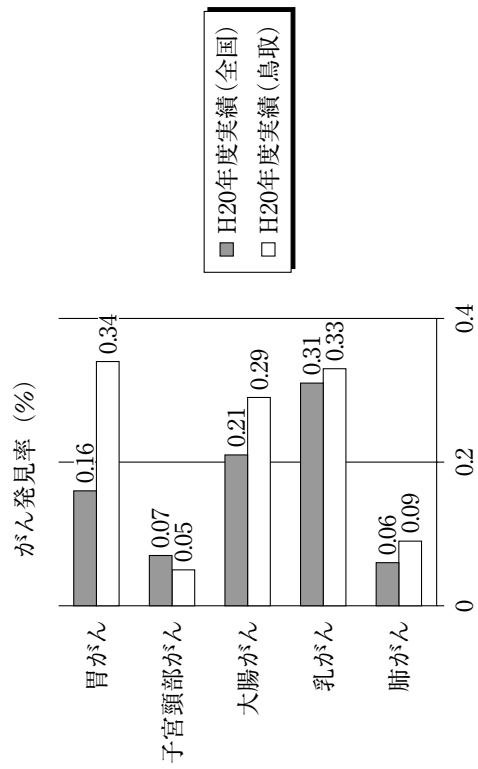
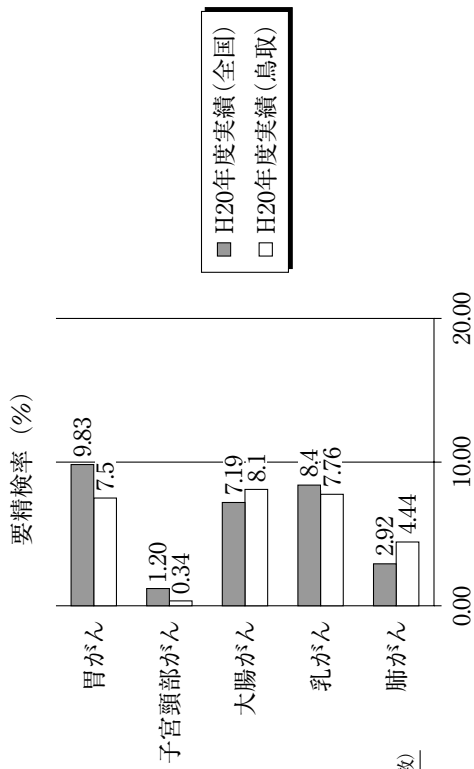
(出典) 鳥取県数値(受診率順位を除く) = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値及び鳥取県の受診率順位 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 精検受診者は、鳥取県の数値には精検結果が未把握の者が含まれないのに対し、全国の数値には当該者が含まれるため、鳥取県の数値は全国の数値に比して低水準となる傾向がある。
- 3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。



# 全国がん検診実績との比較（平成20年度実績）



※子宮頸部がん、乳がん検診の受診率は次のとおり算出されている。  
 (前年度受診者数) + (当該年度受診者数) - (前年度及び当該年度2年連続受診者数) / 当該年度の対象者数

※精検結果が未把握の者は含まれません。

平成21年度

(単位：人 %)

区 分		平成21年度実績 (鳥取県)	平成21年度実績 (全国)	留 意 事 項
胃 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,924,790	(県) 受診者・がん発見 = 「X線」「内視鏡」の合計値
	受診者数(人)	42,801	3,950,489	要精検・精検受診 = 「X線」のみの数値
	受診率(%)	22.7	10.1	精検受診者 = 精検結果未把握の者を除く (以下同じ)
	受診率順位	2位	—	
	要精検者数(人)	1,300		(国) 報告書記載の数値 (「X線」の数値)
	要精検率(%)	7.50		精検受診者 = 「要精検者 - 未受診者」により算定
	精検受診者数(人)	1,061		→精検結果未把握の者を含む (以下同じ)
	精検受診率(%)	81.6		
	がんの者(人)	143		
がん発見率(%)	0.33		(受診率順位) 報告書 (概要) 記載の数値による順位 (以下同じ)	
子 宮 頸 部 が ん 検 診	対象者数(人)	139,232	33,086,873	(県) 「頸部」の数値 (「体部」は除く)
	受診者数(人)	26,943	4,405,276	(国) 「頸部のみ」の数値
	受診率(%)	(27.1) 19.4	(21.0)	隔年検診となったため受診率 ( ) は次により算定されている。
	受診率順位	(11) 位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	200		
	要精検率(%)	0.74		※受診率の計算 (厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	179		全国 $\frac{(3,519,551) + (4,405,276) - (976,830)}{(33,086,873)} = 21.0$
	精検受診率(%)	89.5		
	がんの者(人)	15		鳥取 $\frac{(24,207) + (26,943) - (13,466)}{(139,232)} = 27.1$
がん発見率(%)	0.06			
肺 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	38,582,422	(県・国) 「X線のみ」「X線及び喀痰」の合計値 (「喀痰のみ」は除く)
	受診者数(人)	46,247	6,902,820	※国は「喀痰のみ」を含めた数値で算定
	受診率(%)	24.6	17.8	
	受診率順位	17位	—	
	要精検者数(人)	2,122		
	要精検率(%)	4.59		
	精検受診者数(人)	1,888		
	精検受診率(%)	89.0		
	がんの者(人)	31		
がん発見率(%)	0.07			

区 分		平成21年度実績 (鳥取県)	平成21年度実績 (全国)	留 意 事 項
乳 が ん 検 診	対象者数(人)	118,676	24,644,854	(県・国)「視触診方式及びマンモグラフィ」の併用者を計上
	受診者数(人)	19,278	2,570,342	
	受診率(%)	(27.7) 16.2	16.3	隔年検診となったため受診率( )は次により算定されている。
	受診率順位	(7)位	—	$\frac{(\text{前年度受診者数}) + (\text{当該年度受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度2年連続受診者数})}{\text{当該年度の対象者数}}$
	要精検者数(人)	1,544		
	要精検率(%)	8.01		※受診率の計算(厚生労働省地域保健・健康増進事業報告数値を使用)
	精検受診者数(人)	1,427		全国 $\frac{(1,745,222) + (2,570,342) - (297,577)}{(24,644,854)} = 16.3$
	精検受診率(%)	92.4		
	がんの者(人)	57		鳥取 $\frac{(14,624) + (19,278) - (1,032)}{(118,676)} = 27.7$
	がん発見率(%)	0.30		
大 腸 が ん 検 診	対象者数(人)	188,186	40,132,369	
	受診者数(人)	48,949	6,693,815	
	受診率(%)	26.0	16.5	
	受診率順位	5位	—	
	要精検者数(人)	4,169		
	要精検率(%)	8.5		
	精検受診者数(人)	3,178		
	精検受診率(%)	76.2		
	がんの者(人)	134		
	がん発見率(%)	0.27		

(出典) 鳥取県数値(受診率順位を除く) = 鳥取県健康対策協議会各がん検診専門委員会資料

全国数値及び鳥取県の受診率順位 = 地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省)

- (注) 1 鳥取県の数値は、県が独自に調査した結果であり、厚生労働省による調査結果である「地域保健・健康増進事業報告」に記載された数値とは異なる場合がある。
- 2 精検受診者は、鳥取県の数値には精検結果が未把握の者が含まれないのに対し、全国の数値には当該者が含まれるため、鳥取県の数値は全国の数値に比して低水準となる傾向がある。
- 3 肺がん検診の数値は、喀痰検査のみ受診した者の数値を含まない。
- 4 要精検者数等については、平成20年度分から翌年度集計となったため、空欄としている

### Ⅲ. 平成22年度各がん検診従事者講習会及び 症例研究会開催状況

平成22年度がん検診従事者講習会及び症例研究会開催状況

事業名	開催日時	場所	出席者	内容
胃がん 胃がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成23年2月12日(土) 午後4時～午後6時	鳥取市 鳥取県健康会館	150名	演題：「胃がん内視鏡検診を巡る課題」 講師：国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院院長 細川 治先生 症例検討 東部—1例：鳥取市立病院 柴垣広太郎先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 秋藤洋一先生 西部—1例：山陰労災病院 神戸貴雅先生
子宮がん 子宮がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成23年2月13日(日) 午後4時～午後6時10分	米子市 西部医師会館	67名	演題：「HPVワクチン時代の子宮頸がん予防検診—細胞診・HPV検査併用検診を中心に—」 講師：鳥取県立中央病院医療局次長兼母性小児診療部長 岩成 治先生 症例提示3例
肺がん 肺がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成23年2月19日(土) 午後4時～午後6時20分	米子市 西部医師会館	66名	演題：「肺がん検診におけるアスベスト関連疾患の画像所見」 講師：兵庫医科大学内科学講座呼吸器RCU科主任教授 中野孝司先生 症例検討 東部—2例：鳥取県立中央病院 陶山久司先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 吹野俊介先生 西部—2例：鳥大医 胸部外科 窪内康晃先生
乳がん 乳がん検診従事者講習会及び第18回鳥取県検診発見乳がん症例検討会	平成22年8月21日(土) 午後4時～午後5時35分	鳥取市 鳥取県健康会館	71名	演題：「石灰化病変の診断—ステレオ下マンモトーム生検を中心とした地域連携—」 講師：総合上飯田第一病院乳腺外科部長 窪田智行先生 症例検討 東部—1例：鳥取県立中央病院 木村安曇先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 田中裕子先生 西部—2例：鳥大医官再生外科学 石黒清介先生
大腸がん 大腸がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成22年8月28日(土) 午後4時～午後5時35分	米子市 西部医師会館	92名	演題：「大腸内視鏡挿入攻略法」 講師：松島病院大腸肛門病センター 松島クリニク診療部長 鈴木康元先生 症例検討 東部—1例：瀬川医院 瀬川謙一先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 川田壮一郎先生 西部—1例：米子医療センター 木村 修先生
肝臓がん 肝臓がん検診従事者講習会及び症例研究会	平成23年3月5日(土) 午後4時～午後5時50分	鳥取市 鳥取県健康会館	99名	演題：「B型、C型慢性肝疾患の治療：公費助成制度との関連を含めて」 講師：鳥取大学医学部附属病院第2内科診療科群助教 岡本欣也先生 症例検討 東部—1例：鳥取赤十字病院 満田朱理先生 中部—1例：鳥取県立厚生病院 万代真理先生 西部—1例：山陰労災病院 西向栄治先生

# 1. 胃がん検診症例研究会

日 時 平成23年2月12日（土） 午後4時～午後6時

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

## [東部症例]

提出者：鳥取市立病院 柴垣 広太郎

症 例：60歳代、男性

既往歴：慢性閉塞性肺障害（COPD）

現病歴：平成22年8月下旬に下痢を主訴に近医を受診し、EGDで幽門部に全周性の不整形潰瘍性病変を指摘され、9月に当院に紹介となる。患者は通年、GIによる鳥取市胃がん検診を受けていた。

### 【平成21年度のGI】

胃体部の漿壁は消失し、areaの大小不同を認め、萎縮性胃炎と考えられた。腹臥位第2斜位で幽門輪の変形を認め、腹臥位第1斜位で周堤を伴う不整形潰瘍を認めるも、この時の読影では異常を指摘されなかった。

### 【平成22年度のGI：近医内視鏡の2か月前】

腹臥位頭低位で幽門輪に周堤を有する潰瘍性病変の側面像が明瞭に視認され、腹臥位第1斜位では周堤を伴う不整形潰瘍のsizeはやや増大し、形態も明瞭化しており、昨年度よりも増大していることが確認される。しかし、この時の読影でも異常を指摘されなかった。

### 【当院でのEGD】

幽門輪から十二指腸球部背側に全周性の周堤を伴う潰瘍性病変を認める。潰瘍底は概ね平坦で、薄く不均一な白苔で覆われ、潰瘍口側には薄い白苔で被覆される発赤調の浅い陥凹性病変を認めた。NBI拡大観察では、発赤陥凹部の一部に不整な腺管構造を認めるも、白苔で視認不良であるため、評価困難であった。その他の潰瘍辺縁に明らかな上皮性腫瘍を疑う所見を認めなかった。幽門部の狭窄は軽度であり、癌とリンパ球系の腫瘍との鑑別が困難であったが、潰瘍底からの生検でadenocarcinomaが確認された。

経 過：CTで明らかな転移を認めず、cStageIB-IIB、T2-T4a、N0、M0と考え、幽門側胃切除術を施行した。最終診断はgastric adenocarcinoma、pType2、pMP、tub2>tub1、60×27×12mm、intermediate、INFb、ly1、v1、T2、N2、H0、P0、CY0、cM0、StageIIBと診断された。S-1による術後補助化学療法が施行され、術後1年の時点で再発を認めていない。

考 察：発見1年前のGIでも病変の存在は確認可能であった。幽門輪の胃癌は頻度が少なく、先入観から読影が不十分となった可能性が考えられた。幽門部は蠕動も強く、十分に拡張した写真の撮影が困難な際には、圧迫撮影の追加が必要と考えられた。

## [中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 秋藤 洋一

症 例：62歳、男性

検診歴：何れも車検診（間接X線検査）

平成20年7月 異常所見なし

平成21年7月 胃角小弯レリーフ異常を指摘

経過：平成21年12月、胃内視鏡検査で胃前庭部小弯に襞の集中を伴う約2cmの潰瘍性病変を認め、集中する襞は棍棒状で癒合し一部周堤様部分も認められ、Ⅱc+Ⅲ型進行がんの診断で開腹手術が施行された。結果はAdenocarcinoma (tub2>muc)、25×17mm、type Ⅱc like advanced、mp、ly0、v0、INFβ、pT2、LN (0/15) stage I bであった。

検討：前年の写真では前庭部に小腸像が重なり病変部は描出されていなく、X線検診の弱点である。解決策としては圧迫像の追加撮影が有効である。

#### 〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 神戸 貴 雅

症 例：65歳、男性

検診歴：平成20年8月 車検診で異常なし

平成21年9月 車検診で前庭部欠損様を指摘

経過：平成21年9月、車検診にて上記を指摘され、近医受診。GIFにて胃体部大弯に異常を指摘され当院紹介。GIF・MDL（術前精密）にて胃体部大弯Ⅱcと診断、12月22日、外科にて胃亜全摘術を施行された。（病理：M、18mm大、por2、ly0、v0、N0、Stage I A、curA）

検討：平成20年度のフィルムを遡及的に検討するも、今回の病変をはっきりと指摘はできなかった。平成21年度のフィルムでは、異常を指摘された部位は前庭部だったが、胃体部病変の指摘は、遡及的に可能であった。しかしバリウムの付着が悪く、見落とされる可能性は十分にあったと考えられる。このようにバリウムの付着が悪い例は、内視鏡検査を加えることも検討されるべきであろう。

## 2. 子宮がん検診症例研究会

日 時 平成23年2月13日（日） 午後4時～午後6時10分

場 所 鳥取県西部医師会館

症例検討：鳥取大学医学部産婦人科講師、板持弘明先生の進行により施設検診2例、鳥取県保健事業団（車検診）1例の症例検討が行われた。

年代別では30代1例、50代1例、60代1例。内訳は上皮内がん1例、子宮頸部がん1例、子宮体部がん1例であった。上皮内がん、子宮頸部がん例では細胞診判定に特に問題はなかった。

子宮体部がんは前年の細胞診は陰性判定であったが、疑陽性とするべきではないかと指摘があった。本症例は閉経約1年後の方で、超音波検診で子宮内膜肥厚が指摘されている。子宮がん検診事業では超音波検査は必須ではないが、将来的にはHPV検査同様、導入が検討されるべきであろう。

### 平成22年度 子宮がん検診症例検討会提出症例

症例	年齢	市町村名	検診月日	一次検診機関	一次検診結果	精密検査機関	精密検査結果			治療機関名
							組織診断	進行期分類	TMN分類	
症例1	60歳	鳥取市	H20.11.20	鳥取県保健事業団	class II	鳥取市立病院	carcinoma in situ	0期	pTis pNx	鳥取市立病院
			H22.01.14	鳥取県保健事業団	class V Squamous cell carcinoma					
症例2	38歳	鳥取市	H18.01.19	みやもと産婦人科	class II	鳥取県立中央病院	Squamous cell carcinoma	I b1期	pT1b1N0M0	鳥取県立中央病院
			H19.01.25	みやもと産婦人科	class II					
			H20.07.03	みやもと産婦人科	class II					
			H22.02.04	みやもと産婦人科	class III b AGC + HSIL					
症例3	56歳	南部町	H19.01.15	西伯病院	頸部：class II 体部：陰性	鳥取大学医学部附属病院	endometrial adenocarcinoma (G1)	I b期	pT1bN0M0	鳥取大学医学部附属病院
			H21.11.05	母と子の長田産婦人科クリニック	頸部：class II 体部：陽性					



### 3. 肺がん検診症例研究会

日 時 平成23年2月19日(土) 午後4時～午後6時20分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

#### 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 陶 山 久 司

症例1：60歳代、男性

主 訴：特になし(胸部異常影)

既往歴：睡眠時無呼吸症候群

生活歴：喫煙歴20本/日×40年間

現病歴及び経過：平成22年度の検診で撮影した胸部単純写真で右下肺野斑状影を指摘されたため鳥取県立中央病院呼吸器内科を初診した。胸部CTで右S8にpart solid GGOを認めた。初診時点で肺癌の可能性が高いと判断した。経皮的CTガイド下針生検では他葉への播種が危惧されたことから手術療法により一期的に診断・治療を行う方針とした。最終診断は肺腺癌pT1aN0M0病期IAであった。

症例2：50歳代、男性

主 訴：特になし(高CEA血症)

生活歴：喫煙歴30本/日×30年間

現病歴及び経過：毎年検診をうけているが平成22年度も含め胸部異常影を指摘されたことはない。平成22年度の検診でCEA 6.9ng/mlを指摘され鳥取県立中央病院消化器内科を初診した。胸腹部CTで右S5に10mm大の結節影を認めた。肺野結節からは診断できなかったものの、超音波気管支鏡ガイド下縦隔リンパ節生検で#4Rから腺癌が検出された。PET-CT所見などから縦隔リンパ節転移は単発であると判断しcT1aN2M0として手術療法を選択した。結果、複数の縦隔リンパ節転移が判明し胸腔内洗浄細胞診も陽性であった。最終診断は肺腺癌pT2aN2M0 R1 (cy+) 病期ⅢAであった。Ⅳ期相当として術後に薬物療法を行った。

考 察：肺野結節を指摘するために成書には左右個々の肺野読影と左右肺野の比較読影の2回読影するよう記載されている。ところが手順どおりの読影を行っていても見落としの可能性は常に存在する。今回の提示症例は2例とも胸部単純写真では指摘困難な肺癌症例であった。一般に胸部単純写真における異常陰影の見落としは、①陰影が小さい、②陰影が淡い、③正常構造(骨、肺血管、心・縦隔、横隔膜)に重なる、④胸水や胸膜肥厚に重なるなどが挙げられる。症例1は左右肺野の比較読影により胸部単純写真でかろうじて斑状影を指摘できたが、確信をもって指摘したわけではない。症例2は検診時・手術前の写真を再度確認しても病変を指摘できなかった。胸部単純写真は読影者の観察力と知識により、得られる情報量に大きな差がつく検査法であるといわれており、正常解剖の知識は読影者の基礎となるとされる。今後も精度向上を目指し努力を続ける必要がある。一方で、肺野末梢の小結節を発見した場合に診断法の精度向上も必要である。鳥取県全域における肺癌の治癒率向上を目指し、小型肺癌を確実に診断するための機器導入および人材育成を希望したい。

## 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 吹野俊介

症例：70歳代、男性

主訴：胸部異常陰影

既往歴：家族歴に特記すべきこと無し

生活歴：たばこ20本×30年、その後24年間禁煙中

現病歴：平成22年8月の検診で胸部X線写真の異常陰影を指摘された。同年9月に当院に精査目的で受診した。毎年検診あり、異常を指摘されたことはない。症状無し。

身体所見：165cm、53kg

検査所見：血液、尿、一般性化学検査に異常なし

腫瘍マーカー：CEA：21.7 SCC抗原：0.4 NSE：7.7 シフラ：1.0 ProGRP：25.8

呼吸機能検査：FVC：3.81L（112.6%）

FEV1.0：2.55L（66.9%）

平成22年の検診での異常陰影の指摘は右横隔膜下の1.5cm大のcoin lesionを異常陰影としてE1、精査となったが、ここは異常なしであった。平成20年、21年、22年の検診胸部X線写真（間接撮影）を数人で検討したが、肺癌となった左S8の横隔膜ラインに異常陰影を指摘することはできなかった。当院精査中の胸部X線写真（直接撮影）では、左横隔膜付近に線状の異常陰影が認められ、腫瘍による2次陰影と理解できる。しかし検診写真（間接撮影）では胃泡と相まって線状の異常陰影は指摘できない。右側なら肝臓の陰影内で線状陰影が指摘できたかもしれないと考察する。CTでは右横隔膜付近に異常なし、左下葉S8の横隔膜と接する面に腫瘍を認め、著明な胸膜陥入像がある。胸部X線写真でこれがはっきりと写っていないのは接線方向の胸膜陥入像が主体であることが原因と考察する。腫瘍は3cm大でc-T1bN0M0、気管支鏡検査ではclass 3bであったが、平成22年11月に手術施行。術中迅速診断で腺癌の診断を得て、胸腔鏡下左下葉切除術、ND2a-2：4、5、6、7、8、9、10、11、12、13施行した。左S8に2.4×1.3×1.1cmの腫瘍、中分化腺癌、乳頭腺癌、p-T2aN0M0、pl1d0e0pm0（pl0）、p-1B期ですが、micropapillary patternを30%も混在し、ly3+、v1+であり、予後が悪いことが予想される。術後経過は良好。

当院での新病期分類では1B期は66.3%の5生率であるが、本症例は予後が悪いことが予想され、1B期ではあるがプラチナベースの2剤併用の術後補助化学療法中である。

まとめ：1. 検診胸部X線写真で発見できなかった症例を報告した。

2. 左横隔膜面と接線方向に進展している肺癌であった。右ならば発見できたかもしれない。

3. 検診読影の要注意部位と考える。腫瘍による2次陰影（線状）を見逃さないようにすることが必要。

4. micropapillary patternを呈しており、1B期ではあるがプラチナベースの2剤併用の術後補助化学療法中である。

## 〔西部症例〕

鳥取大学医学部附属病院 胸部外科 窪内康晃

症例1：70歳代、男性

主訴：胸部異常陰影

既往歴：特記事項なし

生活歴：喫煙歴20本/日×60年

現病歴：定期的に検診を受けており、平成19年、21年はB判定であった。平成22年6月、本人の希

望で近医にて胸部X線写真を撮影したところ、異常陰影を指摘された。肺癌を疑われ当科受診した。

臨床経過：胸部X線検査で右中肺野に約10mm大の淡い腫瘤影認めた。胸部CTで右上葉S3に11×9mm大のspicula、pleural indentを伴う腫瘤影を認めた。FDG-PET検査で同部位にSUV max早期像1.18、後期像2.83と軽度異常集積認め、肺門リンパ節にも異常集積を認めた。肺癌を疑い胸腔鏡下右肺部分切除術を施行、迅速病理診断にて低分化型腺癌の診断であり、胸腔鏡下右上葉切除+縦隔リンパ節郭清術を施行した。腫瘍径は10×9×8mmであった。病理組織検査にて異型細胞が胞巣を形成しており、辺縁部には柵状配列、中心部には壊死像を認めた。免疫染色にてNSE、Synaptophysin、ChromograninAで陽性を示し、最終病理診断はLCNEC (large cell neuroendocrine carcinoma) でpT1aN1M0、病期IIAと診断された。

症例2：60歳代、男性

主 訴：胸部異常陰影

既往歴：糖尿病

生活歴：喫煙歴20本/日×40年

現病歴：これまで毎年検診を受診していた。平成21年6月検診の胸部X線検査でE1判定であった。精査の胸部CTで間質性肺炎を疑われ、定期的に外来通院していた。平成22年11月followの胸部CTで右肺S6に結節影指摘され、精査加療目的に当科紹介受診。

臨床経過：胸部CTで右下葉S6に12×6mm大のspicula、pleural indentを伴う腫瘤影を認めた。FDG-PET検査で同部位にSUV max早期像2.32、後期像2.86と軽度異常集積認めたが、その他の部位に異常集積は指摘されなかった。肺癌を疑い胸腔鏡下右肺部分切除術を施行した。術中迅速診断では中～低分化型扁平上皮癌の診断であった。腫瘍径は16×12×12mmであった。病理組織検査にて多数の核分裂像を認め、異型細胞が胞巣を形成していた。免疫染色にてNSE、Synaptophysin、ChromograninA、TTF1で陽性を示し、最終病理診断はLCNECでpT1aN0M0、病期IAと診断された。

考 察：毎年検診を受診していたにもかかわらず、検診以外の機会に発見されたLCNECの2例を提示した。LCNECはHigh-gradeの神経内分泌腫瘍であり、小細胞肺癌と比較しても予後は同程度で予後不良な腫瘍である。LCNECは増殖速度が速く、T1症例でもリンパ節転移や遠隔転移を来していることが多いため、検診の対象としては適切とはいいがたいと考えられている。しかし、早期発見されれば予後が期待できるため、検診で小さな癌を発見する努力が必要である。また検診間であっても注意深く胸部X線写真を読影する必要がある。

## 4. 乳がん検診症例研究会

日 時 平成22年 8 月21日 (土) 午後 4 時～午後 5 時35分

場 所 鳥取県健康会館

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取県立中央病院 松 村 安 曇

症 例：短期間で石灰化病変が増大した乳癌の 1 例

50歳代、女性

平成21年10月、MMG検診にて、右乳房の石灰化病変（カテゴリー 3）を指摘された。当院で再度MMG施行したところ、右乳房U領域に、淡く不明瞭、集簇性の石灰化（カテゴリー 3）であった。超音波検査では腫瘤を認めなかった。5ヵ月後に再診とした。再検で石灰化病変の増大を認めた。超音波検査では右C領域に6.0×4.7mm大の類円形、辺縁不明瞭（内部に高エコースポットを伴う）腫瘤を認めた。細胞診を行い悪性を強く疑うとの結果だった。以上より右乳癌の診断で右乳房温存術とセンチネルリンパ節生検を施行した。病理組織検査で、直径 6 mmのDCIS（Comedo type）でありly0、v0、NG3、ER（+）、PR（-）、HER2（3+）、pTisN0M0、stage 0であった。

5ヶ月の経過観察の間に石灰化病変の増大がみられたが、本症例のように短期間で石灰化病変が増大する場合は注意が必要と考えられた。

### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 田 中 裕 子

症 例：検診で発見された線維腺腫を伴う乳癌の一例

71歳、女性

乳癌検診の触診で左C領域の 2 cm大の腫瘤を指摘され当院受診した。マンモグラフィーでは境界明瞭な腫瘤を認め、超音波ではほぼ境界明瞭、楕円形の 2 cm弱の腫瘤を認めた。内部は等～低エコーで一部不均一であった。穿刺吸引細胞診を施行したところ、classⅢa（線維腺腫・乳腺症疑い）で経過観察の方針となった。5ヶ月後にしこりの増大を自覚し当院受診した。マンモグラフィーと超音波にて腫瘤は 5 cm大に増大しており、再度細胞診施行したところ、前回細胞診とは明らかに異なる細胞像でclass Vとなった。CTにて左腋窩に腫大リンパ節を認め、多臓器転移は認めず、T3N1M0 stageⅢAと診断し、左乳房切除+左腋窩リンパ節郭清術を施行した。摘出標本は線維腺腫と癌の二つの成分をもち、線維腺腫部より二次的に癌が発生したような所見も認めた。g、ly0、v0、核グレード 1、n-（0/19）ER強陽性、PgR強陽性、HER2 0であった。術後アロマターゼ阻害薬内服し再発なく経過中である。細胞診が良性の結果であっても、病歴・画像検査で良性と言い切れない事柄があれば追加検査または注意深い経過観察が必要であると考えられた。

### 〔西部症例〕

提出者：鳥取大学医学部器官再生外科学 石 黒 清 介

症 例：検診マンモグラフィで異常を指摘されるも精査では異常認めず、2年後の精査で乳癌と診断された 2 例

症例 1：57歳、女性

平成18年12月、検診で右乳房にカテゴリー 4（構築の乱れ）を指摘。前医で精査を受けるが、病変特定できず、平成19年 7 月当科紹介となる。エコーでは異常なく、経過観察と

なった。平成20年1月右乳輪の発赤で受診。マンモグラフィで右C領域にカテゴリー3のFAD、エコーで3.8mmの腫瘤を認め、細胞診とCTを行うが異常なしと診断。平成22年7月、検診で再度異常を指摘され当科受診。エコーで5.3mmの腫瘤を認め、細胞診で癌と診断。乳房温存術を施行。リンパ節転移なし。

#### 症例2：48歳、女性

平成20年8月、検診で右乳房のFADを指摘され当科受診。精査するも異常なし。平成22年8月、検診で右乳房にカテゴリー4の腫瘤を指摘され当科受診。1.5cmの乳癌と診断し、乳房温存術を施行。リンパ節転移なし。

レトロスペクティブにみればいずれもマンモグラフィで異常は指摘されるが、初診時の精査（エコー）では異常を認めなかった症例である。幸い2年経過していても早期であったが、このような症例のFollow-upをいかにすべきかが問題である。

## 5. 大腸がん検診症例研究会

日 時 平成22年 8 月28日 (土) 午後 4 時～午後 5 時35分

場 所 鳥取県西部医師会館

東・中・西部読影委員会より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：瀬川医院 瀬川 謙一

症 例：67歳、男性

主 訴：軟便、便秘。

既往歴：62歳より高血圧。

現病歴：平成13年より高血圧に対して当院で投薬外来治療をしていた。

平成18年春ころから、軟便と便秘を繰り返す症状が出現していた。平成18年 5 月22日、集団検診で大腸がん検診を受けるも便潜血は陰性であった。その後も同様の症状が継続するため、8 月22日、大腸内視鏡・注腸造影を施行した。大腸内視鏡では、肛門から10cmの部位に著しい腸管の狭窄を認め、大腸ファイバーが通過できなかった。観察できた腫瘍の肛門側は易出血性で、同部の生検を施行した。全体像を観察することは困難であった。注腸造影でもRSで著しい腸管の狭窄を認め、その肛門側には周堤の一部と思われる隆起を認めた。

病理診断：RSに全周性の2型の腫瘍を認める。組織型は中分化腺癌。

検 討：RSに全周性で2型の大腸癌が認められるにもかかわらず、便潜血が陰性であった。定量では136ng/ml、125ml/ml (カットオフ値：140ng/ml)。大腸がん検診を受ける以前から自覚症状があり、検診の時に質問表にも便通異常を本人が記入している。便潜血の両方の数値がそろってカットオフ値に近い場合、自覚症状の記入がある場合、便潜血が陰性であっても大腸内視鏡検査を考えた方がよいのではないか。

### 〔中部症例〕

提出者：鳥取県立厚生病院 川田 壮一郎

症 例：72歳、男性

現病歴：高血圧で近医通院中。平成21年10月 2 日 便潜血+/+であり、精査目的に当院受診。

検査所見：下部消化管内視鏡検査で横行結腸の肝彎曲付近に半周性の2型腫瘍を認めた。病変部からの生検で低分化腺癌 (por1) の診断であった。

注腸造影検査でも、同部に台状変形を呈した2型腫瘍を認めた。CT検査ではN2、H0の診断であった。

病理所見：横行結腸切除術施行された。

横行結腸、2型、低分化腺癌、ss、N2、M0 stage III c

検 討：大腸癌のうち98%は腺癌であり、その大部分を高分化・中分化型が占め、ある報告例では低分化型は切除大腸癌のうちの2%であったとされる。

低分化腺癌は腺管形成が不明瞭で、高分化・中分化に比べ予後不良である。

稀である2型の大腸低分化腺癌の症例を経験した。

〔西部症例〕

提出者：米子医療センター 木村 修

症 例：73歳、男性

主 訴：肛門出血

家族歴：特記するものなし

既往歴：胆石症、内痔核にて手術

現病歴：平成20年度まで、毎年、便潜血による大腸癌検診を受け、陰性であった。

平成20年末頃から肛門出血を認めたが放置していた。

平成21年12月 肛門出血が増量するため近医を受診、精査にてS状結腸に病変を認められ、手術目的にて当科紹介となった。

手術所見：平成21年12月 開腹手術を施行するに、肝、肺に転移を認める進行癌であり、S状結腸切除術を施行した。

病理所見：tub2、se、ly1、v1、n2、H1、LM1、stageⅣ

術後経過：XELOX→FOLFOX＋パニツムマブ施行中

検 討：肝、肺転移を伴う進行癌であったが、前年度までの便潜血検査が陰性であり、カットオフ値等に問題が有るかも知れないと思われ、今後、カットオフ値の検討が必要と考える。

## 6. 肝臓がん検診症例研究会

日 時 平成23年3月5日(土) 午後4時～午後5時50分

場 所 鳥取県健康会館

東・中・西部地区より症例を提示し、症例検討を行った。

### 〔東部症例〕

提出者：鳥取赤十字病院 満田 朱里

症 例：65歳、男性

主 訴：無し

家族歴：特記すべきことなし

生活歴：50歳までは多量飲酒あり、以降は少量。喫煙なし

既往歴：平成10年胃潰瘍、平成13年抗HP療法

現病歴：以前より人間ドックは毎年受けており、肝障害を指摘されていた。平成17年8月、肝障害に対し他院で自己抗体等の検査を受けるも肝障害の原因不明であった。平成21年8月の人間ドックにて腹部超音波検査にて肝硬変の所見あり、同年9月当科紹介となる。

現 症：身長165.7cm、体重71.8kg、BMI26.2、腹囲86.7cm、血圧126/78mmHg、胸腹部；特に異常なし。

入院時検査所見：WBC2300 $\mu$ l、Hb12.9g/dl、Plt6.5万/ $\mu$ l、T.bil1.7mg/dl、D.bil0.4mg/dl、AST93IU/l、ALT94IU/l、LDH195IU/l、ALP413IU/l、 $\gamma$ -GTP305IU/l、TP7.3g/dl、Alb3.2g/dl、ChE166IU/l、T.Chol138mg/dl、TG112mg/dl、HbA14.8%、FBS96mg/dl、IgG2331mg/dl、IgA923mg/dl、IgM149mg/dl、ZTT16.4KU、PT68%、ICG-R<sub>15</sub>43%、HBsAg(-)、HBcAb5.76s/co(低力価)HCVA(-)、HBV DNA(-)、抗核抗体(-)、抗DNA抗体(-)、抗ミトコンドリア抗体(-)、PIIP1.1U/ml、AFP7ng/ml、PIVKA II 9mAU/ml

肝障害度B、Child-Pugh B

### 画像検査：

肝Tc-GSA(アジアロ)シンチ；高度肝予備能低下

腹部超音波検査；肝硬変パターン、脾腫を認めた。また肝S8およびS6に高エコーなSOLを認めた。

ダイナミックCT；肝S8および肝S6に早期濃染はないが、後期相にてwash outする腫瘍あり。上部内視鏡検査；平成19年7月には食道静脈瘤を認めなかったが、翌年にはFOであるが、TEがECJ直上で目立つようになり、平成21年にはF1に発達。平成23年2月には食道静脈瘤はLs、F2-3、Cb、RC(+)RWM(+)の状態であった。

経 過：平成21年10月に腹部血管造影検査を行った。肝S8に16mm大、肝S6に20mm大のHCCを認めたが、腫瘍血管増生軽度のため、肝予備能を考慮し、検査のみで終了。後日両病変に対し経皮的エタノール注入法を行った。平成22年5月～6月に腹水貯留著明にて入院。入院中に肝S6のHCCの局所再発あり、右肝動脈よりTAIのみ施行。同年11月には経皮的RFAを追加した。最新の検査所見では肝障害度C、Child-Pugh Bである。

考 察：非B非C非アルコール性肝障害からの肝細胞癌症例であり、体重の増加とともに $\gamma$ -GTPの上昇がみられ、NAFLDが肝硬変の原因と考えられた。また血小板数、食道静脈瘤の経時的变化から、急速に肝の基礎病変が進行したことが伺えた。今後、NAFLD(NASHを



含む)からの肝硬変や肝細胞癌が増加することが予想され、ウイルス性肝炎のない肝障害  
に対しての肝癌検診も検討されるべきと考える。

[中部症例]

提出者：鳥取県立厚生病院 万代真理

腹部超音波所見の変化が診断に有用であった高分化型肝細胞癌の一例

鳥取県立厚生病院

消化器内科 万代真理、川田壮一郎、永原天和、山本 了、北村 厚、野口直哉、佐藤 徹、  
秋藤洋一

症 例：76才 男性

主 訴：肝腫瘍精査目的

現病歴：C型肝炎にて加療中、肝S6に12mm大の結節を認め、加療目的に入院となった。

既往歴：2型糖尿病

生活歴：飲酒、喫煙なし

入院時現症：結膜 貧血・黄疸を認めず。腹部 平坦、軟、圧痛なし。下腿浮腫なし。

入院時検査所見：WBC 3810/ $\mu$ l、RBC  $4.35 \times 10^4$ / $\mu$ l、Hb 13.7g/dl、Plt  $11.4 \times 10^4$ / $\mu$ l、PT  
93.3%、T.P 5.7g/dl、Alb 3.0g/dl、T. Bil 1.0mg/dl、AST 45IU/L、ALT 45IU/L、  
ALP 431IU/L、 $\gamma$ -GTP 71IU/L、HBsAg陰性、HCV-Ab陰性、AFP 31.2KIU/ml (L1  
98.1%、L2 0%、L3 1.9%)、PIVKA-II 16mAU/ml

腹部超音波および造影超音波：S6 12mm大の周囲が高エコーを呈し、内部は低エコーを  
呈する腫瘍を認め、造影超音波では血管相では腫瘍部は乏血性で、クーパー相では造影剤  
注入後10分では正常肝と等エコーを呈したが、20分後にはわずかだが低エコーを呈した。  
肝dynamicCTおよびプリモビスト造影MRI：S6に12mm大の動脈相・門脈相とも血流の低  
下を示す結節を認め、プリモビスト造影MRIの肝細胞相では、結節部に造影剤の取り込み  
を認めた。

高分化肝細胞癌の可能性を疑い、超音波ガイド下に腫瘍生検を施行。

病理組織：索状型、一部偽腺管型高分化肝細胞癌で、一部に脂肪化を伴っていた。

肝血管造影：血管造影では腫瘍濃染は認めず、CTHA、CTAPとも血流低下を示した。

治療経過：乏血性の腫瘍であり、12mmと小型であることより、ラジオ波焼灼術単独での治療を行い、  
術後の肝dynamicCTではmarginをもって焼灼できていると判断し、治療終了とした。

腹部超音波所見の変化：初めて腫瘍が指摘されたのが、平成20年4月で、7mm大の均一な高エコー  
腫瘍として描出されていたが、約半年後の10月には結節に変化はみられなかった。その半  
年後、平成21年3月12mm×6mm大と増大し、内部に2mm程度の低エコー部の出現を認めた。  
このとき行った肝dynamicCTでは肝内に腫瘍を指摘できず経過観察としたが、12月には  
12mm×10mm大とさらに増大し、内部の低エコー部は増大を認め、周辺のみ高エコーを呈し  
た。dynamicCTではこのとき初めて門脈相で血流低下する結節として認識されたが、振  
り返ってみると平成21年4月のCT時より門脈血流の低下が確認された。

結 語：肝腫瘍生検にて高分化肝細胞癌の確定診断を得たが、生検を行う動機付けとして、腹部超  
音波所見の変化が最も重要であると思われた。腹部超音波検査は肝腫瘍のスクリーニング  
を行う非侵襲的な基本的な検査であり、腫瘍が出現した際には注意深く経過観察を行うこ  
とが、肝細胞癌の早期診断に必要であると考えられた。

〔西部症例〕

提出者：山陰労災病院 西 向 栄 治

肝機能正常のHBVキャリアーに発症したHCC加療後にHBs抗原の陰性化した1例

山陰労災病院

消化器内科 ○西向荣治、岸本幸廣、岡本敏明、角田宏明、向山智之、神戸貴雅、謝花典子、古城治彦、川崎寛中

放射線科 井隼孝司

症 例：69歳 男性

主 訴：HBs抗原陽性

既往歴：生来健康。

家族歴：HBV母子感染。8年前、妻が急性B型劇症肝炎逝去、感染経路は不明。

生活歴：飲酒3合×30年、喫煙なし。

現病歴：肝炎検診でB型肝炎陽性を指摘され、平成18年11月に受診した。

初診時、肝機能は正常。

HBs抗原は22.6c.o.i.と非常に低力価の陽性。(通常は2000以上) また、HBc抗体陽性36.3% (200倍希釈)、e抗原陰性、e抗体陽性、HBV DNA (TMA) < 3.7LGE/mlで少ない。

腹部超音波は慢性肝臓病パターンを呈していた。半年毎の定期通院を行った。

2年後、腹部超音波で、肝S5にφ12mm大のSOLを指摘された。

腫瘍マーカーAFP、PIVKaII、線維化マーカーも共に正常範囲内であった。

HBVDNA定量 (リアルタイムPCR) は、1.8未満Logコピー/mlで極めて少なかった。

造影肝CTで造影効果の少ない早期HCCと診断した。肝ラジオ波焼灼療法 (RFA) を行った。治療翌年には、HBs抗原は2.6に低下し、治療2年後には、HBs抗原の陰性化0.8を認めた。

考 察：本例は、肝機能正常のセロコンバージョン後のB型肝炎キャリアーに、HCCが出現した症例である。健康キャリアーだが、肝炎ウイルスが肝細胞内に組み込まれ肝臓癌が発生する可能性がB型肝炎では否定できないことを患者、医師とも認識し、定期超音波により早期発見治療につながった。それに加え特徴的なのは、初診時からHBs抗原が非常に低力価であり、さらにRFA治療後2年でHBs抗原が陰性化したことであった。この事実は、HBs抗原が陰性化しても、HCCが出現する事実を示唆している。従って、B型肝炎キャリアーでは、HBs抗原が消失しHBs抗体が出現しても、HCCの発生する可能性があり、定期フォローの手間を惜しまないようにと痛感させられた症例であった。特にB型肝炎では、家族歴を聴取し、感染経路やウイルスの有無、発癌の可能性などの認識が、早期発見につなげるポイントであると考えられた。

## 7. 各地区がん検診症例検討会開催状況

事業名	東 部			中 部			西 部			合 計		
	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数	回数	症例数	参加者 延べ数
胃 がん	13	25	371	8	14	180	26	4,247	581	47	4,286	1,132
子宮がん	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
肺 がん	3	11	36	12	108	125	10	44	102	25	163	263
乳 がん	1	3	35	1	6	19	1	10	29	3	19	83
大腸がん	7	14	299	3	6	75	26	96	568	36	116	942
肝臓がん	5	12	259	5	12	118	4	7	39	14	31	416
合 計	29回			29回			67回			125回		

## Ⅳ. 各がん検診精密検査医療機関登録について

鳥取県健康対策協議会においては、市町村が実施する各種がん検診の精度管理、向上のため、登録基準を設け、各がん検診精密検査医療機関の登録を行っております。登録基準については、平成10年度鳥取県成人病検診管理指導協議会総合部会及び各がん部会並びに鳥取県健康対策協議会各がん対策専門委員会において、統一基準が決定し、これに基づき、各がん検診精密検査医療機関登録実施要綱等が設定され、平成11年度以降の登録更新から適用することとしております。

なお、登録手続きは従来と同様に、地区医師会経由で申請を受け付けます。ご不明の点がありましたら、鳥取県健康対策協議会事務局（☎0857—27—5566）へお問い合わせ下されれば幸いです。

### 記

#### 1. 改正の要点

- ① 平成11年度以降の登録更新から従事者講習会等の出席状況を点数化し、点数基準を満たしたもののについてのみ登録する。
- ② 登録基準点数は原則として、従事者講習会は5点、各地区症例検討会等、各ブロック学会等は3点とする。
- ③ 点数の取得は担当医師ごととし、申請書の様式は、出席状況が確認できるよう改正を行う。
- ④ 新規開業、県外転入等の場合についても同様に扱う。
- ⑤ 担当医師が非常勤の場合は登録を認めない。

#### 2. 次回の更新時期

次回の更新時期

##### ◎一次検診登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
子宮がん検診実施（一次検診）医療機関	H23. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	
肺がん一次検診医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	
乳がん一次検診医	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
乳がん検診一次検査（乳房X線撮影）医療機関	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	

##### ◎精密検査登録

名 称	現在の登録期間	次回更新手続き時期	従事者講習会等 受講点数対象期間
胃がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
子宮がん検診精密検査	H21. 4. 1～H24. 3. 31	H23年度中	H21. 4. 1～H24. 3. 31
肺がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
乳がん検診精密検査	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
大腸がん検診精密検査（注腸X線）	H23. 4. 1～H26. 3. 31	H25年度中	H23. 4. 1～H26. 3. 31
肝臓がん検診精密検査	H22. 4. 1～H25. 3. 31	H24年度中	H22. 4. 1～H25. 3. 31

## 鳥取県胃がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 精密検査として、内視鏡検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な胃内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 食道、胃内視鏡検査の臨床例が年間50例以上あること。
- 4 精密検査の結果判明後は、胃精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見胃がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 胃がん検診読影委員会が主催する症例検討会に出席すること。
- 7 担当医が、胃がん検診従事者講習会を過去3年間に1度は受講していること。
- 8 担当医が、胃がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。
- 9 関連の各種学会等への参加を通じて、常に胃がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
胃がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
胃がん検診症例研究会	東部 6回/年 西部 2回/年	3点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	3点
胃疾患研究会	東部 11回/年	3点
鳥取消化器疾患研究会	東部 2回/年	3点
消化器病研究会	中部 6回/年	3点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	3点
消化管研究会	西部 22回/年	3点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	3点
消化器内視鏡学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器病学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点
消化器集団検診学会（全国学会・地方会）	各 1回/年	3点

## 鳥取県子宮がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 コルポスコープに習熟した医師が対応できること。
- 2 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 3 検診の資料及び検診結果は3年以上にわたって整理、保存されること。
- 4 担当医が、日本産科婦人科学会専門医であること及び子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会を過去3年間に2回以上受講していること。ただし、やむを得ず、3年間のうち1回しか受講できなかった場合については、別途追加で開催する講習会に出席すれば登録条件を充たしたこととする。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度
子宮がん検診従事者講習会及び子宮がん検診症例検討会	全県 1回/年

## 鳥取県肺がん検診精密検査医療機関登録基準（平成20年度より適用）

- 1 胸部エックス線撮影、CT撮影が可能であること。
- 2 気管支ファイバースコープ検査が施行でき、かつBF下細胞診が可能であること。
- 3 精検のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見肺がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、肺がん検診従事者講習会を過去3年間に以下に指定する学会及び研究会に参加して、合計20点以上を取得すること。
  - (1) 鳥取県健康対策協議会主催の肺がん検診従事者講習会 10点（過去3年間に1回参加は必須事項）
  - (2) 各地区医師会主催の肺がん検診研究会 2点
  - (3) 日本肺がん学会総会 5点
  - (4) 肺がん検診セミナー 5点
  - (5) 日本肺がん学会中四国地方会 3点
- 8 関連各種学会等への参加を通じて、常に肺がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
肺がん検診従事者講習会	全県 1回/年	10点
東部地区肺がん検診従事者講習会	東・中・西部 各1回/年	2点
東部胸部疾患研究会（年5回）	東部 5回/年	2点
胸部疾患研究会（年12回）	中部 12回/年	2点
西部地区肺がん検診胸部X線勉強会	西部 5回/年	2点
日本肺がん学会総会（全国学会・地方会）	—	5点
肺がん検診セミナー（全国学会・地方会）	—	5点
日本肺がん学会中四国地方会（全国学会・地方会）	—	3点

## 鳥取県乳がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（「以下「乳房撮影装置」という。）及び乳房専用超音波検査装置を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。  
 なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適格な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。  
 なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 同一施設内で乳房造影、細胞診等の乳がん検査が可能であること。
- 5 精密検査結果判明後は、乳がん精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに当該市町村に送付すること。
- 6 発見乳がんに関して健対協が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 7 担当医は、県、健対協、医師会が主催する乳腺疾患関係の研修会、症例検討会に積極的に参加し、乳がん研究会等各種集会への参加を通じて常に乳がん検診に関する学術的情報の補足に努めることとし、できれば日本乳癌学会の認定医であることが望ましい。  
 また、乳がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に20点以上取得していること。ただし、「乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会」、「各地区症例検討会」、「鳥取県乳腺疾患研究会」以外の学会、研究会については、出席した事が証明できる書類等の写しを添付すること。
- 8 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

### （別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

### [附則2]

- 1 責任者の欠員を生じた医療機関は遅滞なく、地区医師会を通じ、健対協に継続の意志の有無を届け出ることとし、適格な責任者がなければ登録資格は喪失するものとする。
- 2 部会等の長は、これらの医療機関に対して、必要に応じて届出機器で撮影した乳房エックス線像の提出を求めることができる。
- 3 超音波診断装置は乳房疾患診断可能な周波数（MHz）の異なる複数のプローブが必要である。
- 4 健対協は、委員会の審議までに委員長の指名する2名の委員に届出機関の視察を依頼し、その結果を委員会での審議の資料とする。



## 鳥取県乳がん検診一次検査（乳房エックス線撮影）医療機関登録基準

- 1 医療施設内に乳房用エックス線撮影装置（以下「乳房撮影装置」という。）を有すること。
- 2 乳房撮影装置は、日本医学放射線学会の定める仕様基準を満たす（満たさない場合は、線量（3 mGy以下）及び画像基準を満たす）撮影装置を備えること。  
なお、上記の基準に合致しなくても、委員長の指名する委員によって審査をした結果、当該検査を実施するに適切な撮影装置であると判定され、委員会で承認された装置であればいい。
- 3 乳房撮影を行う診療放射線技師が1名以上いること。  
なお、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が開催する乳房エックス線検査に関する講習会を修了していることが望ましい。
- 4 上記の参加条件に不備、不足があった場合には登録更新を認めない。

## 鳥取県大腸がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 全大腸内視鏡検査が実施できるか又はS状結腸内視鏡検査及び注腸エックス線検査が実施できること。
- 2 生検組織の採取が可能な内視鏡検査装置を有し、かつ内視鏡検査に習熟した医師が対応できること。
- 3 内視鏡検査の臨床例が年間30例以上あること。
- 4 注腸エックス線検査を実施する場合には、次の基準にあうエックス線装置を有すること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 5 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 6 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 7 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 8 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 9 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 10 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 11 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

### (別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

## 鳥取県大腸がん検診注腸エックス線検査医療機関登録基準

- 1 次の基準にあうエックス線撮影装置で注腸エックス線検査が実施できること。
  - (1) 透視台の起倒が可能で、透視下の圧迫が可能であること。
  - (2) エックス線管は小焦点であること。(小焦点は0.3mm、大焦点は1mm以下であることが望ましい)。
  - (3) エックス線管球は短時間定格が充分大きく、撮影時の露出時間は0.05秒以下であることが望ましい。
- 2 注腸エックス線写真は各地区医師会に設置した注腸エックス線写真合同読影委員会で合同判読すること。
- 3 精密検査のために十分な経験と技術を持った医療担当者が確保されていること。
- 4 精密検査の結果判明後は、大腸精密検査紹介状の所定記載事項に結果を記入し、速やかに返送すること。
- 5 発見大腸がんに関して部会等が実施する事後調査、確定調査等に積極的に協力すること。また、がん登録についても同様であること。
- 6 精検症例を部会等に提出して討議できること。
- 7 担当医が、大腸がん検診従事者講習会等の受講点数を過去3年間に15点以上取得していること。ただし、大腸がん検診従事者講習会に1回必ず出席していること。
- 8 関連の各種学会等への参加を通じて、常に大腸がん検診に関する学術的情報や知見を得ることが望ましい。

(別記) 対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数
大腸がん検診従事者講習会	全県 1回/年	5点
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点
胃がん検診症例検討会	東部 6回/年	2点
胃疾患研究会	東部 11回/年	1点
消化器病研究会	中部 6回/年	2点
消化器がん検診症例検討会	中部 6回/年	2点
消化管研究会	西部 22回/年	1点
境港市胃及び大腸がん検診反省会・症例検討会	西部 1回/年	2点
山陰消化器研究会	全県 6回/年	2点
消化器内視鏡学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器病学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点
消化器集団検診学会(全国学会・地方会)	各 1回/年	2点

## 鳥取県肝臓がん検診精密検査医療機関登録基準

- 1 検診事業に関する調査・報告に積極的に協力すること。
- 2 検診の資料及び結果は3年以上保存されること。
- 3 精密検査として、少なくとも血小板検査、超音波検査、アルファフェトプロテイン（AFP）検査及びHCV-RNA検査（アンプリコア定性法）が実施できること。
- 4 次の基準にあう超音波検査機器を有し、かつ超音波検査に習熟した医師が対応できること。
  - (1) 走査方式は、電子コンベックス方式が可能であること。
  - (2) プロブは、128素子以上の高密度多素子プロブであること。
  - (3) 2系統以上の距離計測機能を有していること。
  - (4) ポラロイド撮影装置、プリンター、マルチフォーマットカメラ、電子媒体のいずれかの画像記録装置を有していること。
  - (5) 観察用モニターは、9インチ以上であること。

\*上記基準に合致しなくても本委員会が承認した装置であればよい。（承認装置は別紙を参照）
- 5 腹部超音波検査の臨床例が年間200例以上あること。
- 6 担当医が、肝臓がん検診従事者講習会等の受講点数を、過去3年間に10点以上取得していること。  
ただし、肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会に各1回必ず出席していること。

（別記）対象となる講習会等

講習会等の区分	開催頻度	点数	
肝臓がん検診従事者講習会及び症例検討会	全県 1回/年	5点	
山陰肝・胆・膵研究会	全県 1回/年	2点	（鳥根県開催も対象）
消化器疾患研究会	東部 2回/年	2点	
東部地区腹部超音波研究会	東部 4回/年	2点	
腹部画像診断研究会	中部 6回/年	2点	
中部肝疾患セミナー	中部 2回/年	2点	
肝・胆・膵研究会	西部 6回/年	2点	
消化器超音波研究会	西部 4回/年	2点	
西部腹部超音波研究会	西部 2回/年	2点	
肝がん撲滅運動講演会	全県 1回/年	3点	
山陰肝癌治療研究会	全県 1回/年	3点	※平成21年度より

（注） 上記以外の講習会等については、評価委員会及び専門委員会においてその都度協議することとする。

## 鳥取県乳がん医療機関検診一次検診医登録基準

- 1 登録資格は医師とし、専攻科は問わない。
- 2 乳がん検診従事者講習会等の受講数を過去3年間に12点以上取得していること。ただし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見がん症例検討会には、必ず1回は出席していること。
- 3 新規登録の場合は、次のいずれかを受講すること。
  - (1) 原則として健対協の主催する一次検診医講習会を受講すること。  
 なお、この講習会は、乳がん及び乳がん検診についての一般的知識、特に視診及び触診に重点をおいた診断法、触診の実技の習得を目的とし、乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会に引き続いて年1回開催するものである。
  - (2) (1)の講習会を受ける事ができなかった場合は、部会等の長が指名した部会及び委員会の医師系委員から(1)に準じた指導を受けること。この場合、指導した医師が、一次検診医として十分能力が得られたと認定した時点をもって終了する。
- 4 上記2、3にかかわらず、次に該当する場合は、登録できものとする。
  - (1) 日本乳癌学会認定の専門医、認定医
  - (2) 日本乳癌学会又は日本乳癌検診学会の役員

(別記) 対象となる講習会等

講 習 会 等 の 区 分	開 催 頻 度	点 数
乳がん検診従事者講習会及び鳥取県検診発見乳がん症例検討会	全県 1回/年	5点
日本乳癌学会	1回/年	5点
日本乳癌検診学会	1回/年	5点
各地区症例検討会	東・中・西部 各1回/年	3点
日本乳癌学会中国四国地方会	1回/年	3点
鳥取県乳腺疾患研究会	1回/年	3点
その他乳癌関連学会、研究会等	—	3点

## あ と が き

検診事業の運営上、重要な一面を占める精度管理については、鳥取県生活習慣病検診等管理指導協議会の各部会と鳥取県健康対策協議会の各検診対策専門委員会との合同会議で検討を重ね、会長の言葉にもあるように一層の向上に努めております。

鳥取県で実施している各種がん検診の実績を全て公表し、精度管理について評価、批判を戴くための報告書第17報です。

この報告書は単年度のがん検診の詳細な全体像も一覽いただけるものと考えます。この点においても参考にして戴ければ幸いです。

ただ、がん検診実績は追跡調査、予後調査まで含まれているため、前年度の実績内容となっておりますので、ご承知下さい。

編集にあたり、各部会長、各専門委員長の先生方には多々ご助言を戴きました。厚く御礼申し上げます。

発刊に際し、県医師会長岡本公男先生に御指導を戴きました。また、県医師会事務局の岩垣陽子さん、田中貴裕さんには何時もの様に強力なお手伝いを戴きました。

皆様に心から御礼申し上げます。

なお、鳥取県健康対策協議会は40周年を契機に、ホームページ(<http://www.kentaikyoutottori.med.or.jp>)を開設しましたので、是非ご覧下さい。

鳥取県健康対策協議会

理事 吉 中 正 人